田野町文化財調査報告書　第50集

高野原遺跡B・C区(4)

県営農地保全整備事業元野地区に
伴う元野地区遺跡発掘調査報告書

2004

崎郡田野町教育委員会

例　　言

1．本書は、平成６年度県営農地保全整備事業元野地区に伴い田野町教育委員会が実施した『高野原遺跡』発掘調査結果のうち、主に縄文時代と古墳時代の出土資料について報告するものである。尚、本事業は宮崎県中部農林振興局からの委託と国庫補助事業を得て実施した。

2．平成６年度の調査は次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会		教育長	鍋倉政信
	同	社会教育課	課長	前田久育
調整担当	田野町教育委員会	同	補佐兼係長	長友啓泰
庶務担当		同	主査	長友カツ子
調査担当		同	主任主事	森田浩史
		同	臨時調査員	白岩修
調査指導	宮崎県教育庁　文化課			

3．平成15年度の室内調査及び資料整理作業は、次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会		教育長	西田英介
	同	教育次長兼社会教育課長		新坂政光
		社会教育課	係長	後藤敏典
調整担当	田野町教育委員会	社会教育課	主査	森田浩史
庶務担当		同	副主幹	藤野愛子
調査担当		同	主査	森田浩史
		同	主任	金丸武司

4．室内整理作業の実施にあたっては、整理作業員等の補助を得た。また遺物の一覧表作成及び図版の作成は、委託作業員である永島江里子を中心におこなった。

5．本書の執筆及び編集は森田が担当した。また遺物の写真撮影は永島の補助を得て、森田が行った。

5．本書で用いた方位は磁北、標高は海抜高である。

6．本書に掲載した全ての資料は、田野町教育委員会文化財調査事務所が保管している。

本　文　目　次

第１節　調査に至る経緯……1
第２節　遺跡の位置と歴史的環境緯……1
第３節　調査の概要緯……4
第４節 縄文時代の遺構と遺物緯 ……4
第５節 古墳時代の遺構と遺物 ……63
出土遺物（土器）観察表……48～59

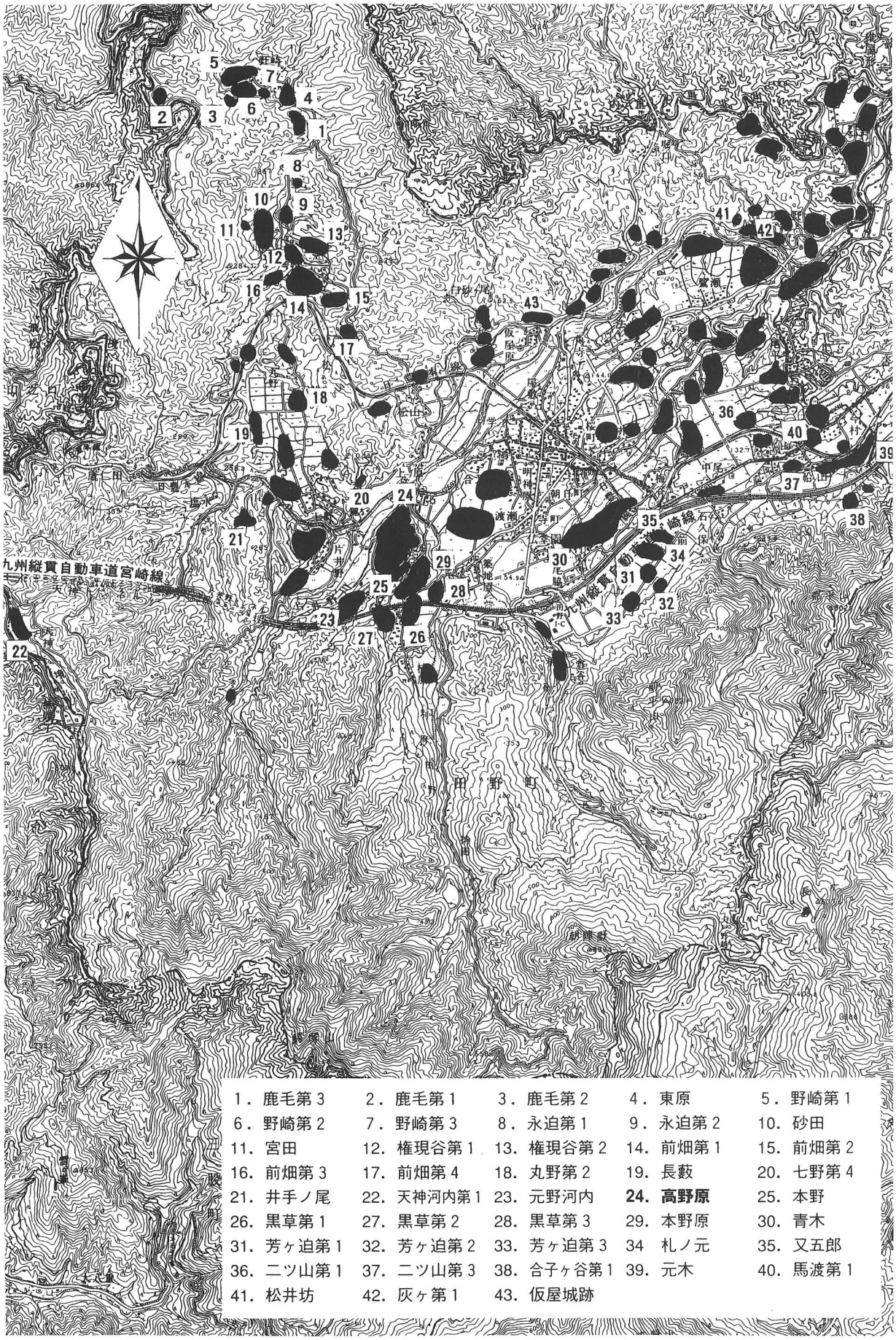
図面図版目次

第１図　町内主要遺跡分布図……
第２図　調査区周辺地形図……3
第３図　縄文時代早期出土遺物実測図……6
第４図　縄文時代前期出土遺物実測図……7
第５図　縄文時代前期末～中期初頭・後期出土遺物実測図……8
第６図　高野原遺跡Ｂ・Ｃ区遺構分布図……13
第７図　SA－02出土遺物地点図……15
第８図　SA－03・04出土遺物地点図……16
第９図　SA－07・09出土遺物地点図……17
第10図　SA－10出土遺物地点図……18
第11図　SA－05・06出土遺物地点図……19
第12図　SA－17・23出土遺物地点図……21
第13図　SA－21・22出土遺物地点図……22
第14図　SA－19出土遺物地点図……23
第15図　SA－20出土遺物地点図……25
第16図　SA－02・03出土遺物実測図……26
第17図　SA－03・04出土遺物実測図……27
第18図　SA－05・06出土遺物実測図……28
第19図　SA－06・07出土遺物実測図……29
第20図　SA－07・08出土遺物実測図……30
第21図　SA－08出土遺物実測図……31

第22図　SA－09・10出土遺物実測図……32
第23図　SA－10出土遺物実測図……33
第24図　SA－10～12出土遺物実測図……34
第25図　SA－14・15・17・19出土遺物実測図……35
第26～29図　SA－19出土遺物実測図……36～39
第30図　SA－20出土遺物実測図……40
第31図　SA－20～22出土遺物実測図……41
第32図　SA－23・SC－01出土遺物実測図……42
第33～37図　その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図……43～47
第38～40図　縄文時代出土遺物実測図(石器)……60～62
第41図　ST－03出土遺物実測図……65

写真図版目次

図版１・２　縄文時代早期の土器……67・68
図版３・４　縄文時代前期の土器……69・70
図版５　縄文時代前期末～中期初頭・後期の土器……71
図版６～39　縄文時代後晩期の土器……72～105
図版40・41　縄文時代の石器……106・107
図版42～44　地下式横穴墓ST－03の出土遺物……108～110



第１図　町内主要遺跡分布図

高野原遺跡Ｂ・Ｃ区の調査

第１節　調査に至る経緯

田野町元野地区を中心に、平成４年度から県営農地保全整備事業元野地区に伴う各種工事が計画・実施されている。

平成６年度も同高野原工区で整備事業が計画されたため、工区内の文化財の所在及び範囲を明らかにするための試掘調査が宮崎県文化課により実施された。その結果、かなり高密度の遺跡の所在が確認されたため、県中部農林振興局、県文化課、町農業整備課、町教育委員会、町土地改良区の間で、遺跡の保護と工事設計の見直し等について再三にわたる協議を行ったが、設計施工上どうしても文化財の消滅を免れない部分があり、やむをえず発掘調査による記録保存の措置を執ることとなった。県中部農林振興局と発掘調査の委託契約を締結し、同年９月８日から調査に着手した。

第２節 遺跡の位置と歴史的環境

田野町内には以前から多くの遺跡の所在が知られていた。また、近年の発掘調査や分布調査などにより各時代の生活の痕跡が徐々にではあるが明らかにされつつある。まずは町内に所在する各時代の遺跡について概略を紹介しておきたい。

旧石器時代はナイフ型石器が表採された三角寺地区の萩ケ瀬第２遺跡、前平地区の芳ケ迫第１・第３・札ノ元遺跡、七野地区の長藪遺跡、元野地区の元野河内遺跡、鹿村野地区のズクノ山第２遺跡などがある。芳ケ迫第１遺跡では集石遺構が検出され、その周囲からナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・彫器・掻器などが出土。また同第３遺跡でも集石遺構に伴った石核・剥片の他、剥片尖頭器が出土。長藪遺跡ではＡＴ上に堆積した褐色ローム層から石核・剥片などが出土。ズクノ山第２遺跡では、Ｆ地区で小林降下軽石層からさらに下位の褐色ローム層にかけて剥片などが出土している。この他、最近では平成１３年度に調査した元野地区の本野原遺跡からも少量ながら採集された。

縄文時代は草創期から晩期にかけての遺跡が、それぞれ濃淡はあるものの町内各地に点在する。草創期は札ノ元遺跡、芳ケ迫第３遺跡、塩水地区の井手ノ尾遺跡、八重地区の砂田遺跡、七野地区の七野第４遺跡などで発掘調査に伴い土器片などが出土。これらは、いずれも縄文時代早期の包含層から出土したものである。また、同時期の遺構は現在のところ確認されていない。早期は町内各地の台地や丘陵上にほぼ全域にわたって遺跡が所在するといっても過言ではない。しかし、各遺跡の遺構分布密度や遺物出土量には濃淡がある。主なところとしては、前出の芳ケ迫第１・第３遺跡、札ノ元遺跡、井手ノ尾遺跡、砂田遺跡、ズクノ山第２遺跡をはじめとして、前平地区の又五郎遺跡、天神地区の天神河内第１遺跡、二ツ山地区の二ツ山第１遺跡、八重地区の前畑第１遺跡、鹿村野地区の前野原第２遺跡・ズクノ山第１遺跡などがある。これらは、いずれも集石

遺構を伴うが竪穴住居跡が検出されたのは又五郎遺跡のみである。芳ケ迫第１・第３遺跡、札ノ元遺跡、二ツ山第１遺跡では集石遺構が高密度で検出されている。ズクノ山第２遺跡Ｅ地区では土坑と長円形の配石遺構が検出されており、中でも調査区の西端において検出された６基の土坑は比較的整然と配置されていることから、墓としての機能も考えられる。前期に入るとこれらの様相が一変し、遺跡数及び遺物出土量の極端な減少傾向がみられ、調査によって確認されたのは長藪遺跡、天神河内第１遺跡、本野原遺跡、船ケ山地区の元木遺跡、元野地区の本野遺跡、七野地区の丸野第２遺跡などにとどまる。本野原遺跡では竪穴住居跡が１軒のみ検出されている。中期もこれと同様の傾向がみられ、丸野第１遺跡、二ツ山第３遺跡、本野遺跡、本野原遺跡などにとどまる。二ツ山第３遺跡では円形の竪穴住居跡が、本野原遺跡では方形の竪穴住居跡が検出されている。後期になると、遺跡数は少ないながらも大規模な集落の造営が確認されはじめ、晩期に至ってから徐々に終息していく傾向がみられる。主なところとして丸野第２遺跡、砂田遺跡、本野遺跡、本野原遺跡、青木遺跡などがある。青木遺跡では配石遺構や貯蔵土坑が検出されたといわれる。丸野第２遺跡では円形の竪穴住居跡群と集石遺構が検出されている。また、本野原遺跡では多数の竪穴住居跡や環状に配置される土坑、道路状遺構、大型建造物の可能性がある土坑の並び、整地の痕跡などが検出され、全国的にも注目を集めている。この調査区より少し隔てて西側へは後期末から晩期の遺構群も所在することが確認調査により明らかになっている。その他、本野遺跡で後期末もしくは晩期初頭の土器を伴う竪穴住居跡群が、松山地区の吹田遺跡では分布調査時に確認された円形のソイルマークエリア内から粗製の黒色磨研土器が採集されている。

弥生時代になると、前期に限ってはその痕跡すらみられなくなるが、中期の後葉から後期にかけての集落が突如として展開される。高野原遺跡、本野遺跡、権現谷第１遺跡、元木遺跡、ズクノ山第１遺跡などである。このうち本野遺跡、権現谷第１遺跡は方形の竪穴住居跡のみで、他は日向型間仕切り住居が含まれる遺跡である。

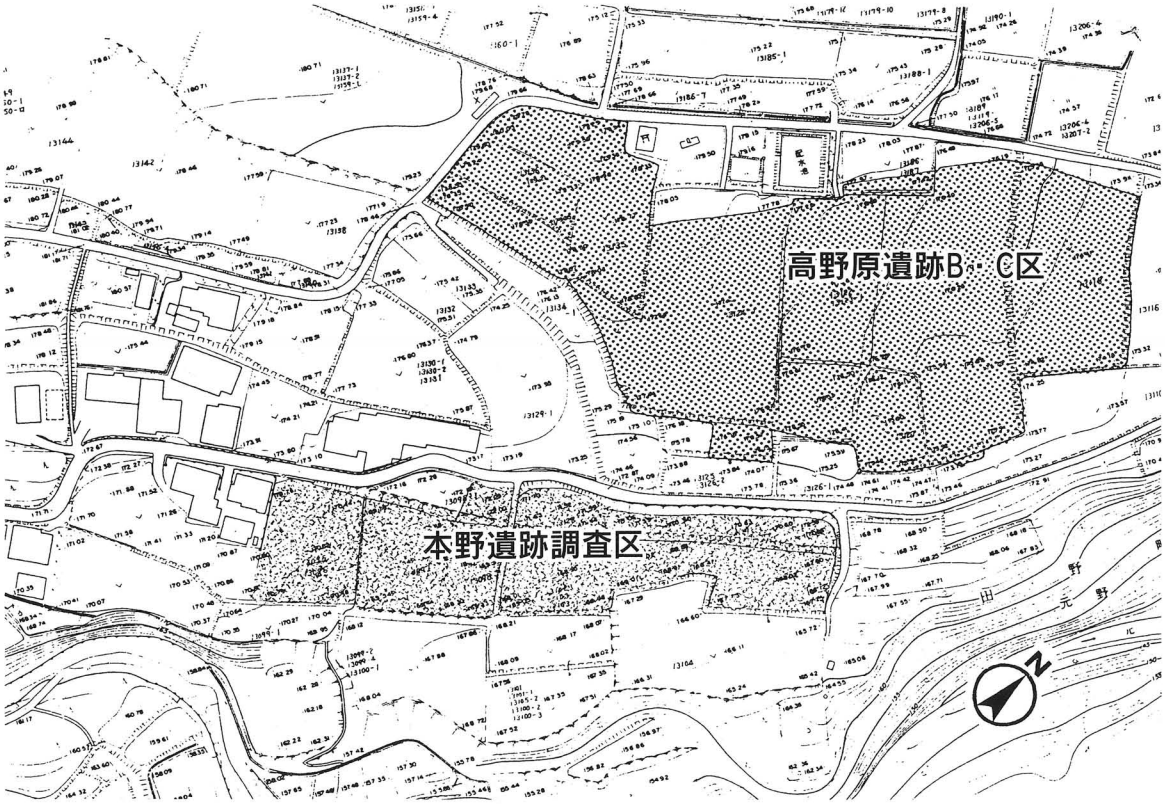
古墳時代の集落跡は現在のところないが、地下式横穴墓のみ高野原遺跡と灰ケ野第１遺跡で発見されている。灰ケ野１号地下式横穴墓では蛇行剣が、高野原１号地下式横穴墓では鹿角製刀装具付き剣が出土している。いずれにせよこの時代に至って、再度遺跡数が激減する傾向は否めない。

古代以降は本野原遺跡、船ケ山地区の合子ケ谷第１遺跡や本野原遺跡などで調査例があるほか、各地で同時代の遺物が採集されている。その分布は特に河岸段丘上に多く見られ、官道を含めた道の所在と集落のあり方の一端を垣間見ることが出来る。本野原遺跡では、緑柚陶器片が出土した。また、日向１６駅のひとつである救弐駅の所在地を田野町内七野地区あたりとする説もあるが、現在のところ明確にはされていない。

中近世になると、おそらく現在の集落域と重なって遺跡が所在するものと考えられる。発掘調査において確認されているのは、元木遺跡や天神河内第２遺跡のほか、元野地区周辺の畑田遺跡と本野原遺跡のみである。中世の山城については、既に消滅した梅谷城のほかヒダカン城、上ノ

原城、仮屋原城などがある。その造営には伊東と島津の戦いが背景にあったことは言うまでもない。仮屋原城は開墾や開発等の影響を受けることなく、ほぼ当時の地形を保っている。このほか、八重地区の前畑第１遺跡では研掘りの溝も検出されている。

高野原遺跡が所在する元野地区周辺は、鰐塚山系からの豊富な水源の恩恵を受け、各時代の遺跡が点在する。中でも高野原遺跡と本野遺跡のある広大な台地上には縄文時代中期から後・晩期と弥生時代の集落跡、古墳時代の地下式横穴墓の分布がみられ、元野川を挟んだ対岸の本野原遺跡とならび、縄文時代早期を主体とする町内の他の遺跡分布エリアと比較して、卓越した内容である。当時の田野盆地内における中心的な位置を占めるエリアであったとも想定されよう。今回報告する高野原遺跡Ｂ・Ｃ区は台地南東部の標高約173ｍ～179ｍの地点にあり、町道を挟んだ南側の標高約168ｍ～172ｍの地点にある本野遺跡に隣接した位置にある。



第２図　調査区周辺地形図

第３節　調査の概要

高野原遺跡の南東部に位置するＢ・Ｃ区では、東側において堆積の残存状態が良く、西側及び中央部から北側にかけて耕作による削平が顕著に見られる。調査は主にアカホヤ火山灰堆積層（以下、アカホヤ層という）上面における遺構検出を目的として行った。東側ではアカホヤ層と耕作土層の間に黒色土層が堆積しており、縄文時代晩期初頭の土器が多量に出土した。しかし、遺構は掘立柱建物とピット群を検出したのみで、竪穴住居は見られなかった。尚、ピット群の中には柵列状に並ぶものもある。ピット群の大半は、埋土が他の遺構に比べて明るい暗褐色を呈し耕作土に近似していることなどから、古くても弥生時代以降のものであろう。中央部においては縄文時代の竪穴住居跡が23軒と弥生時代の竪穴住居跡が14軒に加え、約50軒の掘立柱建物を含むピット群が検出された。時期についてはやはり特定できなかったが、埋土にそれほど新しい要素が見られないことや東側の遺物出土状況などから、縄文時代のものとした。西側についてはピット群が検出されたほか、地下式横穴墓が３基検出された。いずれも平入りタイプのもので、ST-03以外は既に崩落または破壊されている。ST-02は農地の深耕中発見された際に宮崎県が調査したものとみられる。同時期の遺物は耕作土中においても皆無であり、他の掘立柱建物やピット群はこれらに伴うものではないと判断される。

第４節　縄文時代の遺構と遺物

高野原遺跡においては、旧石器時代所在の可能性を残しながらも、早期から生活の場が展開される。各調査区において集石遺構等が散見されるが、これより南南西に位置する元野河内遺跡での早期遺構・遺物の出土量は、高野原を完全に凌駕している。これが前期・中期になると、やはり各遺跡で散見されるものの、遺物量に関していえば南側の本野遺跡が圧倒している。後期になると丸野遺跡の集落跡なども出現するが、規模において本野原遺跡が卓越し、その傾向は晩期まで継続する。このような状況下で、高野原遺跡では後期末～晩期初頭という、ごく限られた時期に集落が営まれていたことがわかった。近年は本野原遺跡で環状の構造を意識した集落跡が発見され、南九州における縄文集落の認識転換を迫られる結果となった。この環状という認識で高野原の遺構群を見ると、竪穴住居を主とする中心部と、それを取り囲むかのように環状あるいは螺旋状に分布する掘立柱建物群がイメージされる。さらに祭祀遺物的な性格が強い台付皿の出土も本野原遺跡との共通点として挙げられよう。いっぽう本野原遺跡と大きく異なる点は、掘立柱建物の外周に竪穴住居が分布しないこと、環状に巡る土坑群が存在しないことなどである。いずれも西日本では未だ類例が無いため、東日本の遺跡との比較検討をすべきであるが、両者の相違点は集落の持つ性格もしくは時間的な変遷を表しているものであろう。

以下、各時期の出土遺物と各遺構の概略について記述しておくが、出土遺物の詳細は一覧表にまとめた。また遺構実測図については、一部遺物の出土状況として掲載したものを除き、田野町文化財調査報告書第45集「高野原遺跡Ｂ・Ｃ区（２）」に掲載している。

① 縄文時代早期の遺物

調査区北側において行った確認調査で出土したものである。いずれも黒褐色硬質土層下の褐色土層内からの出土で、集石遺構も１基検出された。検出状況から、これらは同一時期のものと判断できる。

（１～20）はすべて貝殻条痕文を施すもので、口縁部には貝殻刺突文を施すもの（１・７・9･10）と貝殻押引文を施すもの（２～６・８・10）、地文のみのもの（11～13）とがある。

町内では鹿村野地区のズクノ山第２遺跡Ｅ区などで、県内では宮崎市の椎屋形第２遺跡や西都市の別府原遺跡などで類例が出土している。従来は前平式系土器として報告されていたものであるが、近年は独立した型式とする動きもある。ズクノ山第２遺跡Ｅ区では「別府原タイプ」として報告されている。本遺跡では確認調査のみではあるものの、このタイプが単独で出土したことは興味深い。その他、石鏃（263・266・270）と磨石（289・291）と角礫（290）のほか、全体の約７割以上に敲打痕が見られる用途不明石器（287）も出土した。（287）は受熱により赤変している。早期の遺物包含層はさらに東西南北への拡がりをみせたと思われるが、集石遺構や比較的疎らな礫の出土状況から、それほどの遺構の集中は無かったものと想定される。

② 縄文時代前期の遺物

曽畑式土器（21～40）と尾田式土器（41～44）に大別される。いずれも耕作土内もしくは竪穴住居内覆土に混入して出土したものである。

曽畑式土器（26～28・30・40）は縦横に施す沈線の組み合わせにより文様帯の区画を形成するものと見られる。（21・22・33～38）は縦位の沈線文を密に施したのち横位または不定方向の沈線を施している。口縁部（21～24・32～34）はその内面に横位の沈線文、端部に刻み目を施す。いずれも同型式の中で新しい段階に属するものである。

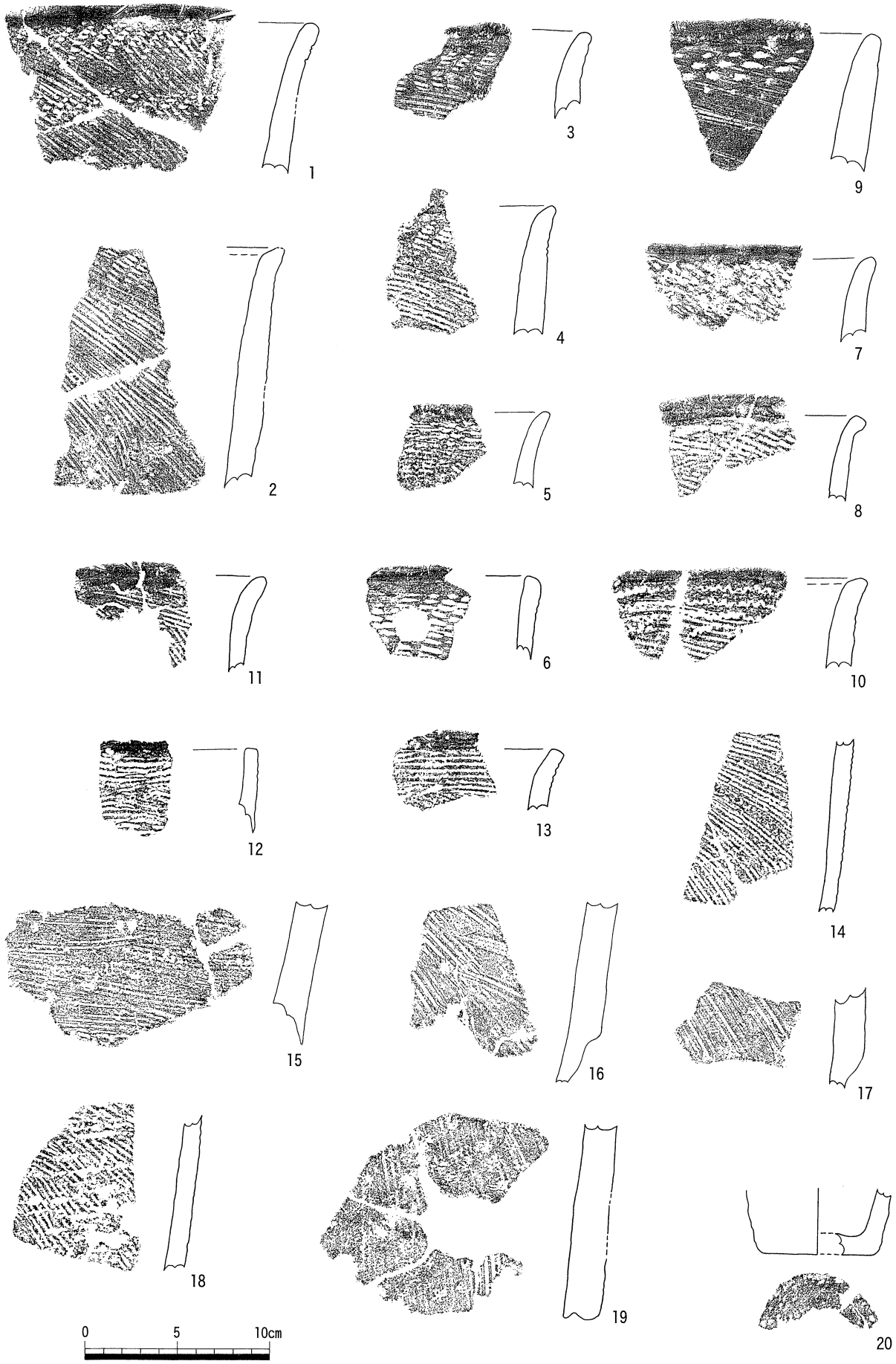
尾田式土器（41）は粗大な帯状押引文を縦位に施すものである。また上部には横位の刻目突帯文が２条まで確認できる。上部で緩やかにくびれて外反する形状が想定され、星塚遺跡出土の星塚式土器Ｉ類とされるものに似た様相を呈する。（42～44）は二枚貝による横位の施文と同じく粗雑な押引文を組み合わせるものである。

③ 縄文時代後期の遺物

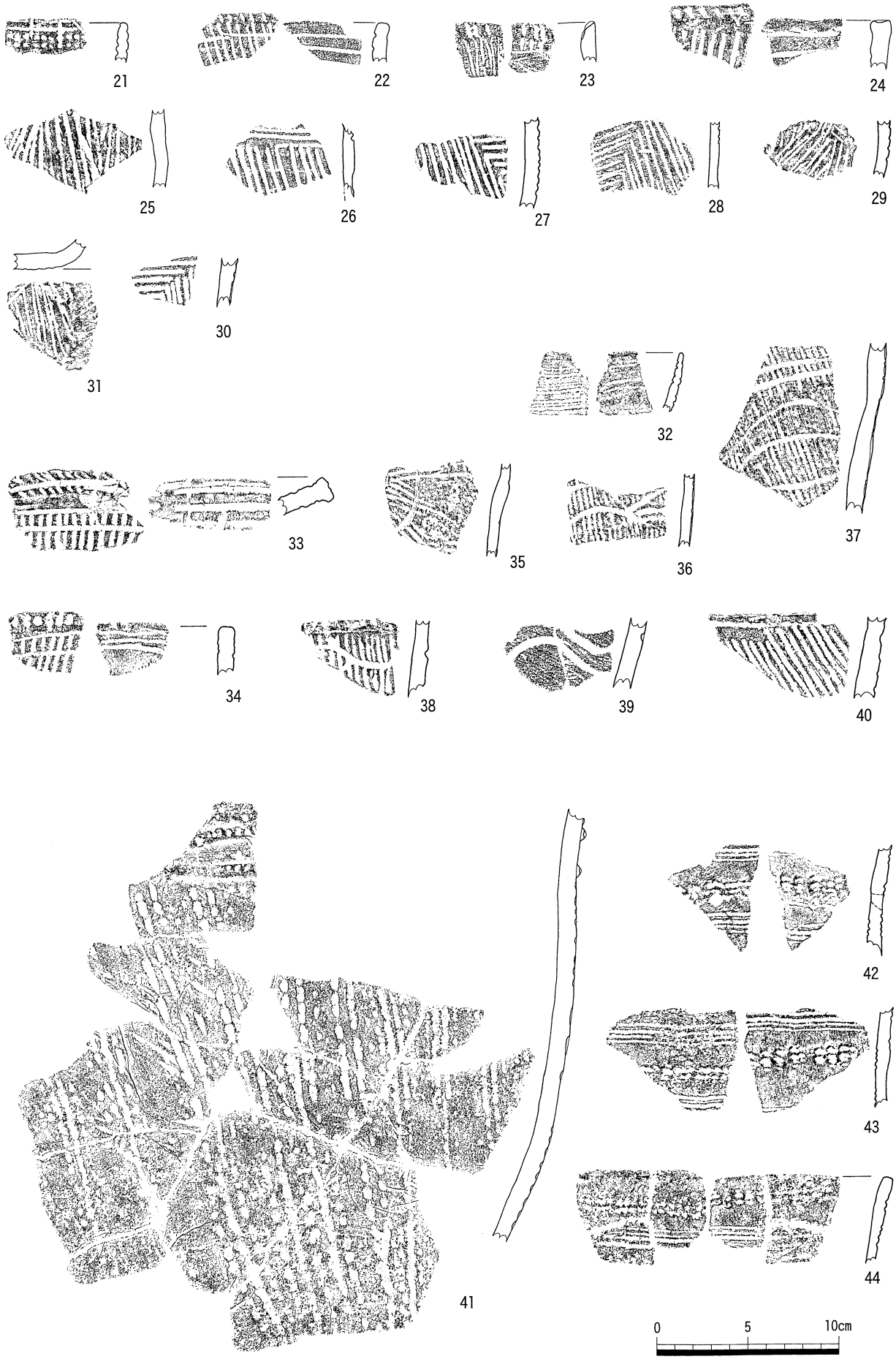
後期の丸尾式とされるもの（60～68）がある。丸尾式については、近隣の本野原遺跡や丸野第２遺跡でも出土しているが、本遺跡においては調査区北側と道路を挟んださらに北側の畑の耕作土内に限られており、客土によって持ち込まれたものである可能性も否定できない。口縁部が逆くの字になるタイプ（60～63）とくの字になるタイプ（65・66）がある。いずれも斜方向の条痕文を地文とし、貝殻腹縁による連続刺突文を施す。（60・61）はこれと凹線文を組み合わせたものである。

④ 縄文時代前期末～中期初頭の遺物

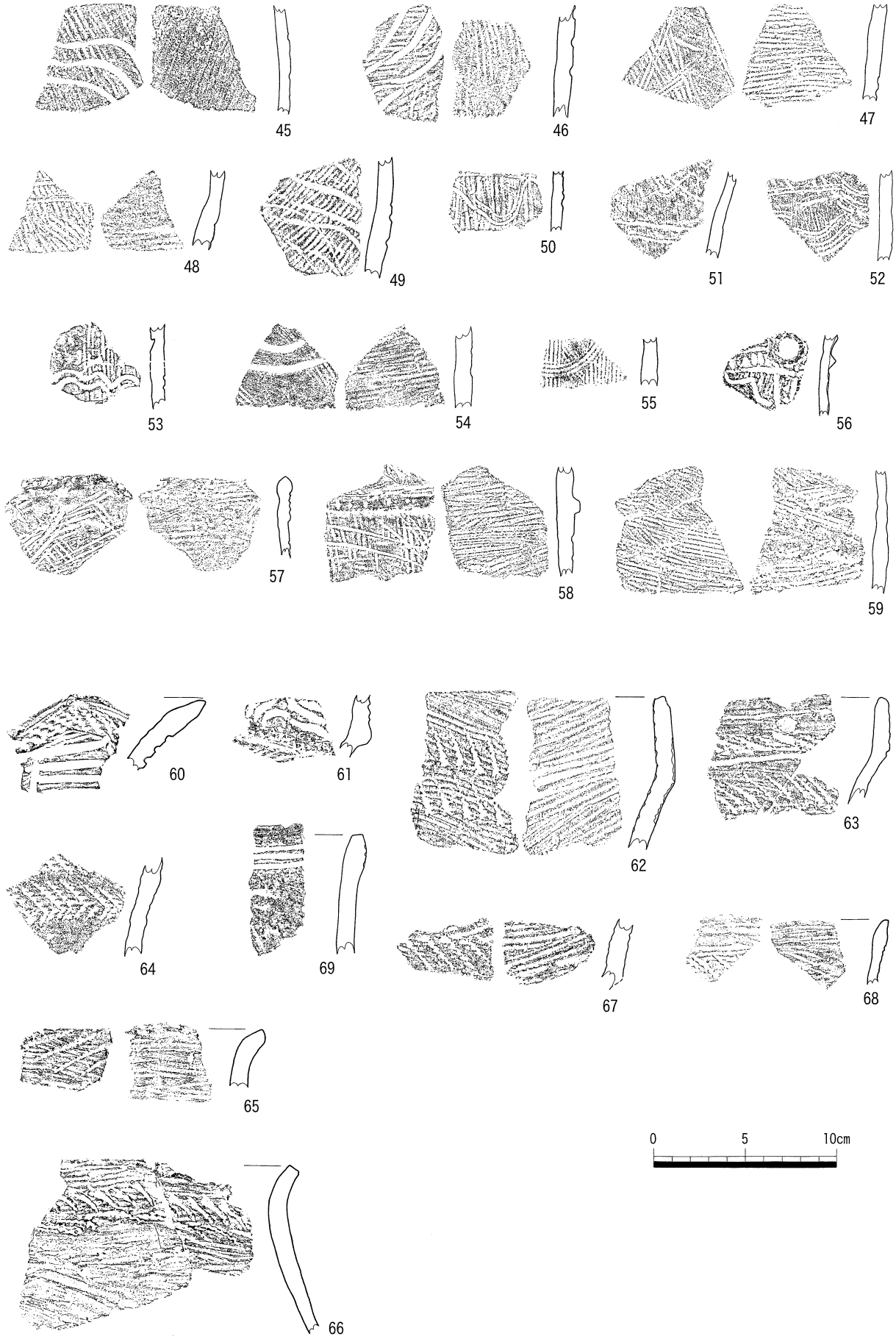
調査区内から、深浦式土器に相当すると見られる土器（45～69）も少量ながら出土した。斜位の条痕文と沈線文を組み合わせるもので、（56）は円形貼付文が施される。



第３図　縄文時代早期出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）



第４図　縄文時代前期出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）



第５図　縄文時代前期末～中期初頭・後期出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）

⑤ 縄文時代後期末～晩期前葉の遺構と遺物

本遺跡においては、弥生時代に次いでメインとなる時期である。竪穴住居跡（SA－01～23）やこれに伴う土器、詳細な時期判別は困難であるが掘立柱建物群などが検出された。竪穴住居跡は調査区の中央からやや北寄りを中心として23軒を検出、いずれも円形プランを呈するものが多いが、不整形な傾向がみられる。各遺構から出土した土器は、宮崎市平畑遺跡出土の一群と酷似している。掘立柱建物はこの中心をやや外れたエリアとその外周において、恰も環状を呈するかのように分布する。また、本野原遺跡で見られたような袋状土坑や配石土坑、配石遺構等は皆無であった。

(SA-01)

調査区のほぼ中心部に位置する標高176.4mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約6cm、外周は最長部で258cmを測る。やや歪な円形プランを呈する。床面に３箇所のピットを検出したが、住居に伴うものであるかは疑わしい。遺物は二次加工剥片（281）が出土したのみである。

(SA-02)

SA-01から南西へ最短約3.6m、標高約176.3mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約20cm、外周は最長部で451cmを測る。やや歪な円形プランを呈し、中央部に３箇所の柱穴も検出された。遺物は深鉢（70～72・74～76）のほか台付皿（73）と二次加工剥片（279）などが出土した。

(SA-03・04)

SA-02から北西へ最短約2.0m、標高約176.4mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約35cm。いずれもやや歪な円形プランを呈するが、SA-04については全体的な形状から見て、２軒の住居が重複しているものと考えられる。SA-03からは深鉢（77～82）や石匙（284）二次加工剥片（274）、04からは鉢形土器（83～85）と台付皿の脚部（86）などが出土した。（77）は膨らみを持つ胴部から緩やかに外反し、波状口縁となるタイプ。（80）は胴部と頸部の境をやや明瞭につくり、口縁部が外反するタイプ。（81）は口縁部内面に沈線文を施すタイプである。

(SA-05)

SA-06に切り込まれる状態で標高約176.4mの地点で検出した。やや歪な方形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約19cm、外周は最長部で470cmを測る。中心部に一箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（87～89）が出土した。（87）は口縁部が直立するタイプとみられる。

(SA-06)

SA-03の北に隣接した地点で検出した。歪な円形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約28cm、外周は最長部で592cmを測る。中心部と南北にそれぞれ1箇所の計３箇所に柱穴を有する。遺物は深鉢（91～93・95～97）と浅鉢（94）二次加工剥片（277）が出土した。

(SA-07)

SA-05から北西へ最短約16.0m、標高約176.7mの地点で検出した。歪なプランを呈する。検出面から床面最深部までは約30cm、外周は最長部で460cmを測る。中心部とその南西側にそれぞれ1箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（98～104・107）浅鉢（106）と台付皿（105）のほか、台石状の礫が1点出土した。

(SA-08)

SA-06から西へ最短約8.6m、標高約176.3mの地点で検出した。削平のために大半を消失しており正確なプランは定かではない。検出面から床面最深部までは約10cm、外周は最長部で450cmを測る。遺物は深鉢（108～115）が出土した。（108～112）は頸部内面に稜を持つ。（108）は他と比べてやや精製である。（111）には補修孔が見られる。

(SA-09)

SA-05から北西へ最短約0.3m、標高約176.6mの地点で検出した。円形のプランを呈する。検出面から床面最深部までは約26cm、外周は最長部で437cmを測る。中心部と北東側に各1箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（117～120）が出土した

(SA-10)

SA-08から北西へ最短約7.2m、標高約176.7mの地点で検出した。歪な円形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約28cm、外周は最長部で578cmを測る。中心部からやや外れた1箇所と北東側に1箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（121～132）のほか石匙（283）石鏃（272）などが出土した。（127・128）は頸部内面に稜を持つもので、（127）はやや直立気味の口縁部、（128）は口縁部が外傾し波状を呈するタイプである。

(SA-11・12・13)

SA-03から南西へ最短約7.3m、標高約176.7mの地点で検出した。それぞれが切り合った状態での検出で、北東側の約半分を畦反の切込みにより消失している。円プランを呈し、検出面から床面最深部までは約20cm。遺物は深鉢（133～141）が出土した。頸部内面に稜を持つタイプが大半である。

(SA-14)

SA-02から南西へ最短約1.8m、標高約176.3mの地点で弥生時代のSA-28に切り込まれる状態で検出した。プランは不明で柱穴も検出できなかった。検出面から床面最深部までは約7cm。遺物は深鉢（142～145）が出土した。

(SA-15)

SA-02から南東へ最短約5.3m、標高約176.3mの地点で検出した。やや歪な円形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約7cm、外周は最長部で320cmを測る。中心部に3箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（146～152）が出土した。

(SA-16)

SA-01から南東へ最短約12.0m、標高約175.6mの地点で検出した。削平による影響が著しく、プランは不明である。検出面から床面最深部までは約7cm。遺物は出土していない。

(SA-17)

SA-16から南東へ最短約3.2m、標高約176.0mの地点で検出した。380cm×350cmの隅丸の方形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約23cm。中央部と南側に柱穴を有する。遺物は深鉢（153～160）が出土した。

(SA-18)

SA-08から南西へ最短約20.6m、標高約177.2mの地点で検出した。265cm×193cmの歪な隅丸長方形プランを呈し、検出面から床面最深部までは約13cm。南西側に４箇所の柱穴を有する。遺物は出土していない。

(SA-19)

SA-18の南東に隣接した標高約177.1mの地点で検出した。歪な円形プランを呈するが、本来は拡張を行った結果か２軒の竪穴住居であった可能性がある。検出面から床面最深部までは約17cm、外周は最長部で575cmを測る。遺物は深鉢（161～176）と台付皿の脚部とみられる（177）のほか、石皿状の円礫が出土した。深鉢は大半が頸部内面に稜を持つもので、（168・169）は胴部が強く張るタイプである。

(SA-20)

SA-18から北東へ最短約8.0m、標高約177.0mの地点で検出した。380cm×370cmのやや歪な隅丸方形プランを呈し、検出面から床面最深部までは約20cmを測る。中心部に１箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（184～187）が出土した。いずれも頸部内面に稜を持つタイプである。

(SA-21)

SA-20から南へ最短約2.7m、標高約177.0mの地点で検出した。削平の影響から、原形を留めていない。遺物は深鉢（189）が１点のみ出土した。

(SA-22)

SA-21から南東へ最短約1.8m、標高約177.0mの地点で弥生時代のSA-31に切り込まれる状態で検出した。削平の影響から、原形を留めていない。遺物は深鉢（190～192）が出土した。（191）は内面に稜を持つが、ほぼ直立する口縁部をつくる。

(SA-23)

SA-22の南東に隣接した標高約177.0mの地点で検出した。歪な円形プランを呈し、検出面から床面最深部までは約18cm、外周は最長部で934cmを測る。遺物は深鉢（193～197）が出土した。

(SC-01)

SA-01から北東へ最短約19.6m、標高約176.1mの地点で検出した。72cm×71cmのほぼ円形プランを呈し、検出面から最深部までは約36cmを測る。他に類する遺構が見られないことから、本来は竪穴住居内の施設であった可能性がある。遺物は深鉢（198・199）が出土した。

(掘立柱建物群)

前述したように時期決定の根拠に欠けるが、分布状況や埋土等からこの時期に設定した。但し、以前の報告図面では時期不明のものとして扱う予定であったため、縄文時代の遺構としての認識が反映されおらず、再整理段階で追加や抹消及び変更したものもある。さらに庇付の構造や総柱構造及び規模など、多くの再検討すべき事項を露呈する結果となった。これらについては、建替えや拡張、重複が想定される。また、個々の柱穴が小ぶりであるなど本野原遺跡で検出された縄文時代後期の例と異なる点もある。本遺跡を含めた縄文時代集落の検討を行ううえで、再検証する作業は不可欠であると考えるが、まずは今後の課題とさせていただきたい。

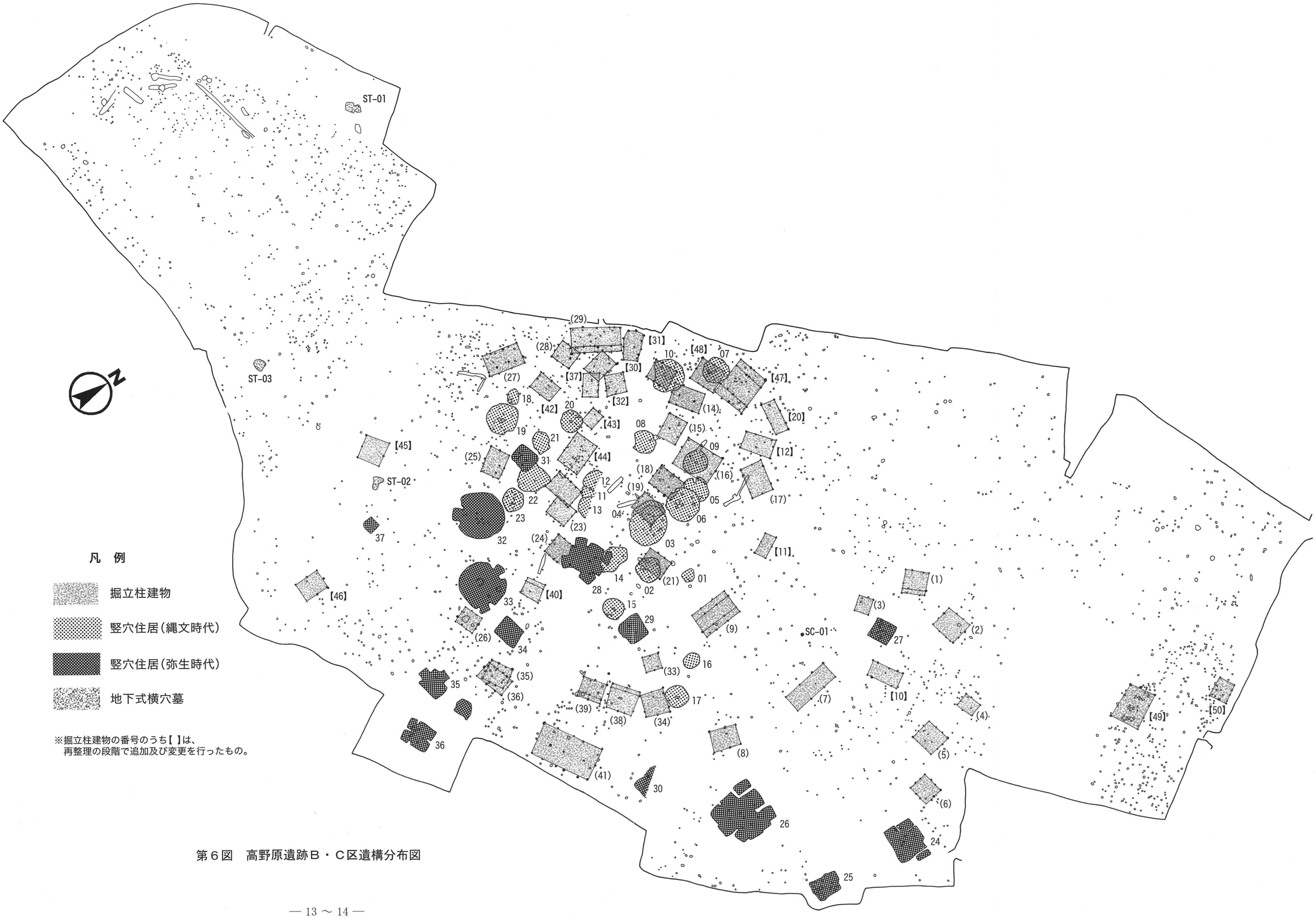
(その他の遺物)

耕作土除去や包含層掘り下げの段階で出土したもの、地点不明のもの、調査区内で表採されたものをここに含めた。(200) は台付皿で (220) は浅鉢、(201～219・221～257) はいずれも深鉢である。深鉢は (252～257) の一群を除いて、ほぼ大差は無いと思われる。これらの中で特徴的なものとしては、他よりも口縁部を短くつくる (201・226・227・229・230・251) が挙げられよう。

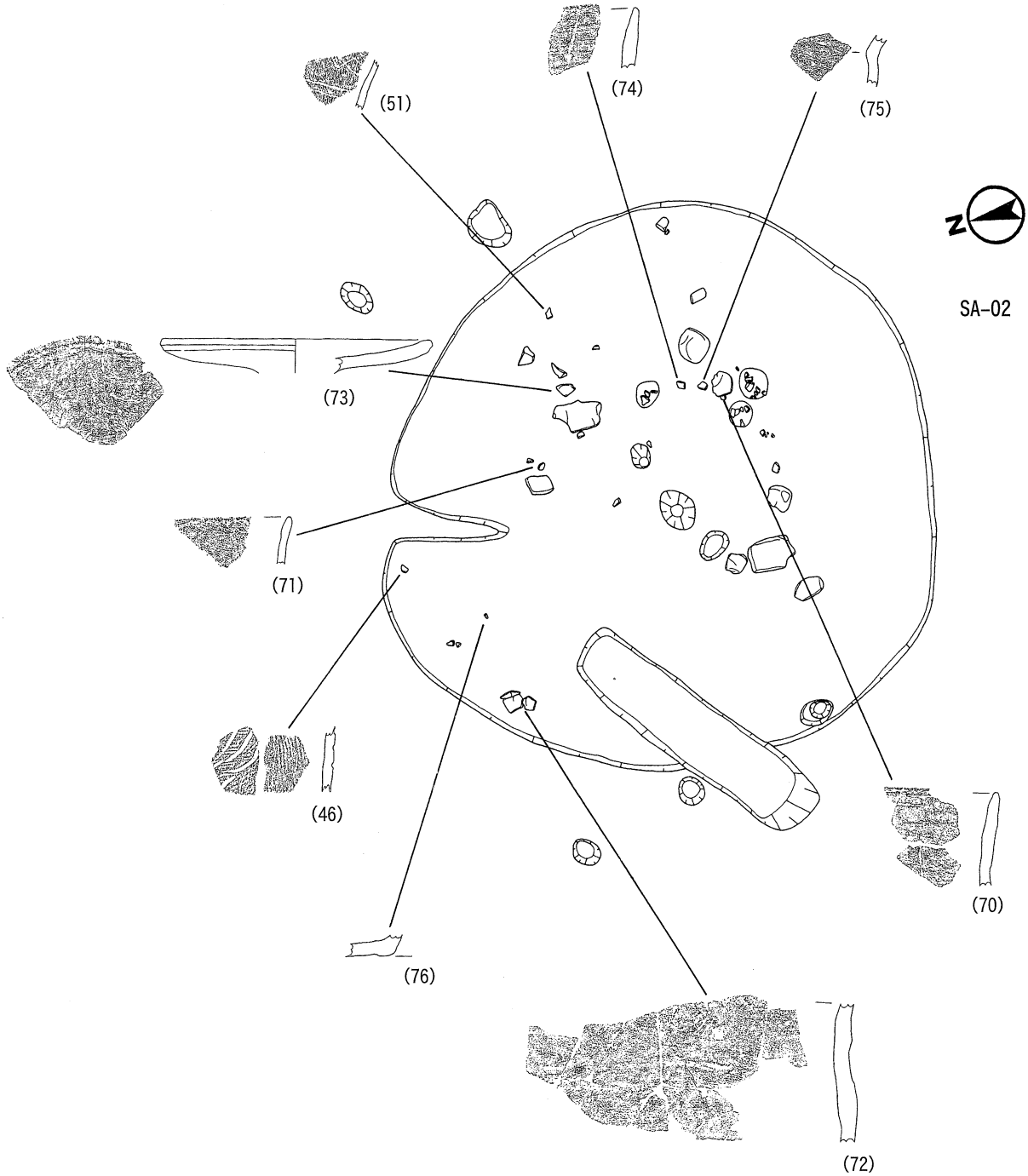
(258～262・264・265・267～269・271) は石鏃で、粗製の小ぶりなものが多い。(282) は石匙、(278) は二次加工剥片、(285) は切目石錘である。(275) は打製石斧で刃部を欠損している。

以上の後期末～晩期前葉の資料に関して、若干の補足を行っておきたい。(252～257) は三万田式～鳥井原式並行期に収まるものである。竪穴住居内からは出土していない。SA－03出土の (77) とSA－10出土の (128) は三万田式期に並行するもの、SA－03出土の (80) とSA－06出土の (94) は御領式期に並行するものである。遺構内出土遺物と他を含めてこの三万田式並行期～御領式並行期を外れる、まとまった資料が見られないことから、高野原遺跡の縄文時代住居群は、同期内において営まれたものと考えたい。これら遺物に関する所見は、宮崎県埋蔵文化財センター調査員の重留氏からご教示いただいた。

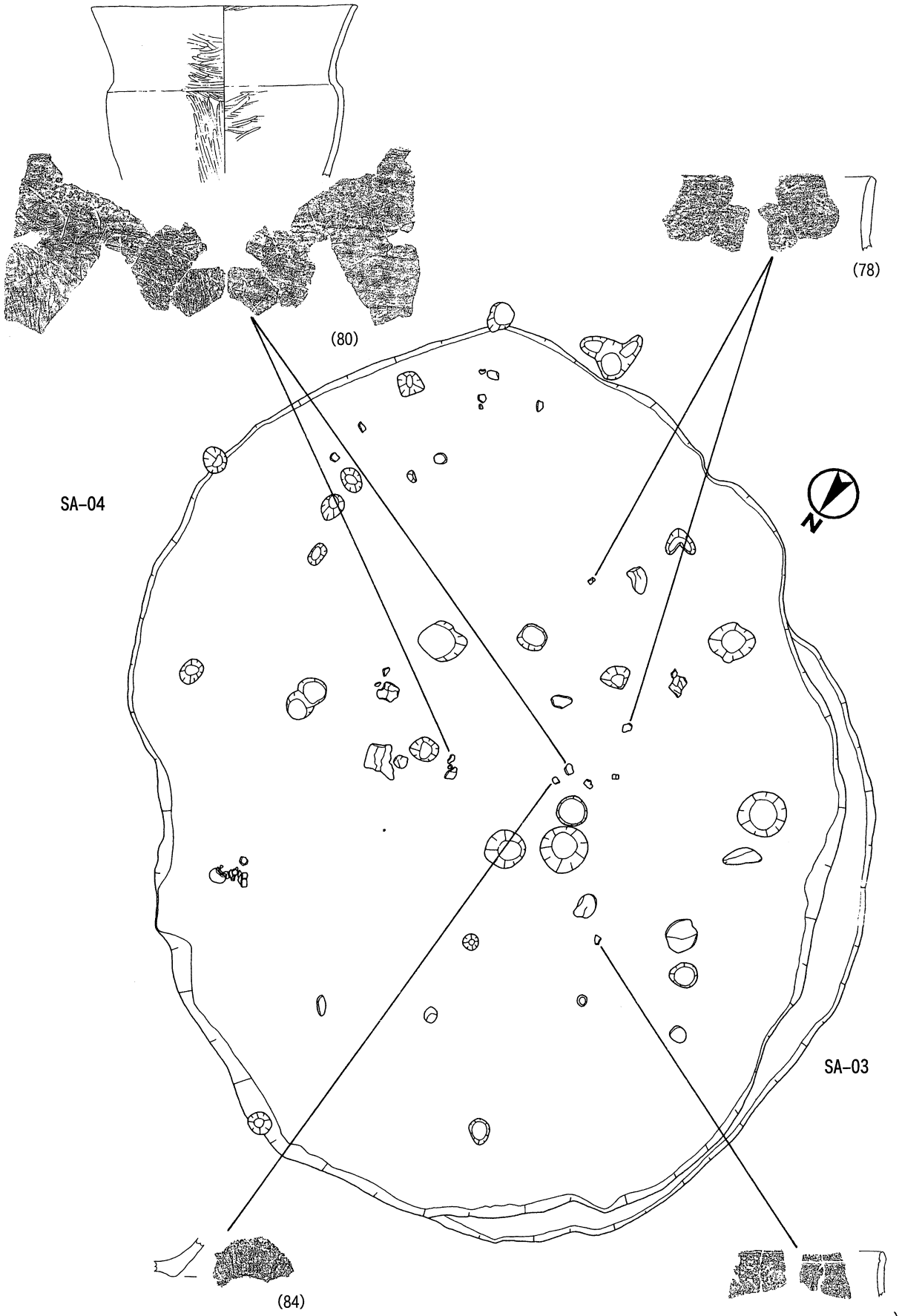
現在は本野原遺跡の国指定に向けた作業と並行して、同遺跡の調査報告書刊行作業を進めている。この、本野原遺跡と高野原遺跡の縄文集落は、河川を隔てた近隣に所在することから、両遺跡の時間的な流れを含めた位置付けを検証することは不可欠な作業である。本書で不十分であった多くの部分については、他の場を借りて補っていきたい。



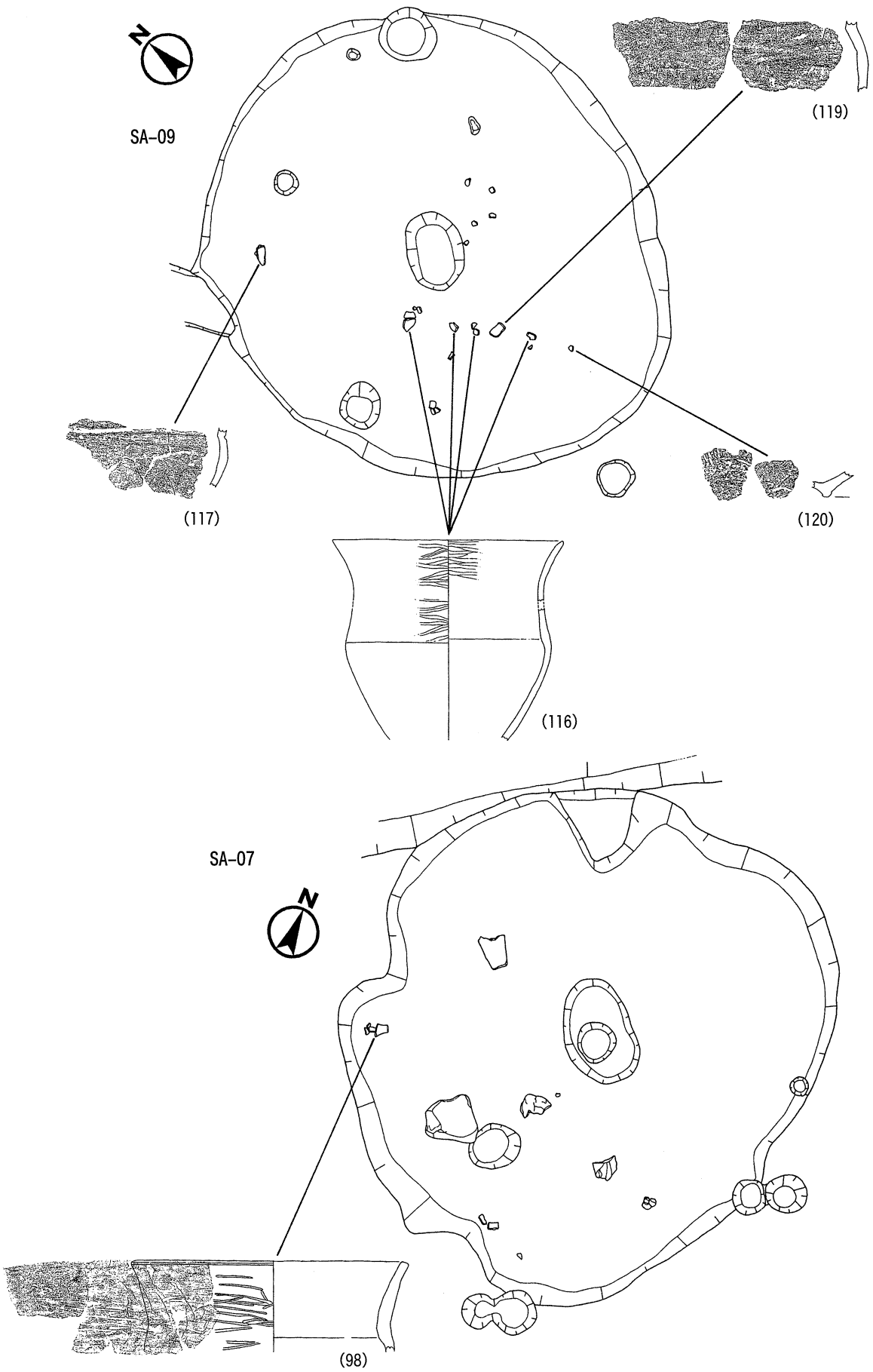
第６図　高野原遺跡Ｂ・Ｃ区遺構分布図



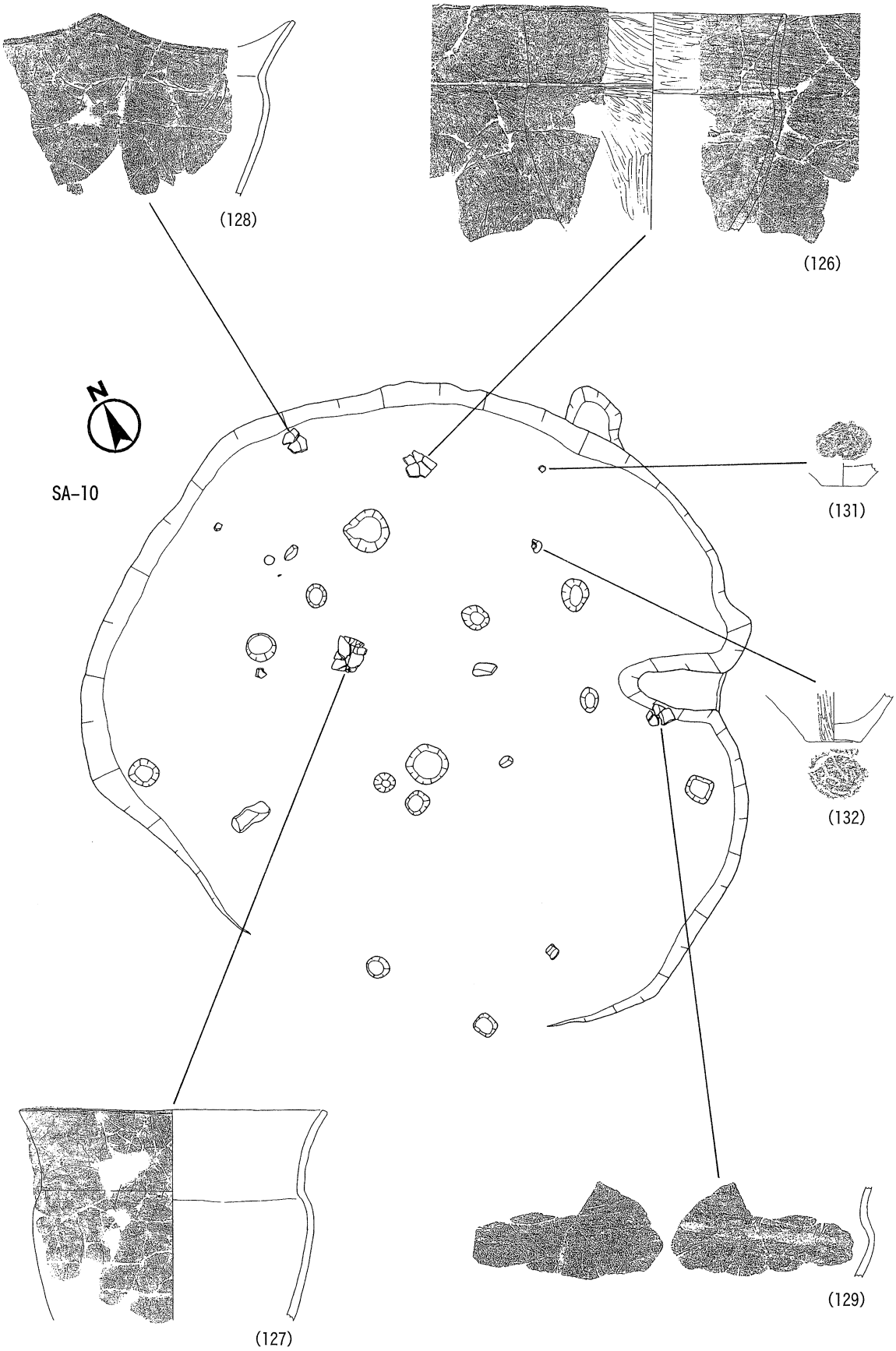
第７図　SA-02出土遺物地点図



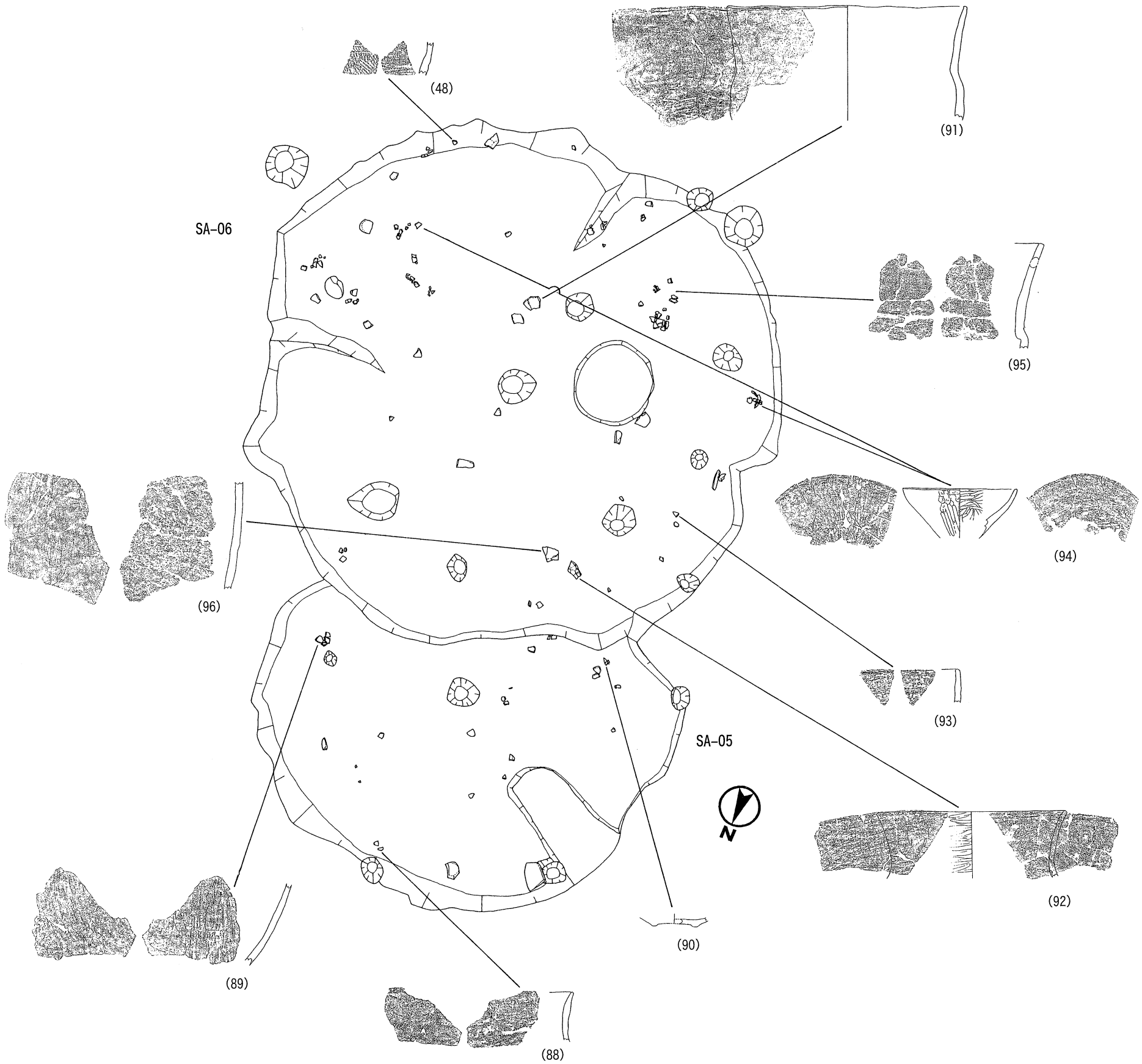
第８図　SA-03・04出土遺物地点図



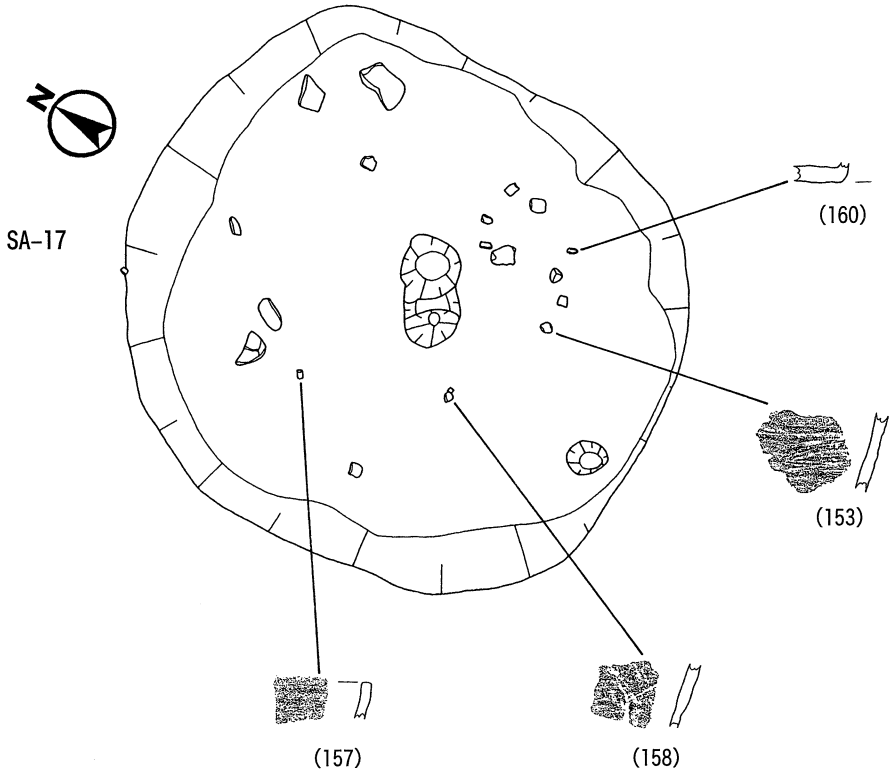
第９図　SA-07・09出土遺物地点図

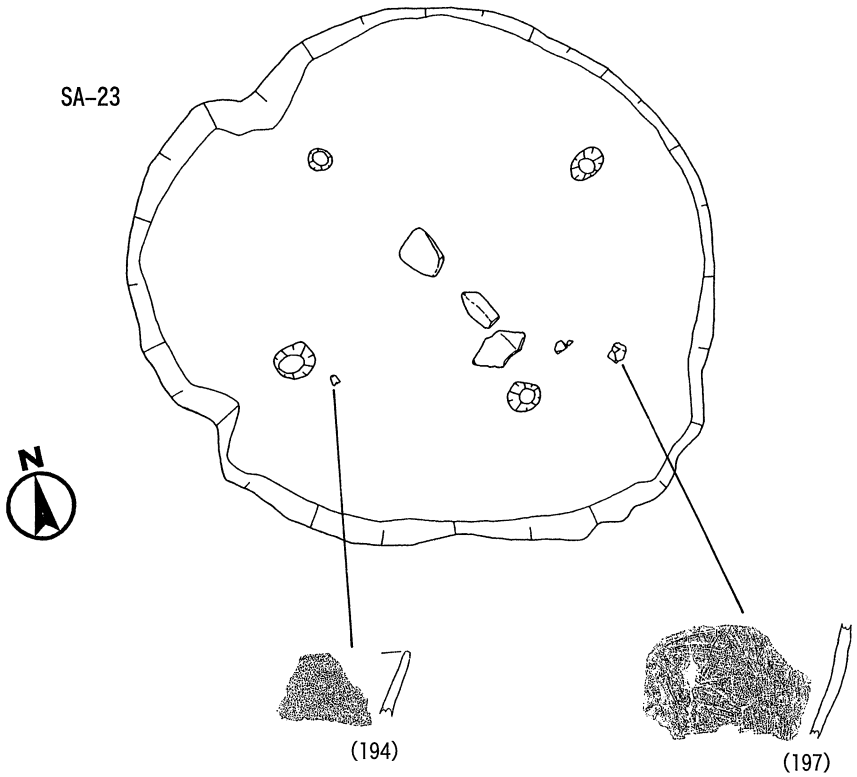


第10図　SA-10出土遺物地点図

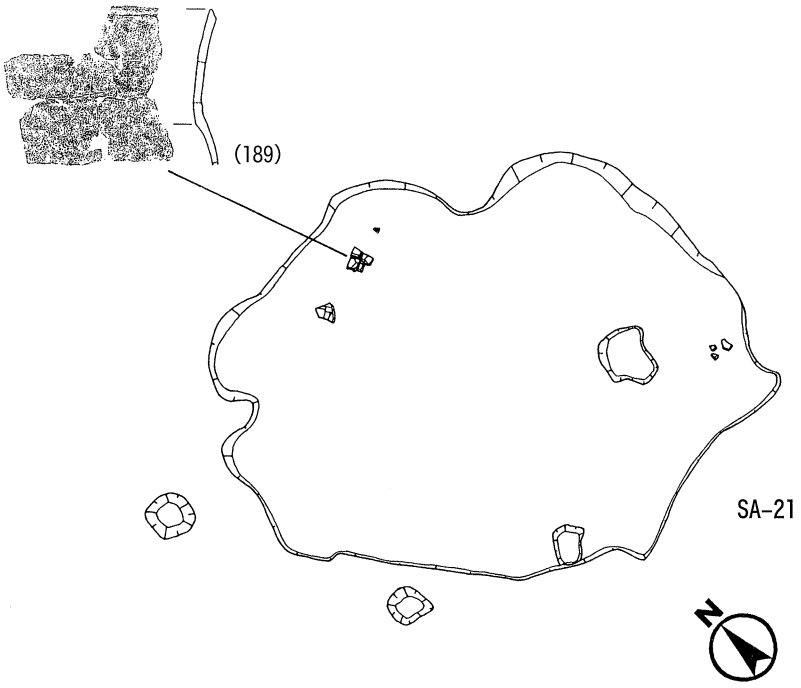


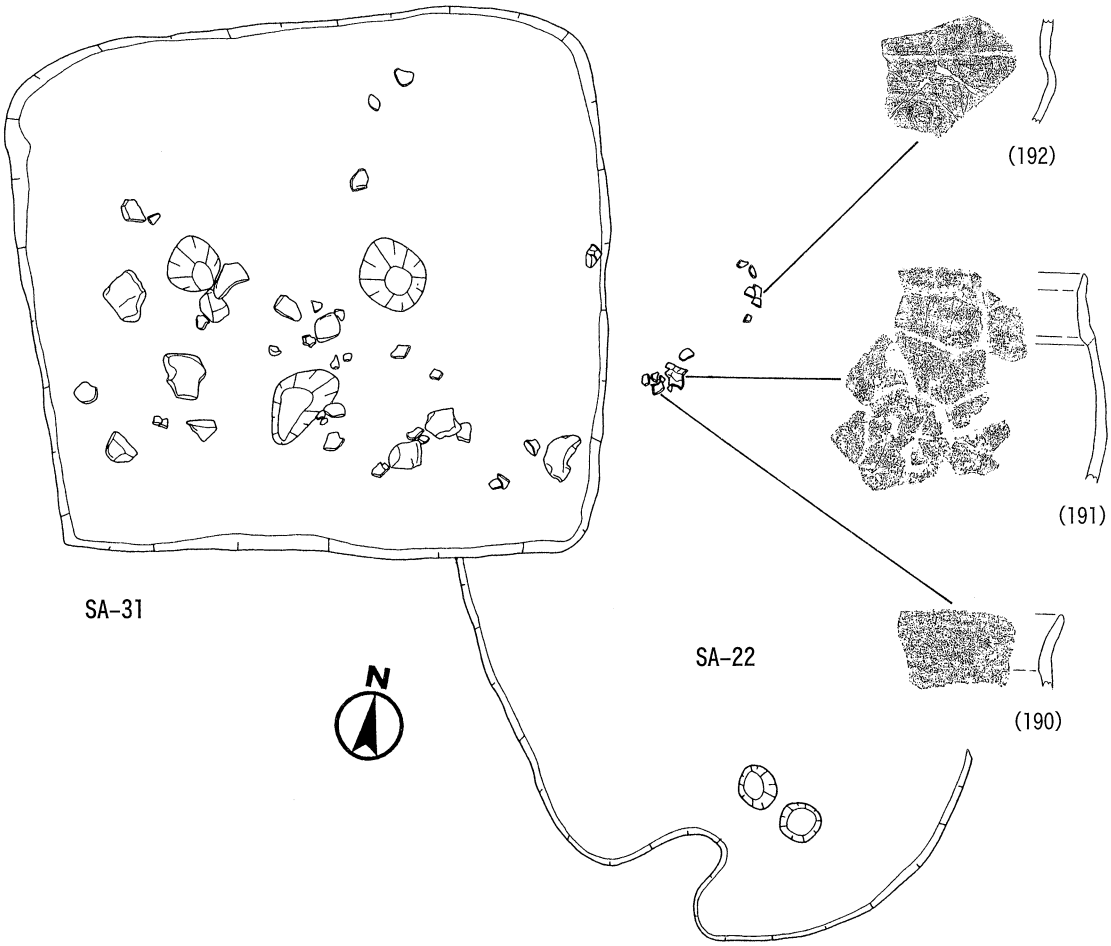
第11図　SA-05・06出土遺物地点図



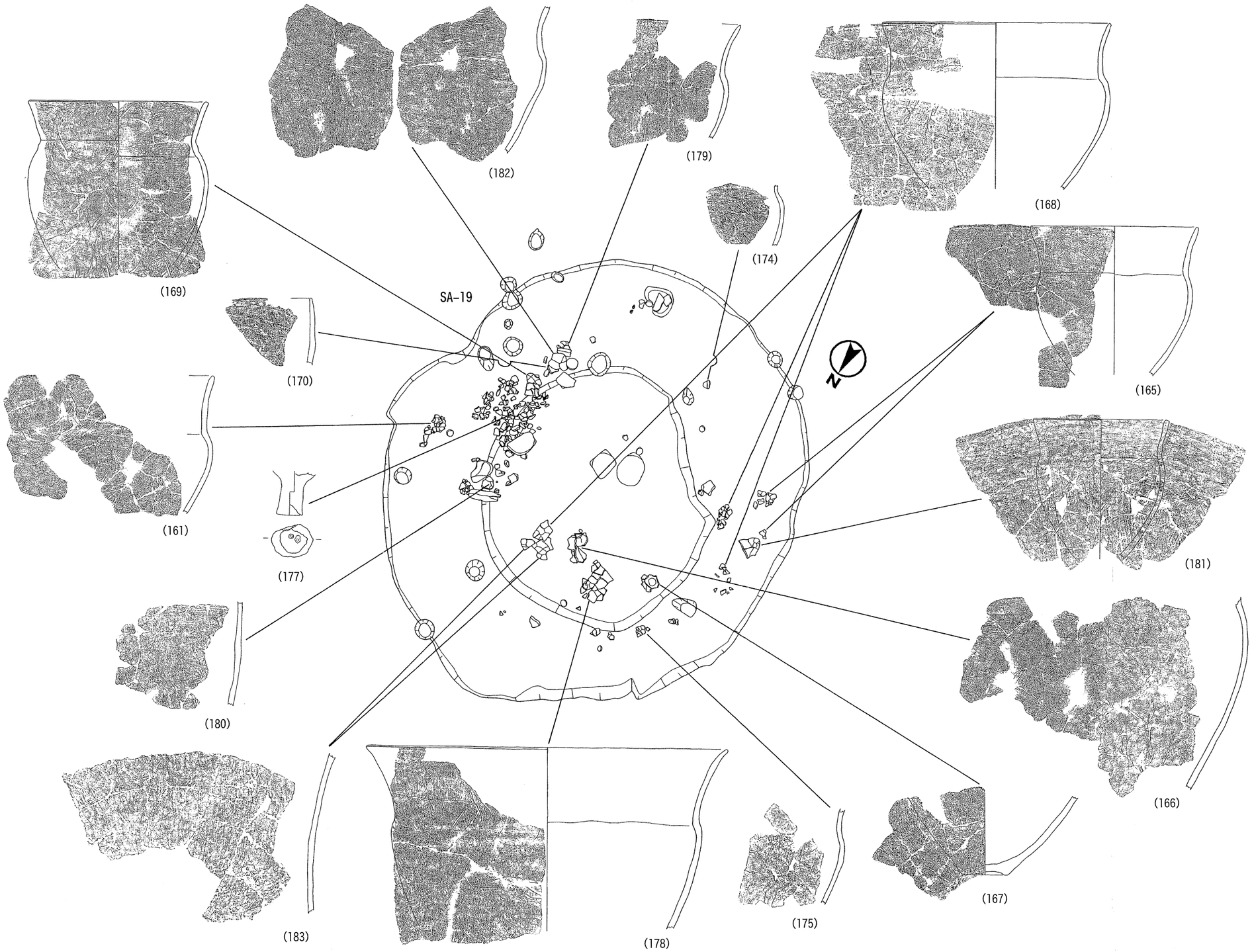


第12図　SA-17・23出土遺物地点図

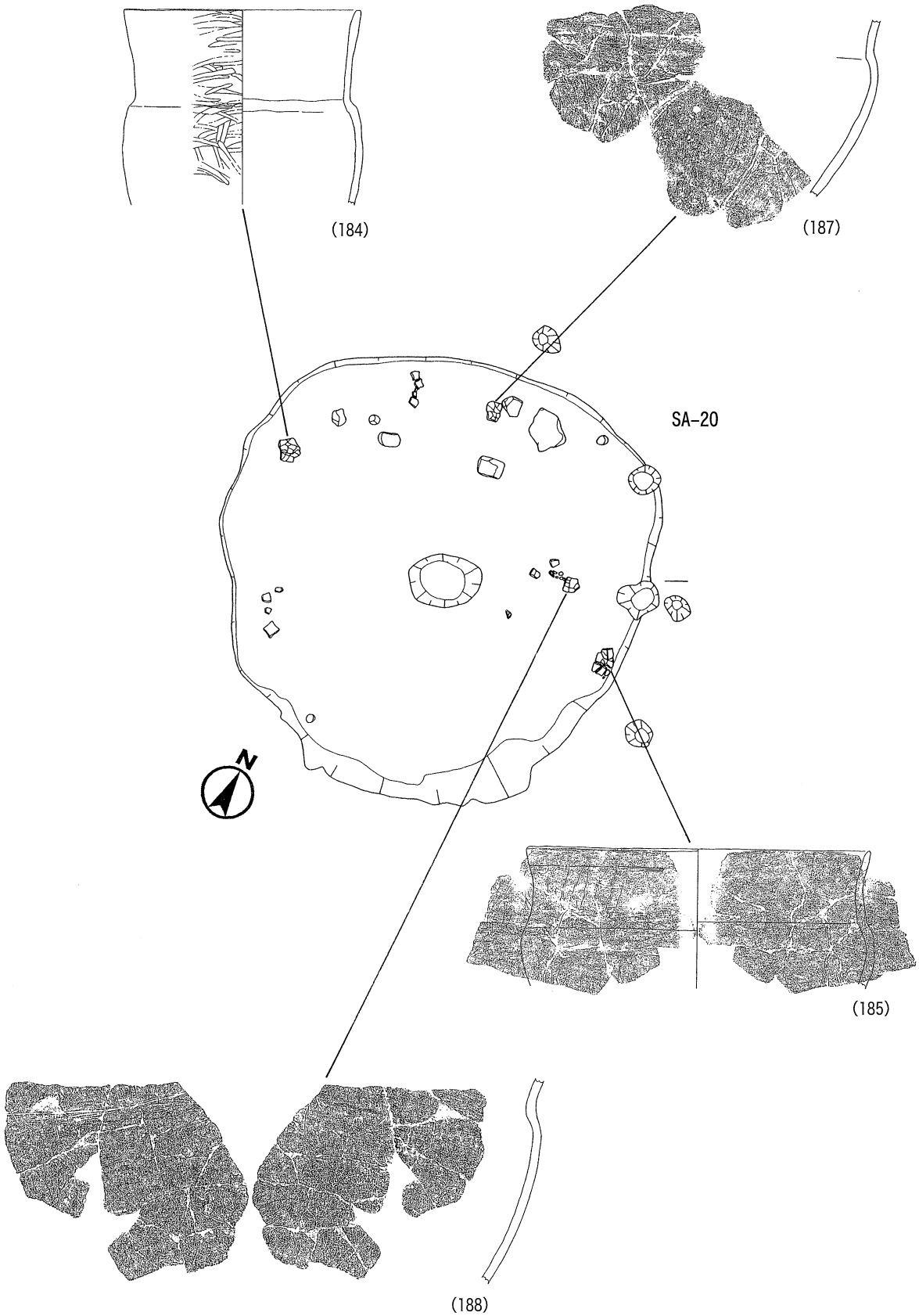




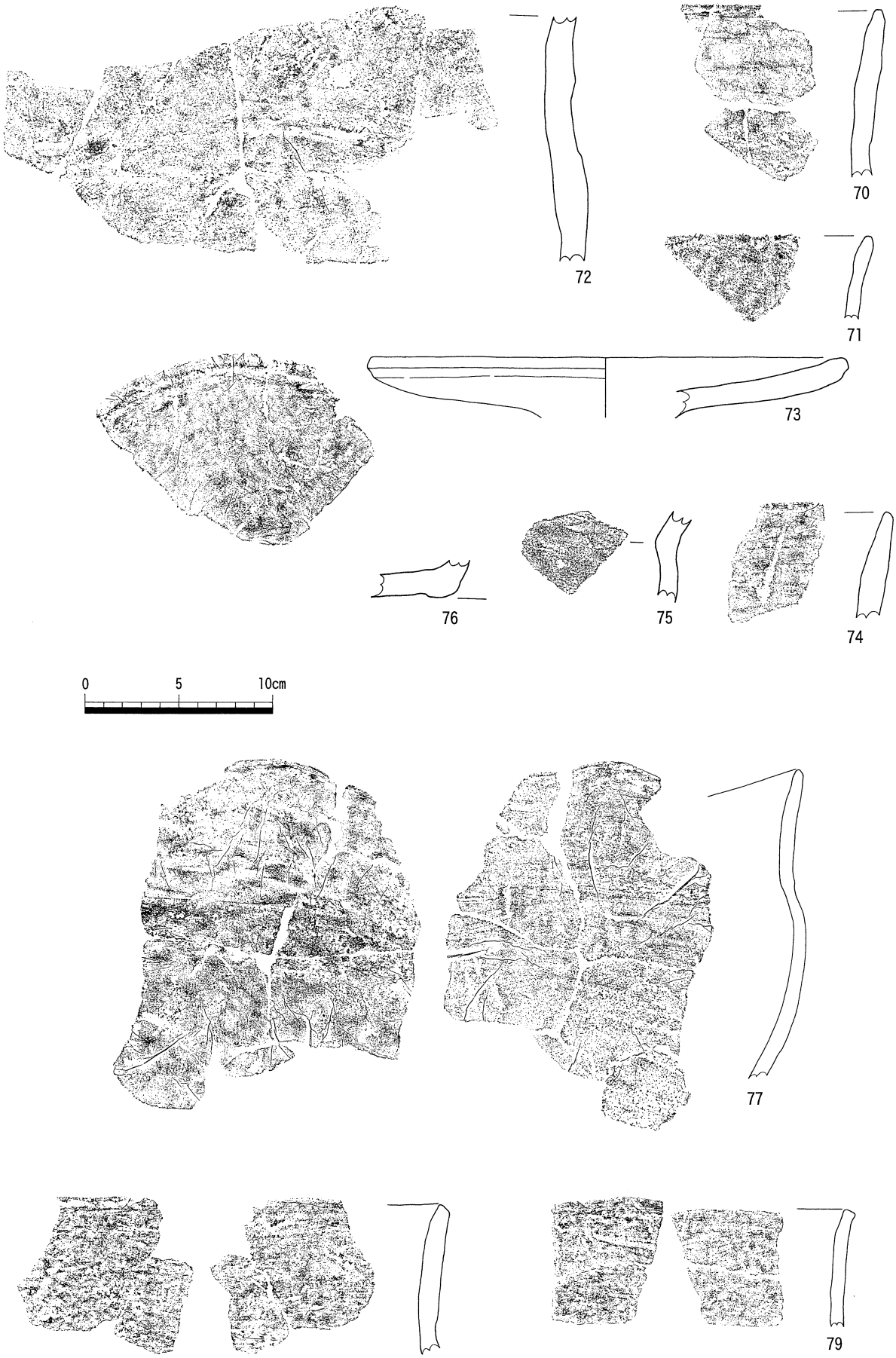
第13図　SA-21・22出土遺物地点図



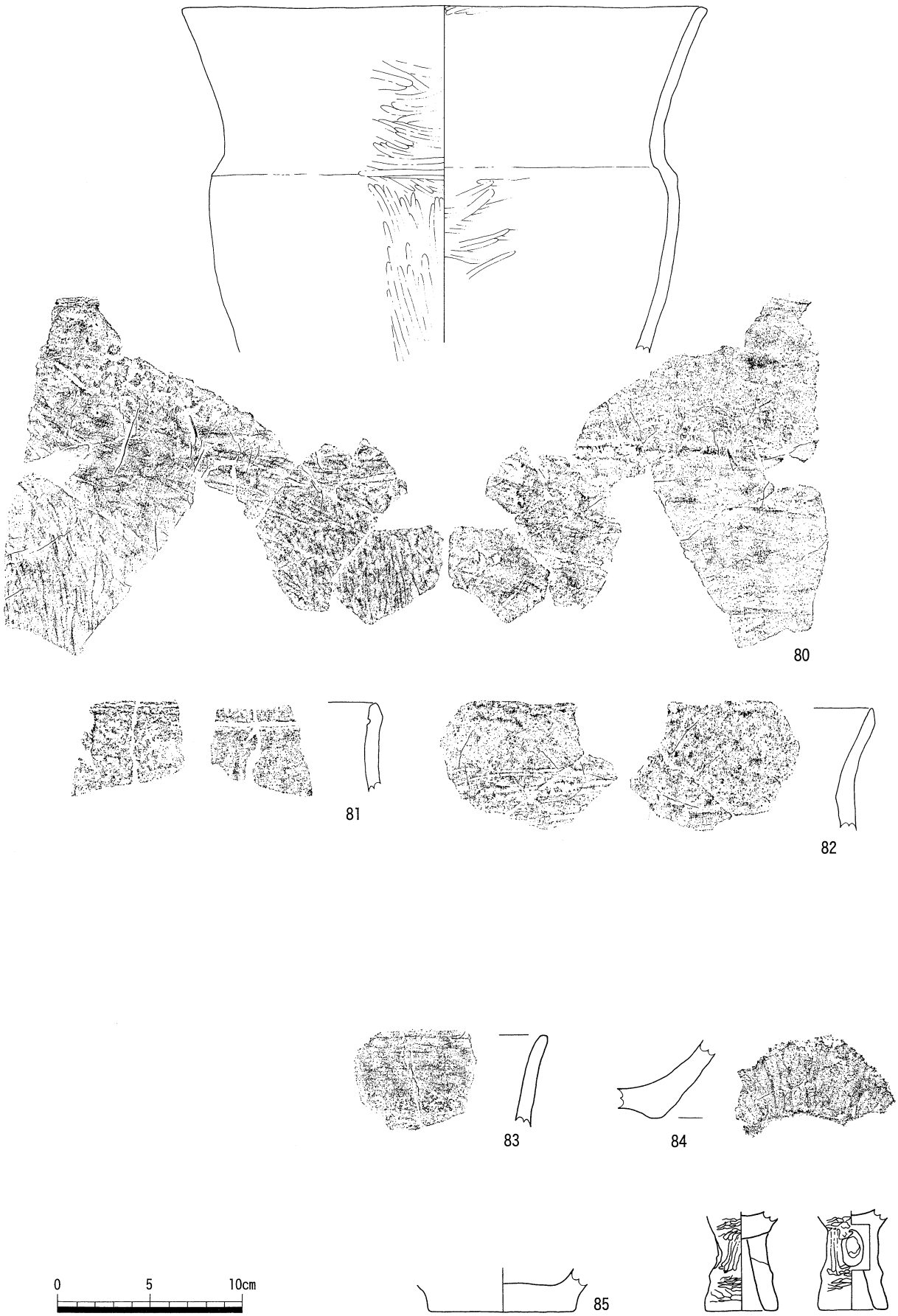
第14図　SA-19出土遺物地点図



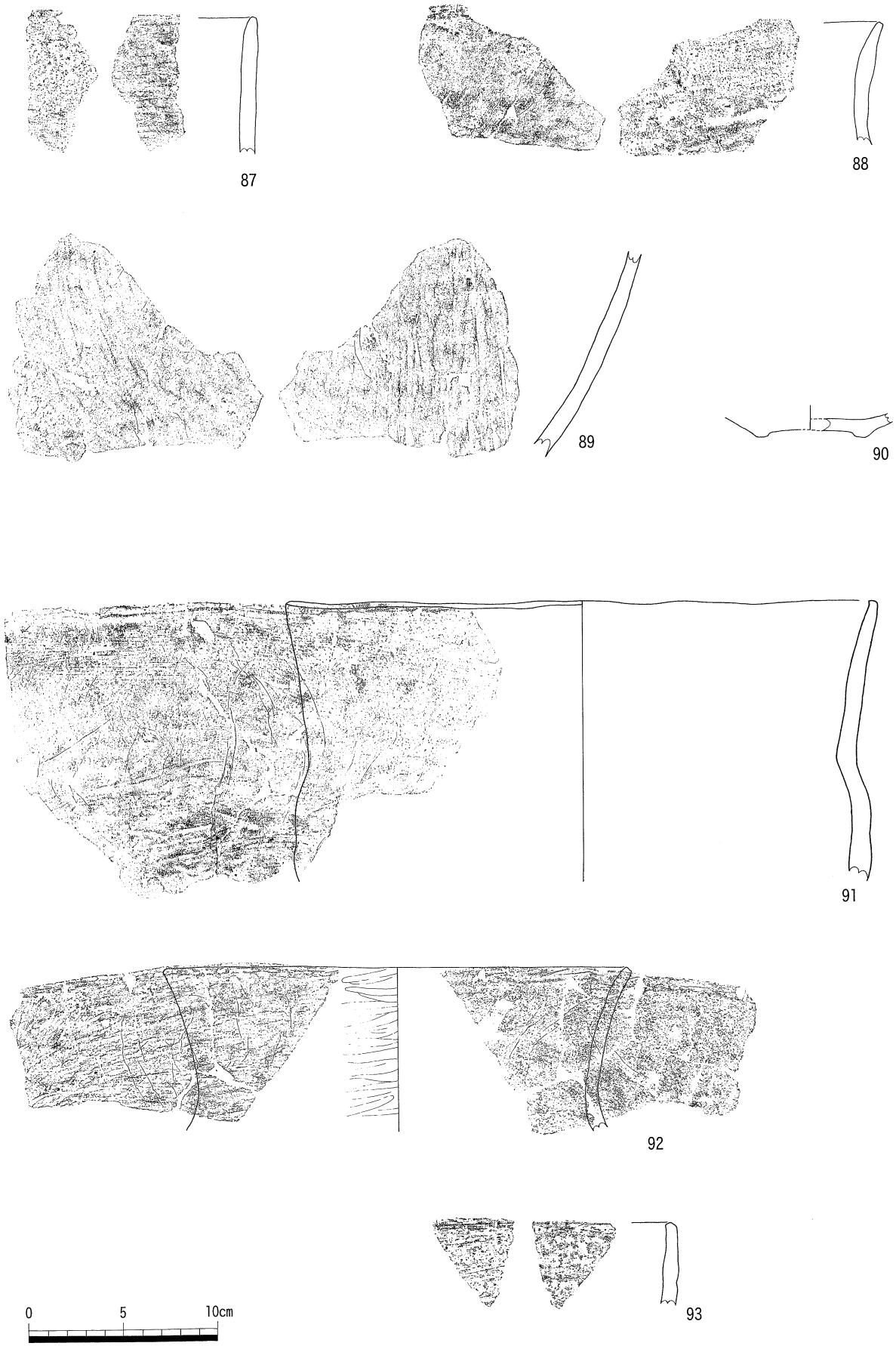
第15図　SA-20出土遺物地点図



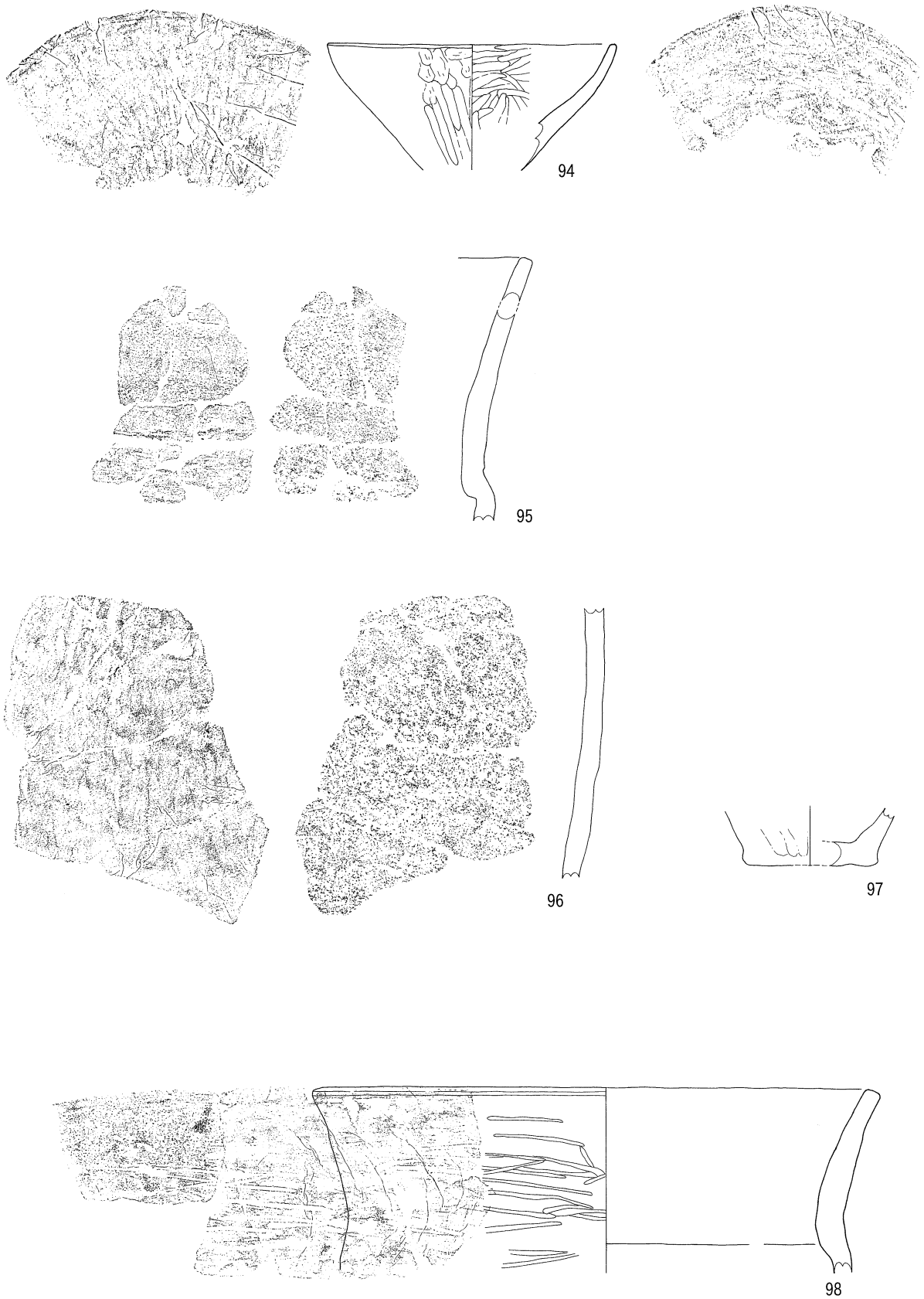
第16図　SA-02・03出土遺物実測図（S＝1／3）



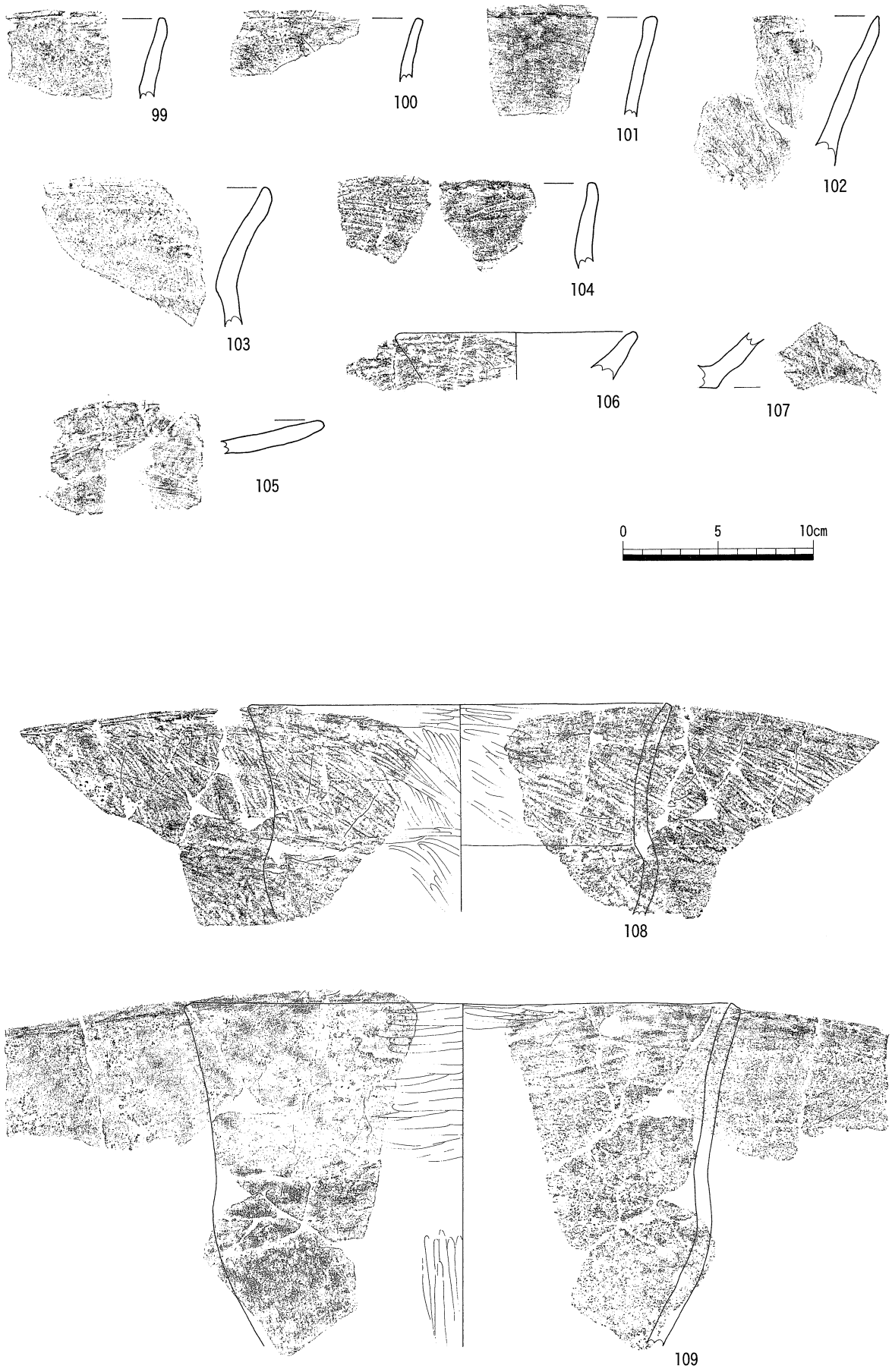
第17図　SA-03・04出土遺物実測図（S＝1／3）



第18図　SA-05・06出土遺物実測図（S＝1／3）

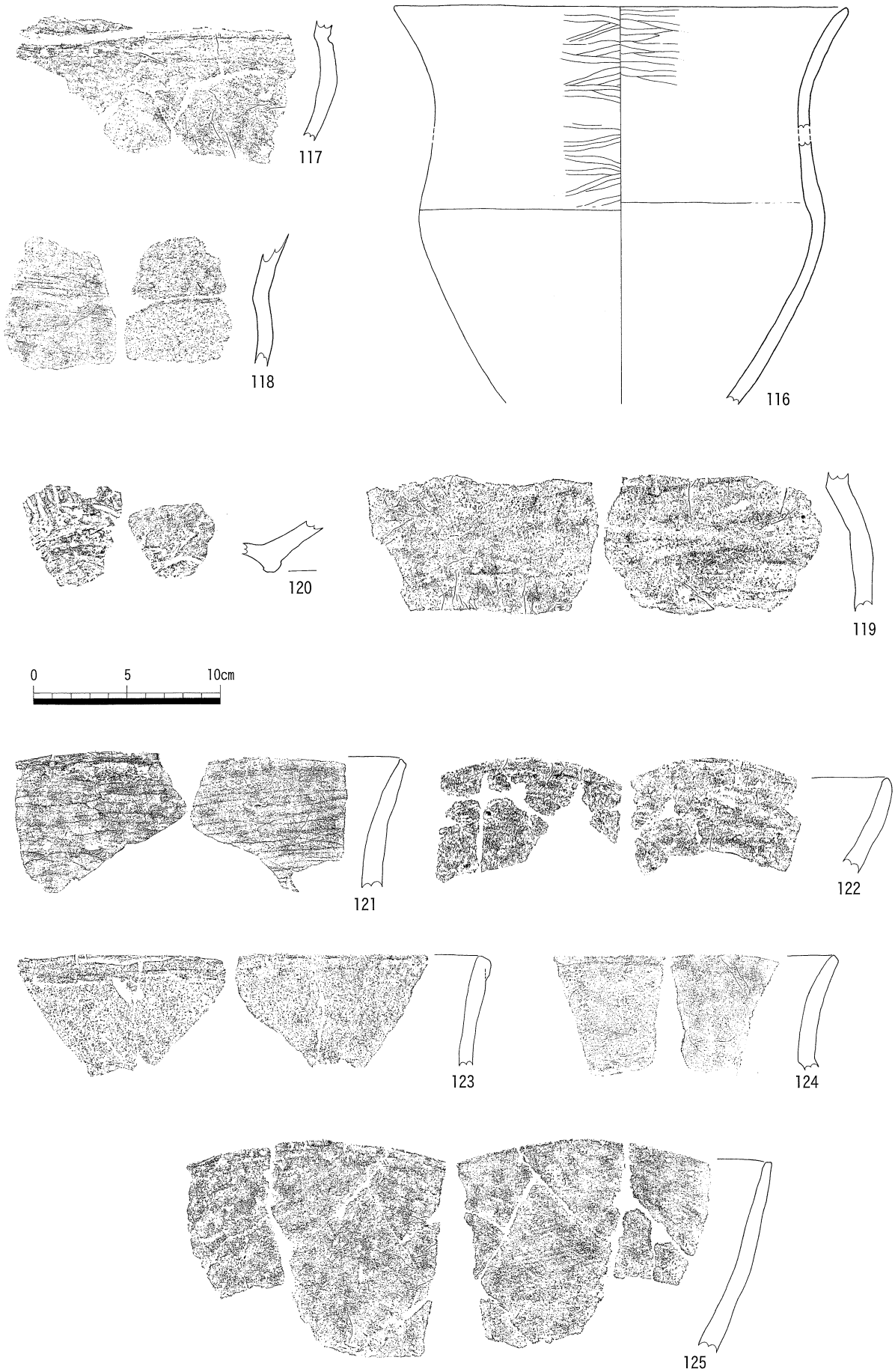


第19図　SA-06・07出土遺物実測図（S＝1／3）

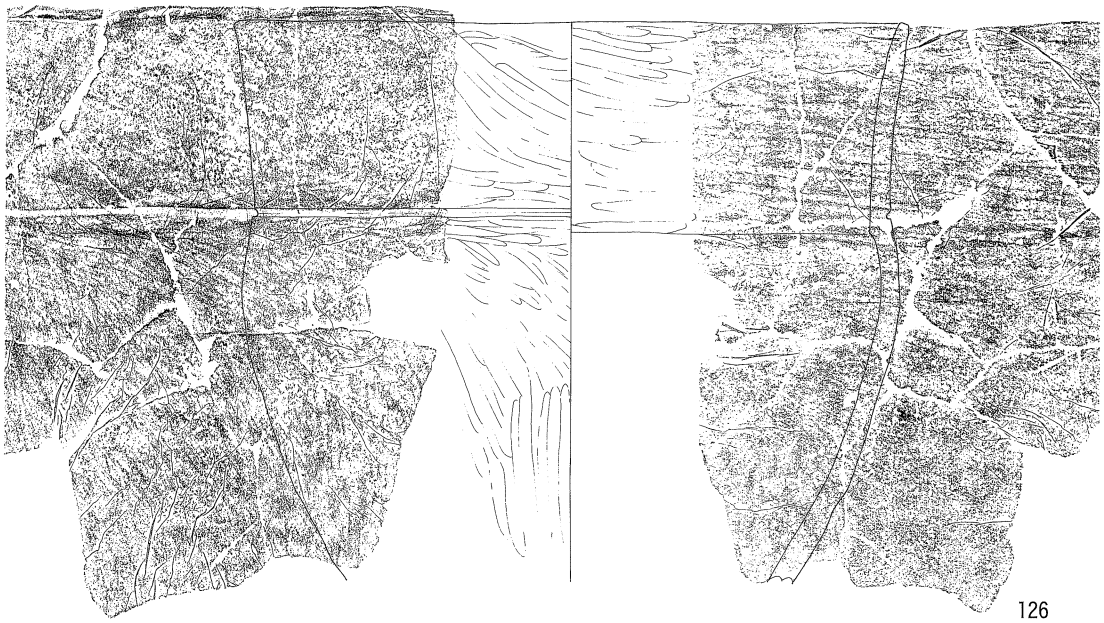


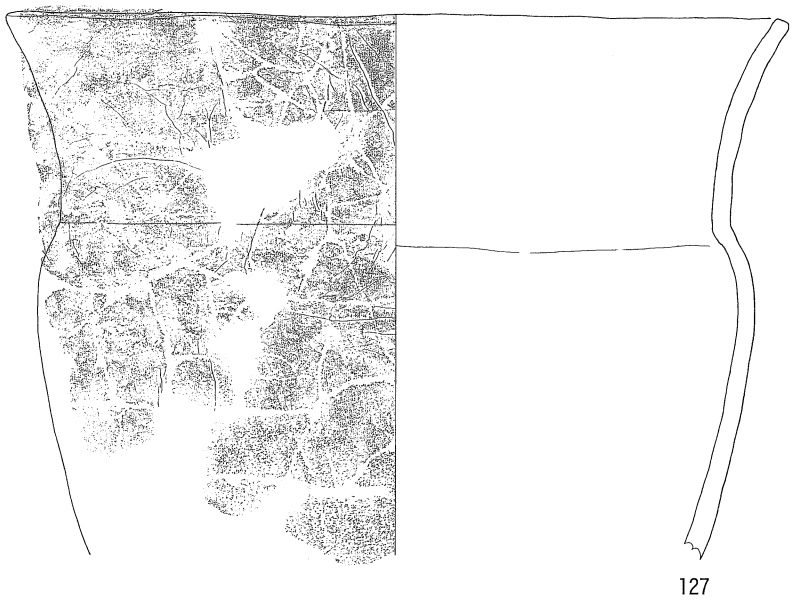
第20図　SA-07・08出土遺物実測図（S＝1／3）

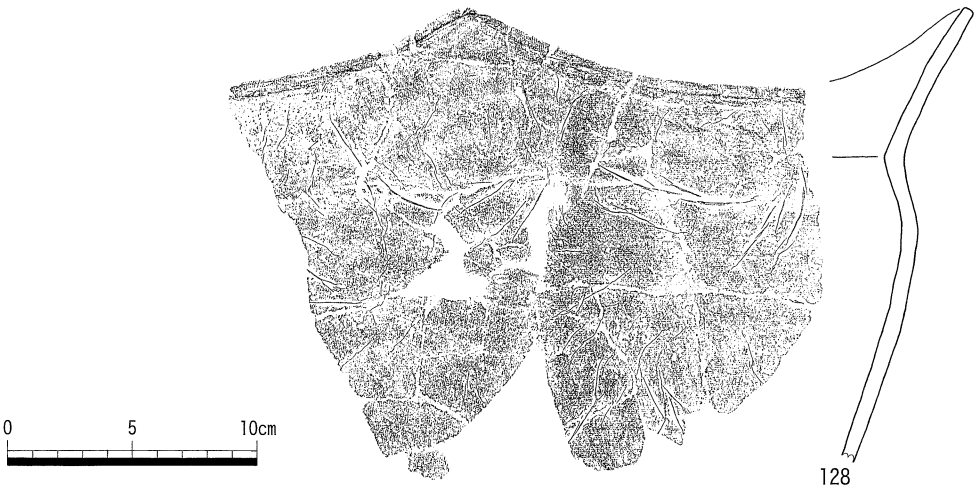
第21図　SA-08出土遺物実測図（S＝1／3）



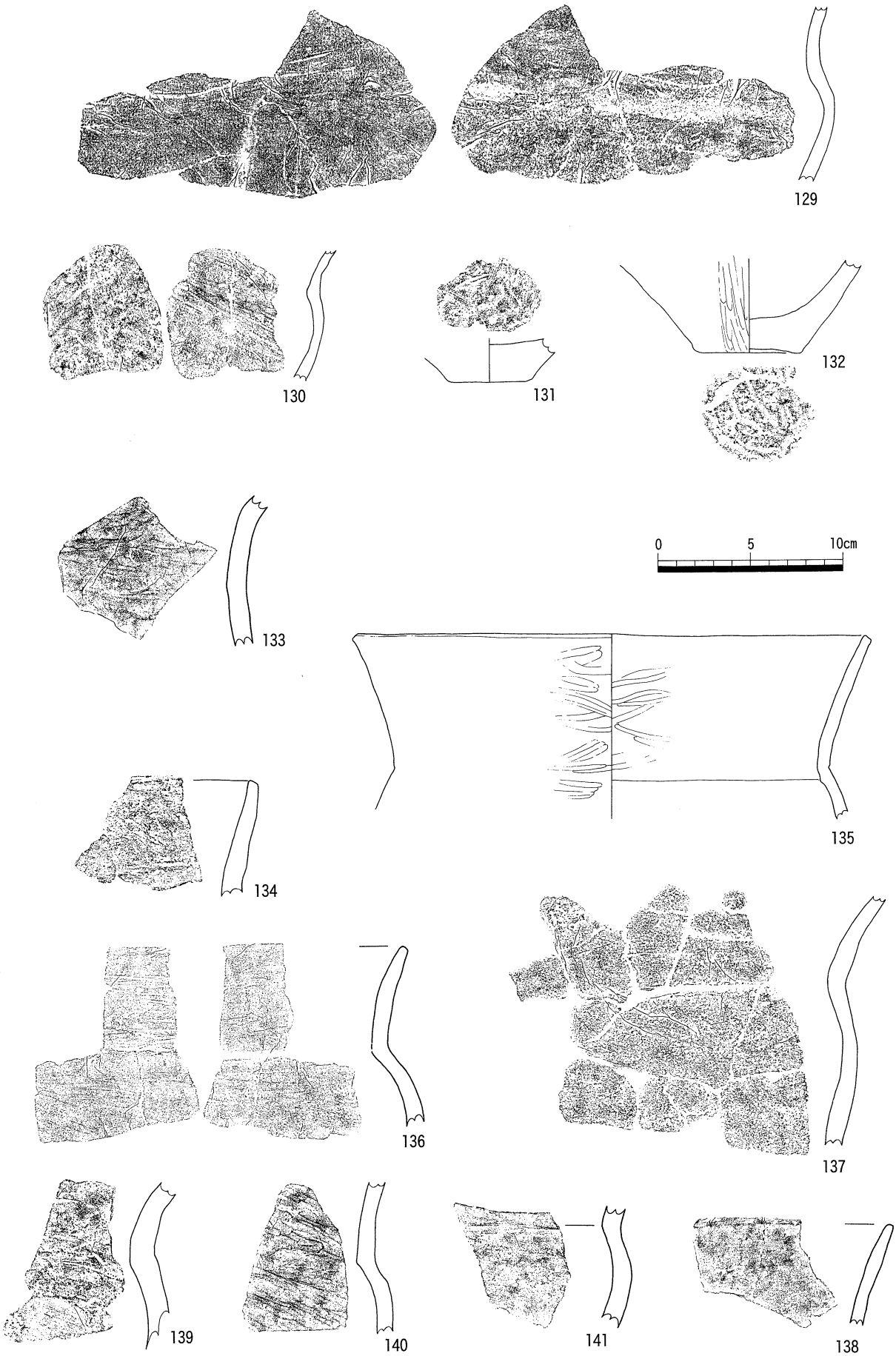
第22図　SA-09・10出土遺物実測図（S＝1／3）



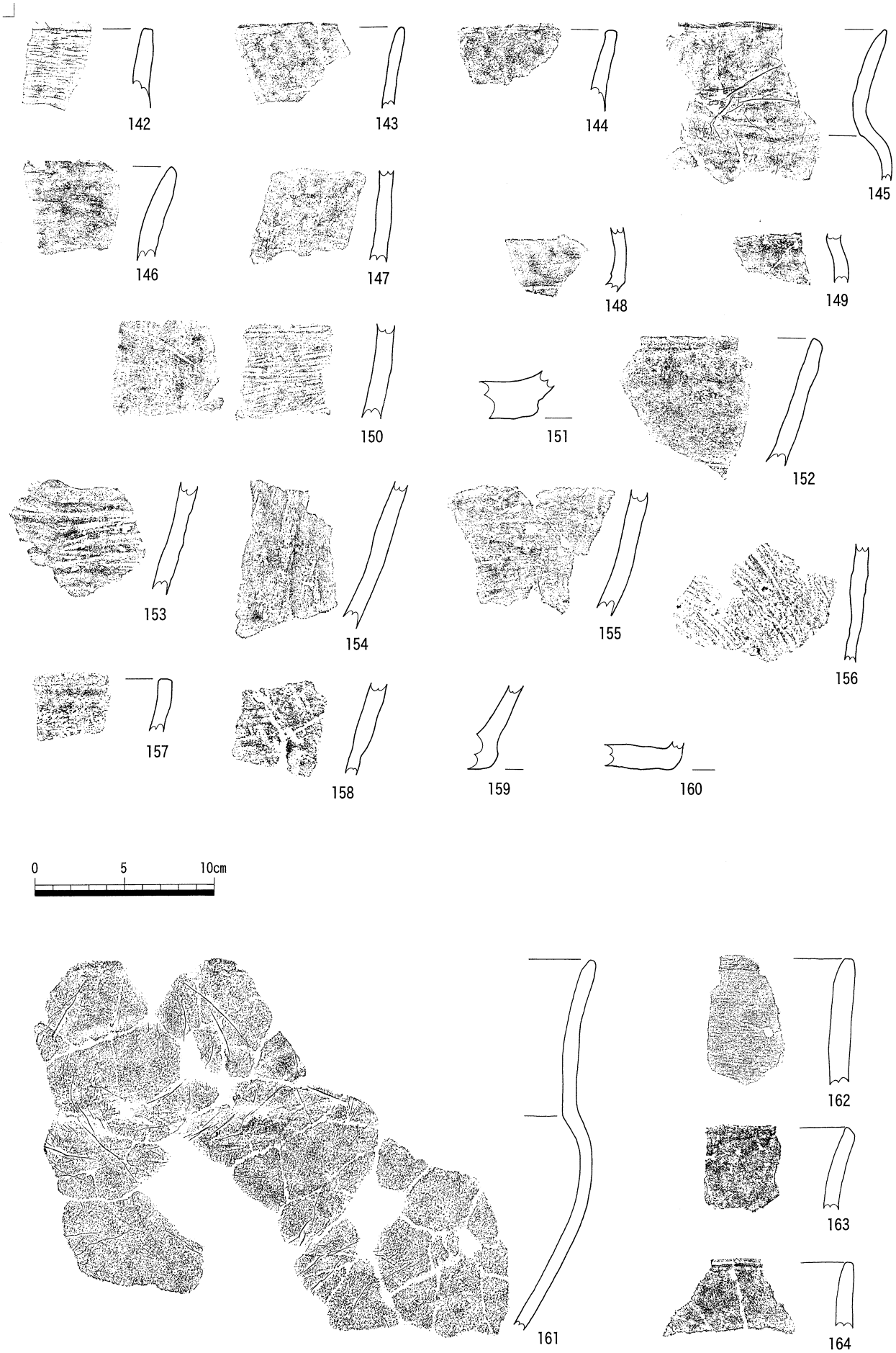




第23図　SA-10出土遺物実測図（S＝1／3）



第24図　SA-10～12出土遺物実測図（S＝1／3）

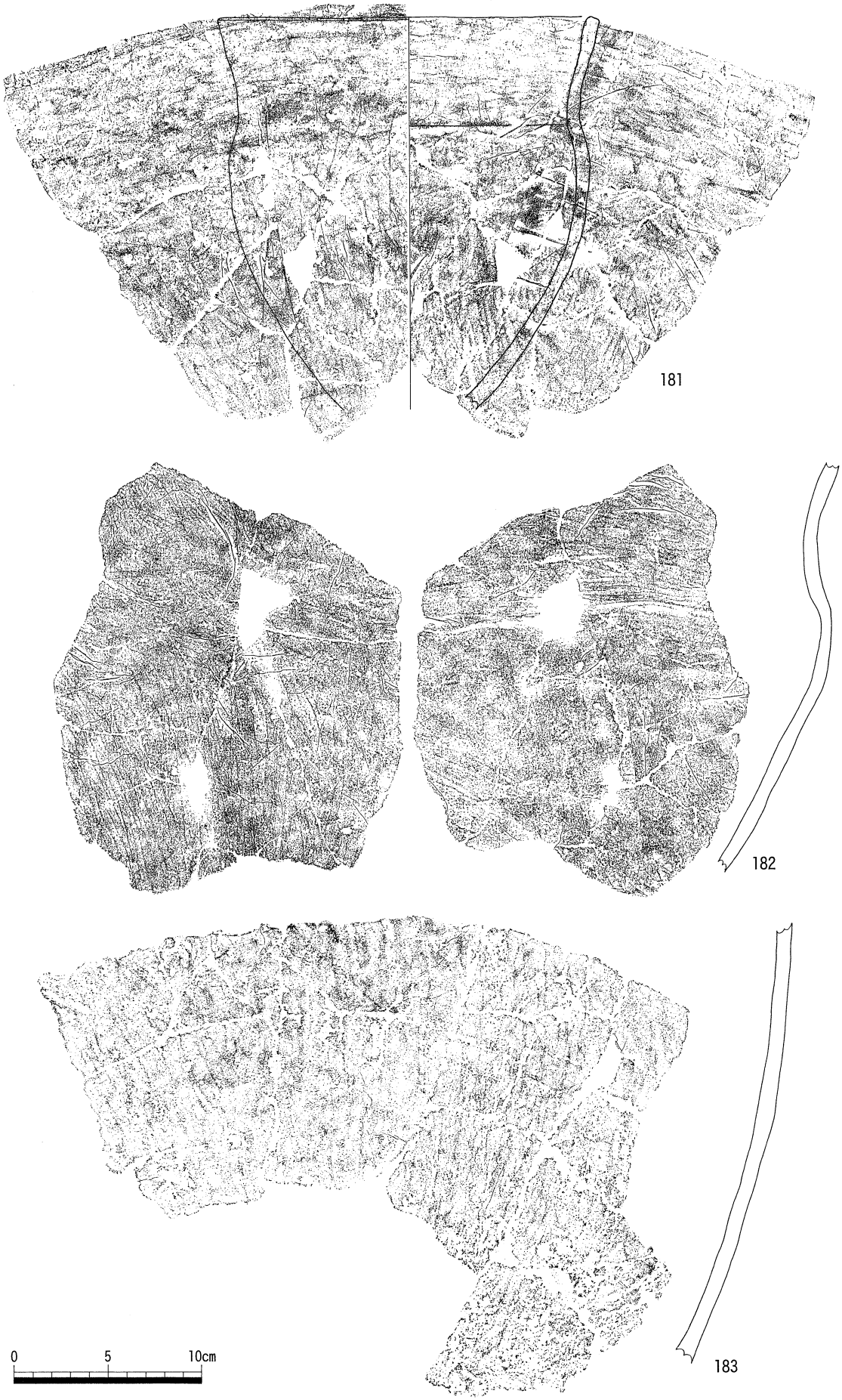


第25図　SA-14・15・17・19出土遺物実測図（S＝1／3）

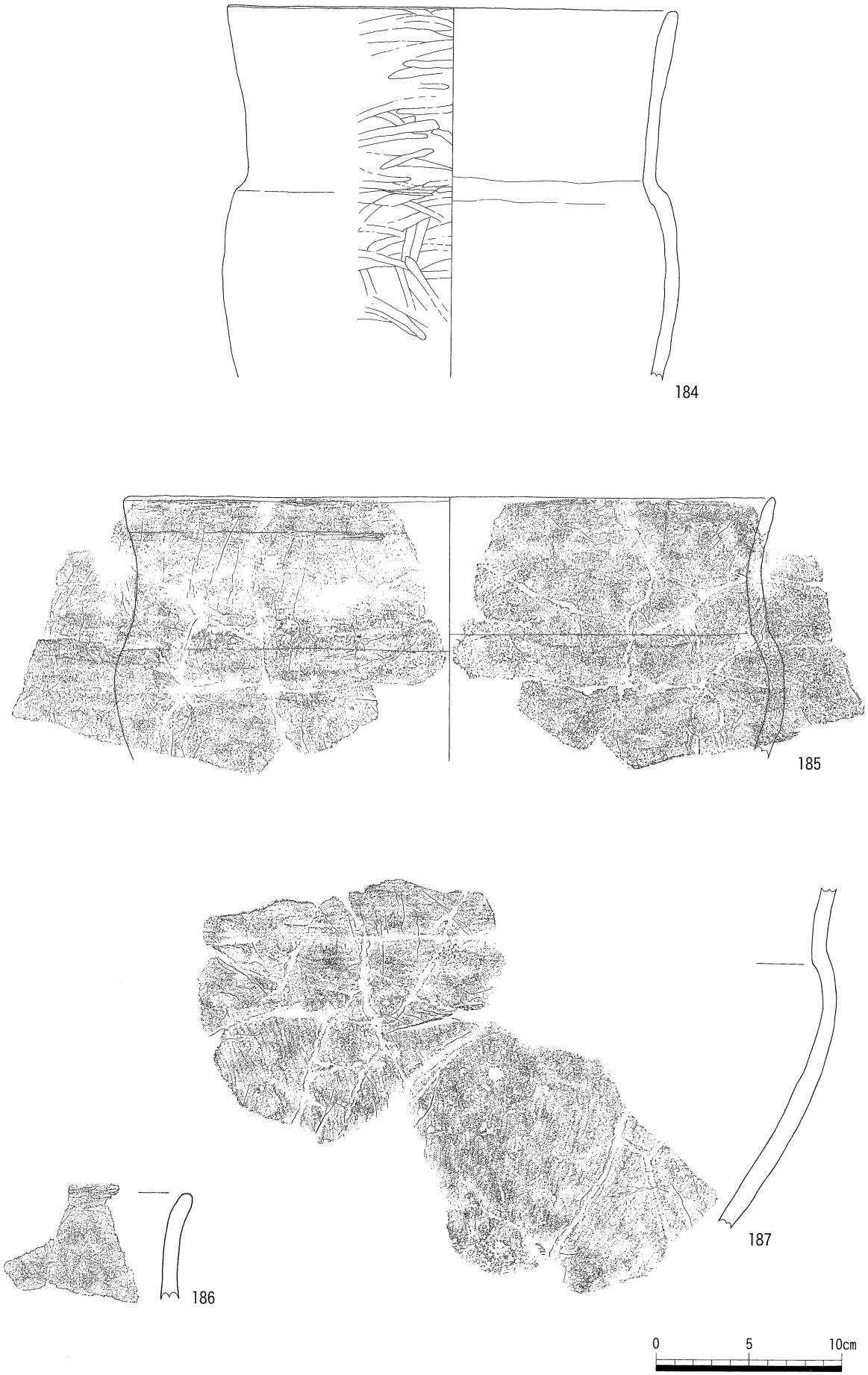
第26図　SA-19出土遺物実測図（S＝1／3）

第27図　SA-19出土遺物実測図（S＝1／3）

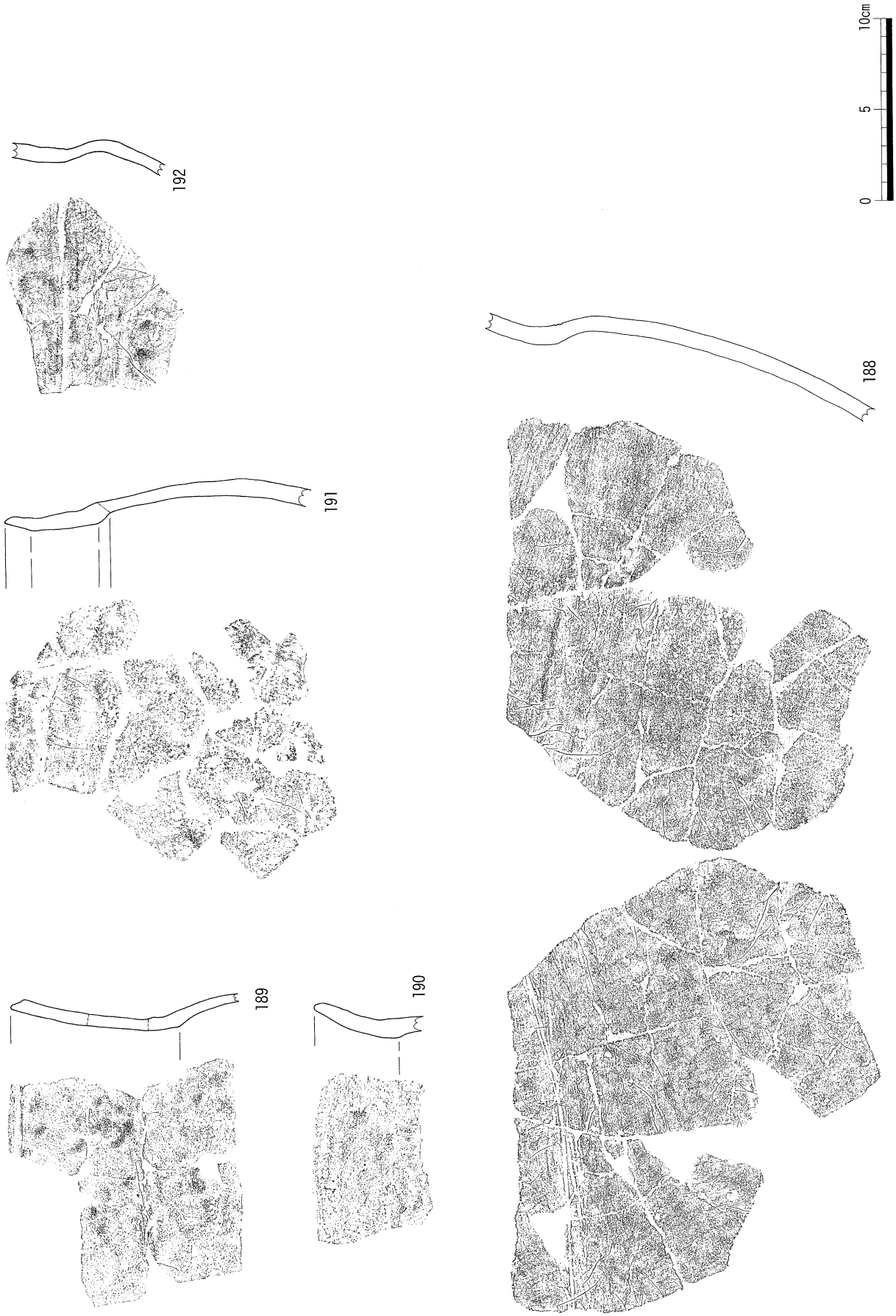
第28図　SA-19出土遺物実測図（S＝1／3）



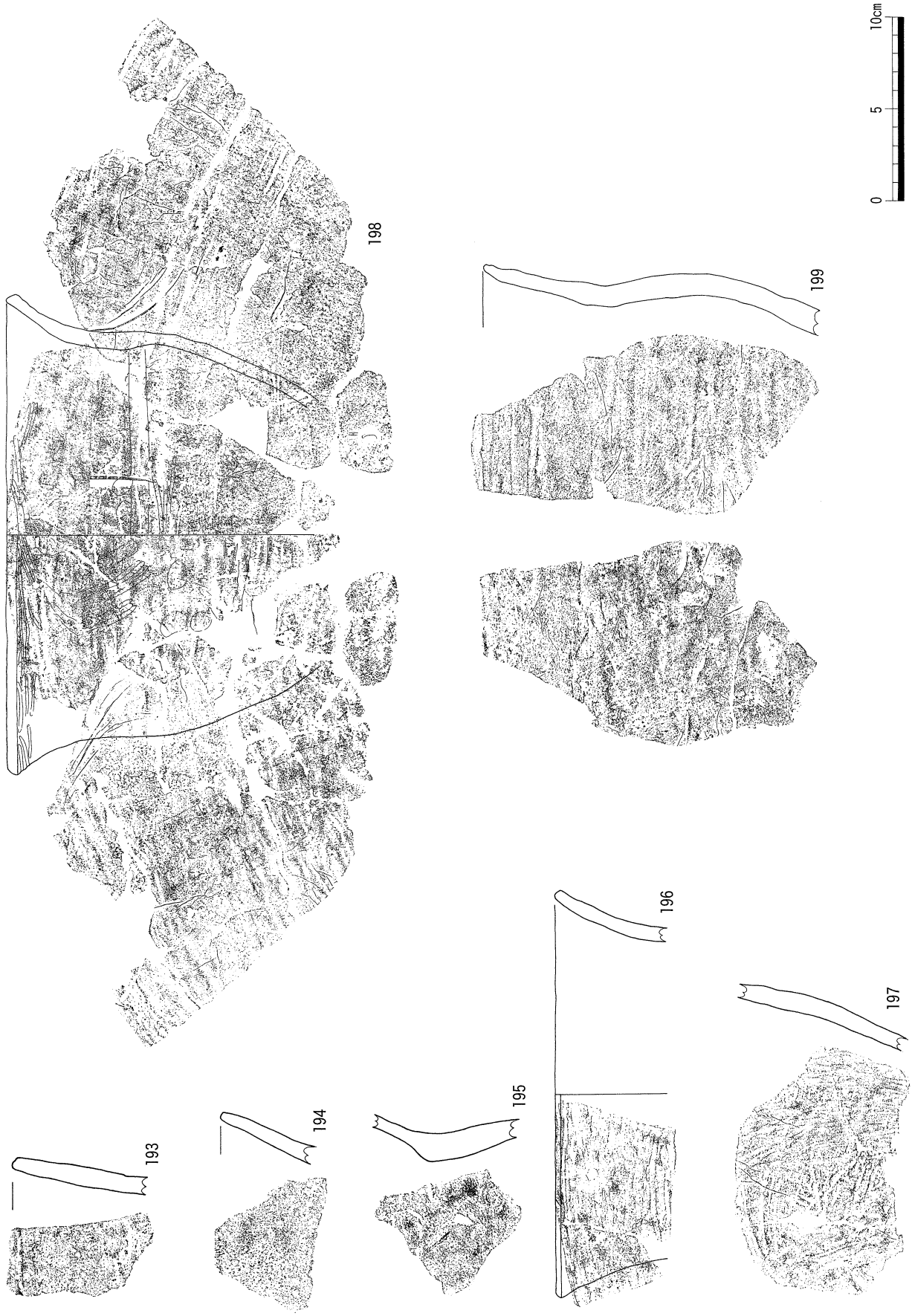
第29図　SA-19出土遺物実測図（S＝1／3）



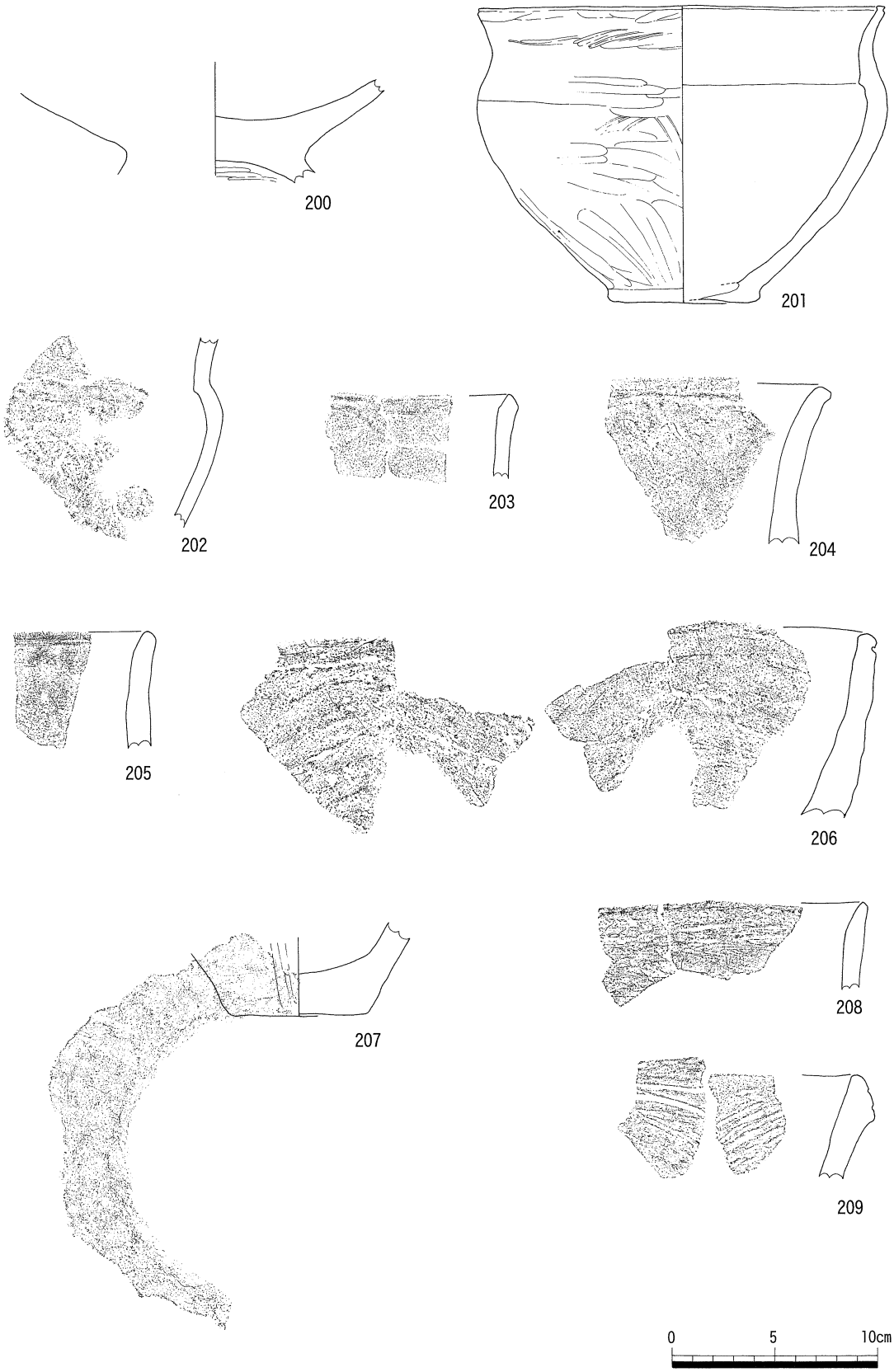
第30図　SA-20出土遺物実測図（S＝1／3）



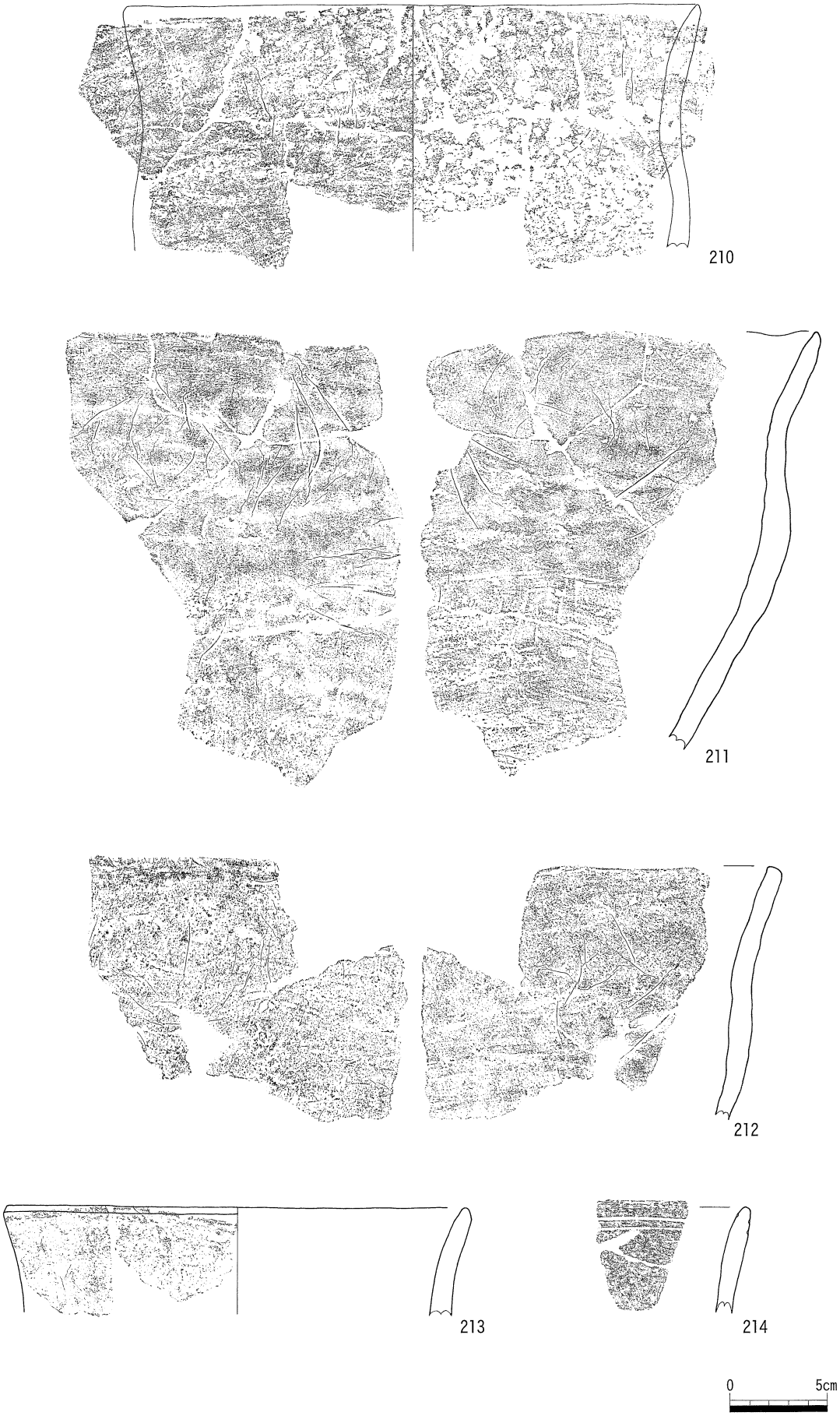
第31図　SA-20～22出土遺物実測図（S＝1／3）



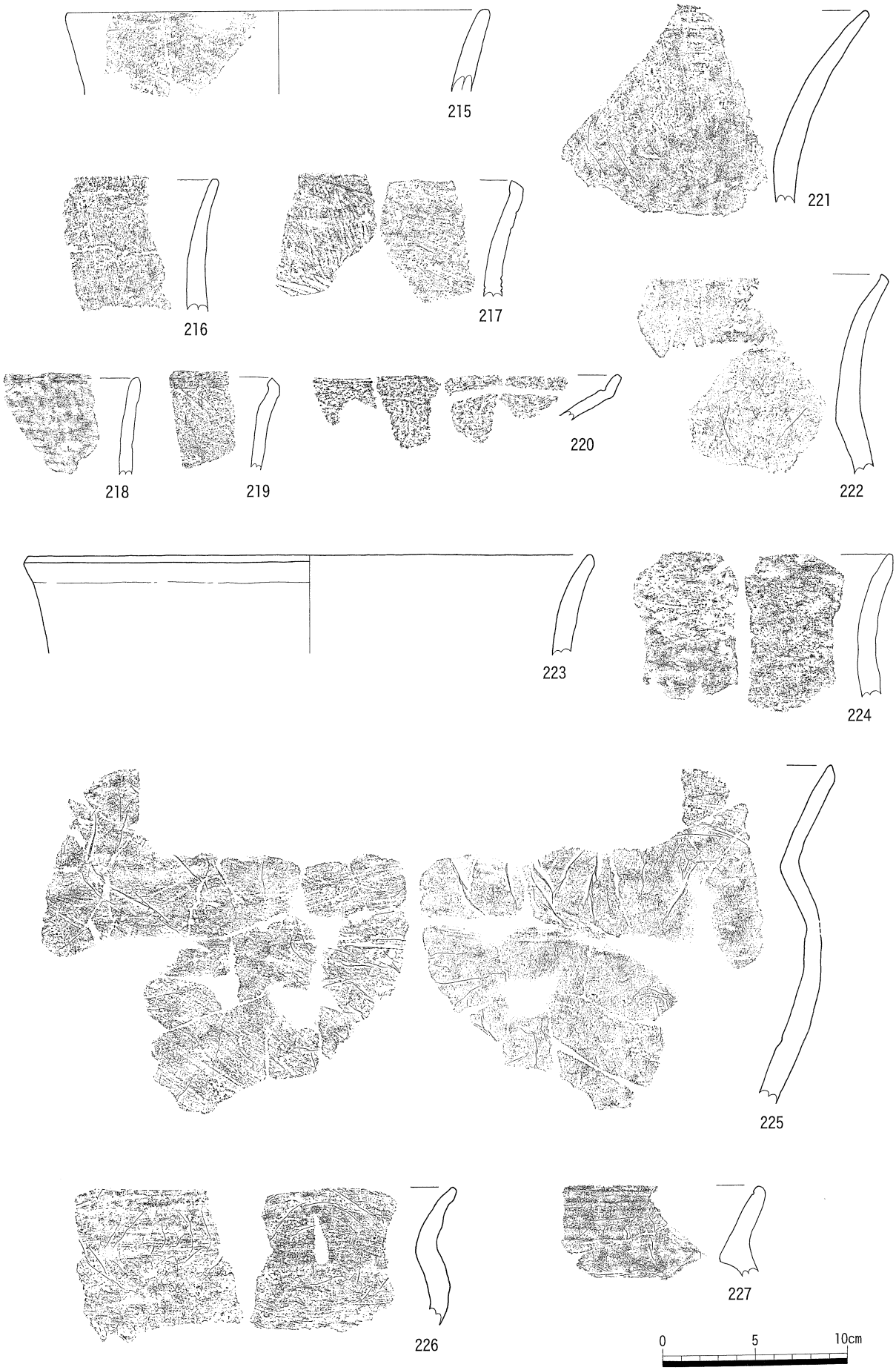
第32図　SA-23・ＳＣ-01出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）



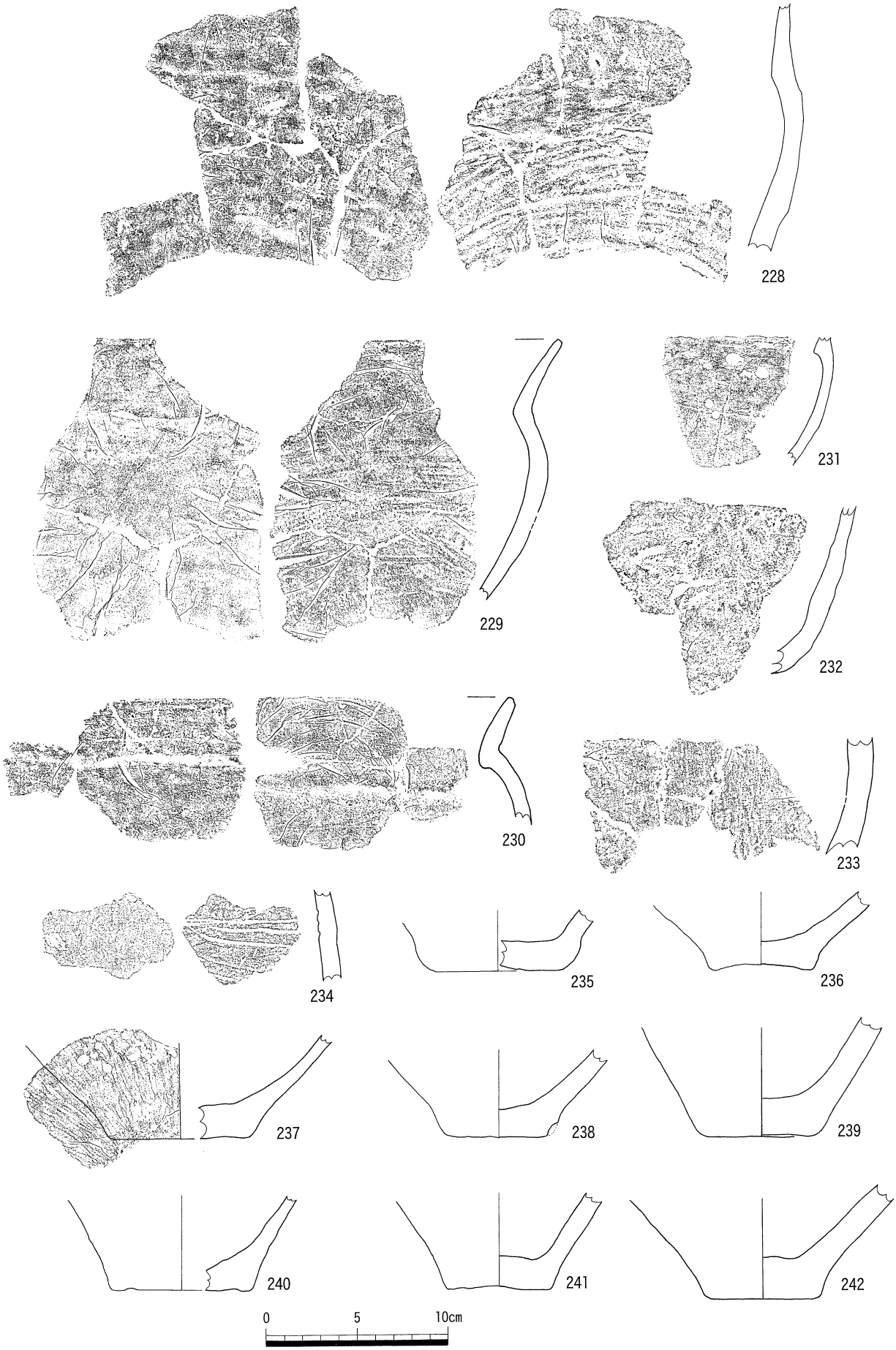
第33図　その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図（S＝1／3）



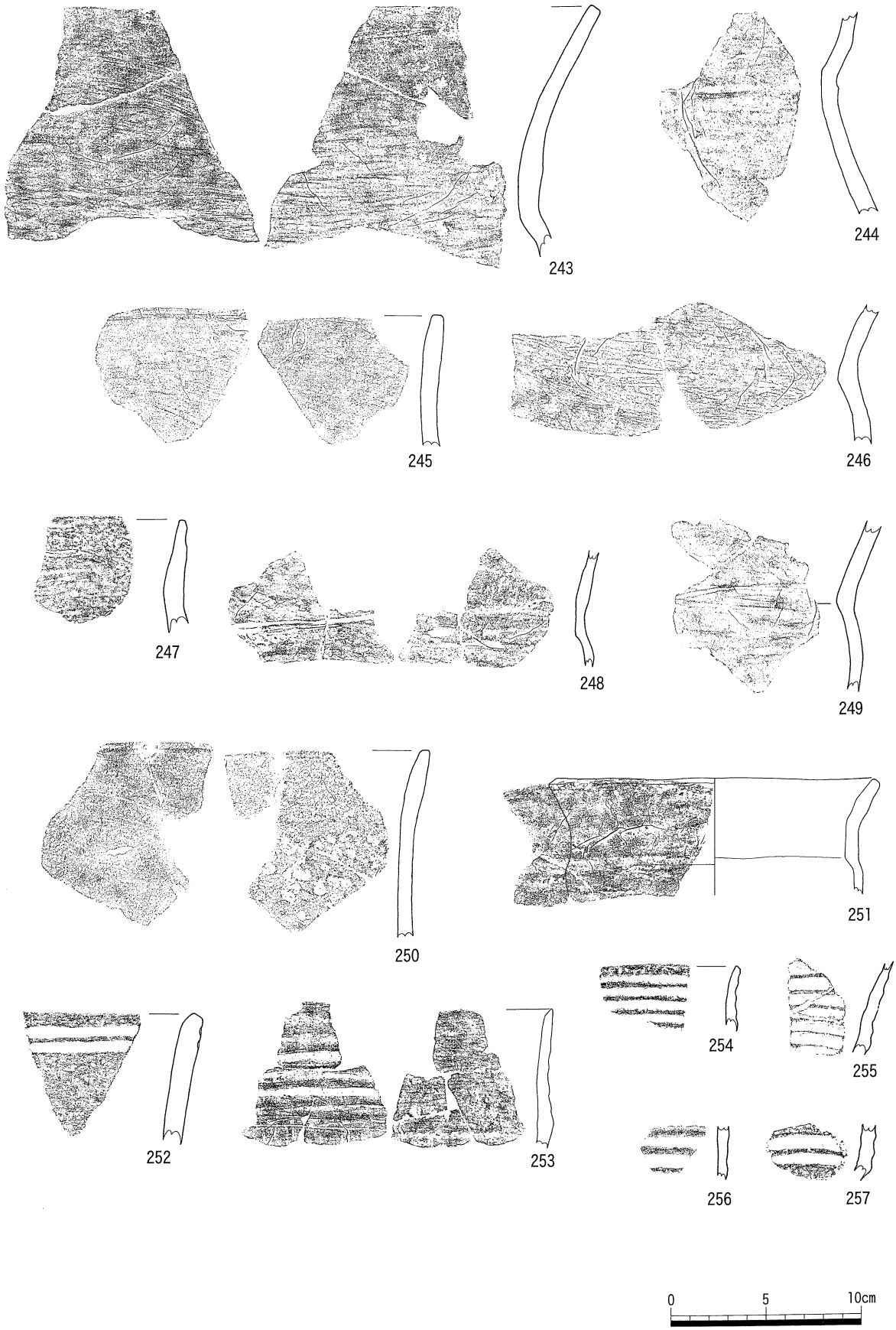
第34図　その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図（S＝1／3）



第35図　その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図（S＝1／3）



第36図　その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）



第37図　その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）

出土遺物観察表

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
1	包含層	口縁部	貝殻腹縁刺突 斜位貝殻条痕	横位ﾐｶﾞｷ、ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色～灰黄色 (10YR7/3～2.5Y7/2)	灰黄褐色 (10YR6/2)	A:多　B:多　C:中　D:少　F:少　H:少	
2	包含層	口縁部	貝殻腹縁押引 斜位貝殻条痕	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/8)	橙色 (7.5YR7/6)	A:多　B:中　C:少　D:中　F:少	
3	包含層	口縁部	貝殻腹縁押引 斜位条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	A:特多　B:微　C:微　D:中　F:少　H:少	煤付着
4	包含層	口縁部	貝殻腹縁押引 斜位貝殻条痕	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR7/6)	橙色 (5YR6/6)	A:特多　B:少　C:微　D:中　F:少　H:少	
5	包含層	口縁部	貝殻条痕文のち 貝殻腹縁刺突	ﾖｺﾅﾃﾞ	不良	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	浅黄橙色 (10YR8/4)	A:多　B:少　D:少　E:少　H:中	
6	包含層	口縁部	貝殻腹縁押引	ﾐｶﾞｷ、ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色 (5YR7/4)	橙色 (5YR7/6)	A:中　B:中　C:微　D:少　H:少	煤付着
7	包含層	口縁部	摩滅激しい 貝殻腹縁刺突 斜位貝殻条痕	ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	不良	浅黄色 (2.5Y7/3)	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	A:多　B:中　C:少　D:中　F:少　H:中	
8	包含層	口縁部	斜位貝殻条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	淡黄色 (2.5Y8/4)	A:多　B:多　C:少　D:中　F:中　H:少	煤付着
9	包含層	口縁部	貝殻腹縁押引 斜位貝殻条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	良	褐灰色 (10YR6/1)	淡黄色 (2.5Y8/3)	A:中　B:多　C:微　D:中　F:少　H:中	煤付着
10	包含層	口縁部	横位貝殻腹縁刺突 斜位貝殻条痕 ～斜位貝殻腹縁刺突 斜位貝殻条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	良	灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	A:多　B:中　C:微　D:少　F:少　H:微	煤付着
11	包含層	口縁部	斜位貝殻条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	良	灰黄色 (2.5Y6/2)	浅黄色 (2.5Y7/3)	A:多　B:中　C:微　D:微　H:少	
12	包含層	口縁部	横位貝殻条痕	横位ﾐｶﾞｷ	良	黄灰色 (2.5Y4/1)	黄灰色 (2.5Y5/1)	A:多　B:少　D:少　E:少　F:少　H:中	煤付着
13	包含層	口縁部	横位貝殻条痕 斜位貝殻条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	不良	灰褐色 (5YR6/2)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:特多　B:中　D:中　H:少	煤付着
14	包含層	胴部	斜位貝殻条痕	斜位ﾅﾃﾞ	良	灰黄褐色 (10YR6/2)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	A:多　B:中　D:少　H:少	煤付着
15	包含層	胴部	横位貝殻条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	良	淡黄色 (2.5Y8/4)	淡黄色 (2.5Y8/3)	A:多　B:微　C:少　H:多	
16	包含層	胴部	斜位貝殻条痕	ﾐｶﾞｷ	良	淡黄色 (2.5Y8/4)	橙色 (7.5YR7/6)	A:特多　B:少　D:少　E:少　F:少　H:中	煤付着
17	包含層	胴部	斜位貝殻条痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	良	淡黄色～黄灰色 (2.5Y8/4～4/1)	浅黄橙色 (10YR8/4)	A:多　B:中　C:微　D:微　H:多	
18	包含層	胴部	斜位貝殻条痕	斜位ﾅﾃﾞ	良	淡黄色～灰黄色 (2.5Y8/4～7/2)	浅黄橙色 (10YR8/4)	A:特多　B:中　C:少　D:少　F:少　H:中	煤付着
19	包含層	胴部	斜位貝殻条痕	縦位ﾐｶﾞｷ	良	浅黄橙色～にぶい黄橙色 (7.5YR8/4～10YR7/2)	浅黄橙色 (10YR8/3)	A:特多　B:少　D:中　E:少　H:中	煤付着

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
20	包含層	底部	摩滅激しく不明 底：ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	不良	灰黄褐色 (10YR6/2)	灰黄褐色 (10YR4/2)	A:多　B:微　D:中	内面に炭化物付着
21	SA12(混)	口縁部	沈線文 刺突文	沈線文 刺突文	良	橙色 (7.5YR6/6)	黒褐色 (10YR3/2)	A:微　C:少　D:少　F:中	
22	SA32(混)	口縁部	沈線文 ﾅﾃﾞ	沈線文 ﾅﾃﾞ	良	褐灰色 (10YR4/1)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	D:中　F:少	
23	SA32(混)	口縁部	沈線文 ﾅﾃﾞ	沈線文 ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	赤黒色 (7.5R2/1)	B:微　E:微　F:微	
24	SA32(混)	口縁部	沈線文 ﾅﾃﾞ	沈線文 ﾅﾃﾞ	良	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	灰黄褐色 (10YR4/2)	D:中　F:中	
25	SA19(混)	胴部	沈線文	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	灰褐色 (7.5YR4/2)	B:微　C:少　D:少　G:微	
26	SA32(混)	胴部	沈線文 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	褐色 (7.5YR4/4)	明褐色 (7.5YR5/6)	A:微　E:微　F:微	
27	SA33(混)	胴部	沈線文 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	橙色 (7.5YR7/6)	B:微　F:少	
28	SA32(混)	胴部	沈線文 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色～にぶい黄橙色 (7.5YR6/8～10YR7/4)	橙色～浅黄橙色 (5YR6/8～10YR8/4)	F:少	
29	SA33(混)	胴部	沈線文 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	灰褐色 (7.5YR5/2)	E:微　F:微	
30	B包含層	胴部	沈線文	ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	A:少　F:少	煤付着
31	SA19(混)	底部	沈線文 刺突	ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	C:微　D:少　F:微	
32	SA23(混)	口縁部	貝殻刺突線文 沈線文	貝殻刺突線文 ﾅﾃﾞ	良	灰黄褐色 (10YR4/2)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	A:微　F:微	
33	SA33(混)	口縁部	沈線文 ﾅﾃﾞ	沈線文 ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	D:中　F:少	
34	SA23(混)	口縁部	沈線文 口縁部：刻目文	沈線文	良	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	A:微　F:中	
35	－	胴部	連続刺突文 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	明褐色 (7.5YR5/6)	橙色 (7.5YR6/6)	C:微　E:微　F:中	煤付着
36	－	胴部	沈線文 ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	やや不良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	灰褐色 (7.5YR4/2)	A:微　C:微　D:少　F:中	煤付着
37	－	胴部	沈線文 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	暗褐色 (10YR3/3)	褐色 (7.5YR4/4)	A:少　B:少　C:少　F:多	煤付着
38	－	胴部	沈線文	ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	橙色 (7.5YR6/6)	A:微　B:微　D:少　F:少	
39	B包含層	胴部	沈線文	ﾅﾃﾞ	良	黄褐色 (10YR5/6)	橙色 (7.5YR6/6)	A:微　B:微　C:少　D:微　F:多	
40	SA33(混)	胴部	条痕文 沈線文	ﾅﾃﾞ	良	灰黄褐色 (10YR4/2)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:微　D:少　F:多　G:少	
41	C包含層	胴部	貼付突帯（刻目） 貝殻押引連点文	条痕 ﾅﾃﾞ	良	明黄褐色～にぶい黄橙色 (10YR7/6～7/4)	にぶい黄橙色 (10YR6/4～7/3)	A:微　B:微　C:中　D:多　F:多	煤付着

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
42	－	胴部	貝殻刺突線文・条痕文 ﾅﾃﾞ	条痕・ﾅﾃﾞ 貝殻連続刺突文	良	橙色 (7.5YR6/6)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	A:微　B:微　E:微　F:少	
43	－	胴部	貝殻連続刺突文・条痕文 ﾅﾃﾞ	条痕・ﾅﾃﾞ 貝殻連続刺突文	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	F:中	
44	－	口縁部	貝殻連続刺突文・条痕文 ﾅﾃﾞ	条痕・ﾅﾃﾞ 貝殻連続刺突文	良	黄橙色 (7.5YR7/8)	橙色 (7.5YR7/6)	F:多	
45	SA32(混)	胴部	条痕文 沈線文	条痕	良	明黄褐色～灰黄褐色 (10YR7/6～4/2)	明褐色 (7.5YR5/6)	B:微　C:微　F:中	
46	SA02(混)	胴部	沈線文	条痕	良	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	橙色 (7.5YR6/6)	B:微　C:微　D:微　F:多	
47	SA33(混)	胴部	条痕文	条痕	良	浅黄橙色～灰褐色 (7.5YR8/4～5/2)	灰黄褐色 (10YR5/2)	D:微　E:少　F:中	
48	SA06(混)	胴部	条痕文	条痕	良	黒褐色 (10YR3/2)	褐色 (10YR4/6)	A:微　D:微　F:中	
49	－	胴部	条痕 沈線文	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	灰褐色 (7.5YR4/2)	B:微　D:少　F:中	
50	SA33(混)	胴部	条痕 沈線文	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	褐色 (7.5YR4/3)	A:微　B:微　F:中	
51	SA02(混)	胴部	沈線文 条痕	不明	良	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	橙色 (5YR6/6)	A:微　D:微　F:中	
52	SA32(混)	胴部	浅い沈線文	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	A:微　F:中	
53	－	胴部	条痕文・沈線文 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (5YR4/2)	明赤褐色 (5YR5/6)	B:微　C:微　F:少	
54	SA32(混)	胴部	沈線文 条痕	条痕	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	橙色 (7.5YR6/6)	C:微　D:少　F:中	
55	SA14(混)	胴部	櫛描文	ﾅﾃﾞ	やや不良	明赤褐色 (5YR5/6)	橙色 (5YR6/6)	A:少　F:中	
56	－	胴部	貝殻連続刺突文 ﾅﾃﾞ	条痕 ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黄褐色 (10YR5/6)	B:微　C:微　F:中	
57	SA32(混)	口縁部	刺突文 条痕	条痕	良	黒褐色 (10YR3/2)	黒褐色 (10YR3/2)	A:少　F:少	
58	SA32(混)	胴部	条痕・ﾅﾃﾞ 沈線文・貼付突帯	条痕	良	にぶい黄橙色 (10YR5/3)	明褐色 (7.5YR5/6)	C:少　E:微　F:中	
59	SA32(混)	胴部	条痕文	条痕	やや良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	灰黄褐色 (10YR4/2)	C:微　E:微　F:多	
60	－	口縁部	斜位貝殻腹縁刺突 棒状工具による太い沈線文	貝殻条痕	良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	橙色 (5YR6/6)	F:中	
61	B包含層	胴部	貝殻腹縁連続刺突文 条痕	条痕	良	にぶい黄橙色～明褐色 (10YR7/4～7.5YR5/6)	橙色 (7.5YR6/8)	A:微　C:微　F:中	
62	B包含層	口縁部	貝殻腹縁連続刺突文 条痕	条痕	やや良	明赤褐色 (5YR5/6)	橙色 (5YR6/6)	B:微　C:中　D:微　F:中	煤付着
63	B包含層	口縁部	貝殻腹縁連続刺突文 沈線文・条痕	条痕 ﾅﾃﾞ	良	橙色 (2.5YR6/6)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:微　B:微　D:微　F:少	

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
64	B包含層	胴部	貝殻腹縁連続刺突文 条痕・ﾅﾃﾞ	条痕 ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	A:微　C:少　E:中　F:多	
65	－	口縁部	横位貝殻条痕 斜位貝殻腹縁刺突	横位貝殻条痕	良	褐色 (7.5YR4/3)	橙色 (7.5YR6/6)	A:少　D:少　F:中	
66	－	口縁部	斜位貝殻腹縁刺突 横位貝殻条痕　不定方向のｹｽﾞﾘ	不定方向のｹｽﾞﾘ	良	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	D:微　F:少	
67	B包含層	胴部	斜位貝殻腹縁刺突	条痕	良	明赤褐色～にぶい黄橙色 (5YR5/6～10YR6/4)	橙色 (5YR6/6)	C:中　F:中	煤付着
68	SA23(混)	口縁部	貝殻連続刺突文 条痕・ﾅﾃﾞ	条痕 ﾅﾃﾞ	良	明赤褐色 (5YR5/8)	明赤褐色 (5YR5/8)	A:微　F:少	
69	B包含層	口縁部	沈線文 条痕		やや良	明黄褐色 (10YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	C:微　F:少	
70	SA02	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	灰黄褐色 (10YR6/2)	橙色 (7.5YR6/8)	A:微　C:微　D:中　F:多　H:中	煤付着
71	SA02	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ 条痕	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4～6/4)	浅黄橙色 (2.5YR7/3)	B:微　C:少　E:中　F:中	
72	SA02	胴部	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	A:少　C:中　D:少　E:少　F:多	煤付着
73	SA02	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	橙色 (5YR7/6)	橙色 (5YR7/6)	A:微　D:微　F:中	
74	SA02	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰黄褐色 (10YR4/2)	A:微　C:微　D:中　F:多　H:少	
75	SA02	胴部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	赤褐色 (5YR4/6)	橙色 (5YR6/6)	B:微　F:中　H:少	
76	SA02	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (7.5YR7/6)	A:微　D:少　F:少	
77	SA03	口縁部～	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	良	明赤褐色～黒褐色 (5YR5/6～7.5YR3/2)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	B:中　C:中　D:多　F:多	煤付着
78	SA03	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (7.5YR3/2)	灰褐色 (7.5YR4/2)	B:中　C:多　D:少　F:中	煤付着
79	SA03	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (7.5YR3/2)	黒褐色 (7.5YR3/2)	A:微　D:少　F:少　G:微	
80	SA03	口縁部～	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	良	にぶい橙色～黒色 (5YR6/4～10YR2/1)	暗褐色 (10YR3/3)	A:微　B:少　C:中　D:少　F:多　G:少	黒色磨研系 煤付着
81	SA03	口縁部	ﾅﾃﾞ	凹線文 ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR5/3)	浅黄橙色 (10YR8/4)	C:少　E:微　F:中	
82	SA03	口縁部	ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	A:微　F:中	煤付着
83	SA04	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (7.5YR3/1)	暗赤褐色 (5YR3/6)	A:少　D:微　F:多	煤付着
84	SA04	底部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	明褐色 (7.5YR5/6)	暗灰黄色 (2.5YR4/2)	A:微　B:中　C:中　F:中　H:微	煤付着

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
85	SA04	底部	不明	ﾅﾃﾞ	やや不良	橙色 (5YR7/6～7/8)	浅黄色 (2.5YR7/3～7/4)	D:中　F:多	
86	SA04	脚部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄色～黄灰色 (2.5Y6/4～4/1)	にぶい黄色～黄灰色 (2.5Y6/4～4/1)	A:微　D:少　E:微　F:少	
87	SA05	口縁部	不明	ﾐｶﾞｷ	良	黒色 (10YR1.7/1)	黒色 (10YR1.7/1)	A:微　E:微　F:中　G:少	
88	SA05	口縁部	ﾅﾃﾞ	不明	良	褐色～黒褐色 (7.5YR4/3～3/1)	褐色～黒褐色 (7.5YR4/3～3/1)	A:少　C:少　D:中　F:多	
89	SA05	胴部	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	良	褐色 (10YR4/4)	褐色 (10YR4/4)	A:微　B:微　F:中　G:少	煤付着
90	SA05	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	C:微　E:微　F:中	
91	SA06	口縁部～	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/8)	橙色 (5YR6/8)	B:微　E:少　F:中	煤付着
92	SA06	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (5YR3/1)	明赤褐色 (5YR5/8)	A:中　B:中　C:多　F:多　H:微	黒色磨研系
93	SA06	口縁部	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	灰褐色 (7.5YR4/2)	A:微　D:微　E:微　F:微	煤付着
94	SA06	口縁部 ～底部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (7.5YR3/1)	黒褐色 (7.5YR3/1)	F:少	
95	SA06	口縁部～	ﾅﾃﾞ	不明	良	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	A:微　B:微　C:多　D:少　E:少　F:多	
96	SA06	胴部	ﾐｶﾞｷ	不明	良	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	A:微　B:中　C:多　D:少　E:少　F:多	
97	SA06	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	C:中　D:微　F:中	
98	SA07	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR7/6)	A:少　B:微　E:多　F:中	煤付着
99	SA07	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR7/6)	橙色 (5YR7/6)	C:微　F:微	煤付着
100	SA07	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (7.5YR3/1)	暗褐色 (7.5YR3/3)	A:微　F:微	煤付着
101	SA07	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	灰褐色 (5YR4/2)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	F:微　G:微	煤付着
102	SA07	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	暗赤褐色 (5YR3/2)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	B:微　F:少　G:少	
103	SA07	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色 (7.5YR5/4)	橙色 (5YR6/6)	A:少　E:中　F:中	
104	SA07	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	C:微　F:微	煤付着
105	SA07	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	良	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	暗赤褐色 (5YR3/2)	F:微　G:少	
106	SA07	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	A:微　E:微　F:微	

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
107	SA07	底部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	やや良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	D:微　F:微	
108	SA08	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (10YR3/2～7.5YR3/2)	黒褐色 (10YR3/2～7.5YR3/2)	B:微　C:少　D:少　E:少　F:多　G:微	
109	SA08	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	口縁部付近：ﾐｶﾞｷ 不明	良	黒褐色 (7.5YR3/2)	褐色 (7.5YR4/4)	A:微　C:微　D:多　E:微　F:多	黒色磨研系
110	SA08	口縁部～	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	B:中　C:少　D:中　E:多　F:多　G:微	煤付着
111	SA08	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (10YR3/2)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	C:少　D:少　E:微　F:中	口縁上部に穿孔
112	SA08	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色～黒褐色 (10YR6/4～7.5YR3/1)	にぶい黄橙色～黒褐色 (10YR6/4～7.5YR3/1)	A:微　B:少　C:少　D:中　F:多　G:微	
113	SA08	胴部	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	褐灰色 (7.5YR5/1)	D:微　E:多　F:中	
114	SA08	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	淡黄色 (2.5Y8/3)	黄灰色 (2.5Y6/1)	B:微　C:微　D:少　F:少	
115	SA08	底部	ｹｽﾞﾘ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	黒褐色 (10YR3/1)	A:微　C:多　D:少　F:多	
116	SA09	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ 不明	良	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	A:中　C:少　D:多　F:多	黒色磨研系
117	SA09	胴部	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	不明	良	明赤褐色 (5YR5/6)	褐色 (7.5YR4/3)	A:少　B:微　C:多　D:多　F:多	
118	SA09	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	明赤褐色 (5YR3/2)	橙色 (5YR6/8)	A:少　B:微　F:多	
119	SA09	胴部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (5YR5/2)	橙色 (5YR6/6)	A:中　C:微　D:少　E:微　F:少	
120	SA09	底部	ﾐｶﾞｷ 底：ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰黄色 (2.5Y6/2)	淡黄色 (2.5Y8/3)	A:微　D:少　E:微　F:少	
121	SA10	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	灰褐色～黒褐色 (5YR4/2～3/1)	灰褐色～黒褐色 (5YR4/2～3/1)	C:微　D:少　F:少　G:微	黒色磨研系
122	SA10	口縁部	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR6/6)	A:微　D:少　F:少　G:少	
123	SA10	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:微　D:少　E:少　F:多	
124	SA10	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒色 (10YR2/1)	黒色 (10YR2/1)	C:微　D:少　G:少	黒色磨研系
125	SA10	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	B:微　C:微　D:多　F:多　G:微	
126	SA10	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (10YR2/2)	明赤褐色 (5YR5/6)	A:中　B:微　D:多　E:少　F:多	黒色磨研系 煤付着
127	SA10	口縁部～	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	明褐色～褐色 (7.5YR5/6～4/3)	明褐色～褐色 (7.5YR5/6～4/3)	A:多　B:多　D:少　F:多	
128	SA10	口縁部～	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	良	明赤褐色 (5YR3/2)	灰褐色 (5YR4/2)	A:微　B:微　D:中　F:多　G:少	煤付着

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
129	SA10	頸部	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ 不明	良	褐色～灰褐色 (7.5YR4/3～4/2)	褐色～灰褐色 (7.5YR4/3～4/2)	A:多　B:少　C:多　D:少　F:多	煤付着
130	SA10	頸部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	灰褐色 (7.5YR4/2)	A:多　C:微　D:中　F:中	黒色磨研系 煤付着
131	SA10	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	C:微　D:微　E:微　F:中	
132	SA10	底部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:多　B:中　E:中　F:中	煤付着
133	SA11	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	にぶい赤褐色 (5YR5/3)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	A:微　F:微	
134	SA12	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (7.5YR3/2)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	A:微　F:少	
135	SA12	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	灰黄褐色 (10YR4/2)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	A:微　D:少　F:少	
136	SA12	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄褐色～黒褐色 (10YR5/4～3/1)	灰黄褐色～黒褐色 (10YR5/2～3/1)	B:少　F:少　G:微　H:微	煤付着
137	SA12	胴部	ﾅﾃﾞ	不明	良	橙色～黒褐色 (7.5YR6/6～10YR3/2)	橙色～黒褐色 (7.5YR6/6～10YR3/2)	D:少　F:中	煤付着
138	SA12	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	暗赤褐色 (5YR3/4)	A:微　F:中　H:微	
139	SA12	頸部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	A:微　F:少	煤付着
140	SA12	頸部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	C:微　F:少	
141	SA12	胴部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (5YR4/2)	暗赤褐色 (5YR3/2)	A:微　B:微　F:少　G:微	煤付着
142	SA14	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (10YR3/2)	灰黄褐色 (10YR4/2)	B:少　C:微　F:少	
143	SA14	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	良	黒色 (7.5YR2/1)	黒褐色 (7.5YR3/1)	F:微　G:微	
144	SA14	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (5YR2/1)	黒褐色 (5YR3/1)	F:微　G:微	
145	SA14	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒色 (7.5YR2/1)	黒褐色 (7.5YR3/1)	F:中　G:微	
146	SA15	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (5YR4/2)	褐色 (7.5YR4/4)	B:少　C:微　F:少	煤付着
147	SA15	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (7.5YR3/1)	黒褐色 (7.5YR3/2)	A:少　F:少　G:微	煤付着
148	SA15	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	明褐色 (7.5YR5/6)	橙色 (7.5YR7/6)	B:微　F:微　G:少	
149	SA15	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	赤褐色 (5YR4/6)	明赤褐色 (5YR5/6)	A:微　F:微	
150	SA15	胴部	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ	良	褐色 (7.5YR4/3)	明褐色 (7.5YR5/6)	D:多　F:多	煤付着

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
151	SA15	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	A:微　C:微　F:少	
152	SA17	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (5YR3/1)	橙色 (5YR6/6)	D:微　F:微	
153	SA17	胴部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	B:微　D:微　F:微	
154	SA17	胴部	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	A:微　F:微	
155	SA17	胴部	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR6/6)	A:微　C:微　F:少	
156	SA17	胴部	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	やや不良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR6/6)	A:少　C:少　F:少	
157	SA17	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	明赤褐色 (5YR5/6)	F:微	煤付着
158	SA17	胴部	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	やや不良	明赤褐色 (5YR5/8)	黒褐色 (5YR3/1)	A:少　D:微　F:中	
159	SA17	底部	不明	不明	良	橙色 (5YR7/6)	褐灰色 (5YR5/1)	C:微　D:微　F:少	
160	SA17	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	A:微　F:微	
161	SA19	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	浅黄橙色 (10YR8/3)	A:微　D:微　E:微　F:多	
162	SA19	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	B:微　C:微　D:少	
163	SA19	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	暗褐色 (10YR3/3)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:微　D:微　F:少	煤付着
164	SA19	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (10YR3/2)	黒褐色 (10YR3/2)	B:少　C:微　D:少　F:少	
165	SA19	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	やや不良	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	A:微　B:微　E:少　F:多	煤付着
166	SA19	胴部	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	やや良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	B:微　D:微　E:多　F:多	煤付着
167	SA19	底部	ﾐｶﾞｷ	不明	やや不良	明赤褐色 (5YR5/8)	黄橙色 (10YR8/6)	A:少　B:微　F:多　G:微	煤付着
168	SA19	口縁部～	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	良	橙色～黒褐色 (7.5YR6/6～10YR3/1)	橙色～黒褐色 (7.5YR6/6～10YR3/1)	A:少　B:微　C:微　D:少　E:中　F:多	煤付着
169	SA19	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	やや良	褐色 (7.5YR4/4)	褐色 (7.5YR4/4)	A:微　B:少　C:微　D:中　F:中　G:微	煤付着
170	SA19	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	明赤褐色 (5YR5/6)	灰褐色 (5YR4/2)	A:微　B:中　C:微　D:中　F:中　G:微	
171	SA19	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	暗赤褐色 (5YR3/2)	にぶい赤褐色 (5YR5/3)	C:少　D:中　F:少	
172	SA19	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (7.5YR3/1)	黒褐色 (7.5YR3/1)	A:微　D:微　F:少　G:中	

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

遺物番号	遺構名	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
173	SA19	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (10YR3/2)	橙色 (7.5YR6/6)	B:微　C:微　D:少　F:少	
174	SA19	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (10YR2/2)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	A:微　C:少　D:中　E:微　F:多　G:微	
175	SA19	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (5YR3/1)	明赤褐色 (5YR5/6)	B:微　D:少　F:少　G:微	煤付着
176	SA19	底部	底：ﾅﾃﾞ	不明	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:微　C:微　E:微　F:多	煤付着
177	SA19	脚部	不明	不明	やや不良	明赤褐色 (5YR5/6)	明赤褐色 (5YR5/6)	A:少　C:少　D:多　E:微　F:多	
178	SA19	口縁部～	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色～黒褐色 (7.5YR5/4～3/1)	橙色～灰黄褐色 (7.5YR6/6～4/2)	A:少　B:中　C:少　F:多　G:中	煤付着
179	SA19	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色～明黄橙色 (2.5YR3/2～10YR7/6)	橙色～にぶい褐色 (7.5YR6/6～6/3)	B:微　C:微　D:少　E:少　F:多	
180	SA19	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	暗褐色 (7.5YR3/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	A:少　B:中　C:中　D:中　F:中	
181	SA19	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	やや良	橙色 (5YR6/8)	灰褐色 (5YR4/2)	A:少　B:少　D:少　F:多　G:微	煤付着
182	SA19	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ ｹｽﾞﾘ	良	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～3/1)	B:少　D:多　F:多　G:中	黒色磨研系
183	SA19	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	A:微　B:少　D:中　F:多　G:中	
184	SA20	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	赤褐色～暗赤褐色 (5YR4/6～3/2)	明赤褐色～灰黄褐色 (5YR5/6～10YR4/2)	A:中　B:微　C:少　D:微　F:多	煤付着
185	SA20	口縁部～	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰黄褐色 (10YR4/2)	B:微　D:多　F:多　G:中	
186	SA20	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	ｵﾘｰﾌﾞ黒色 (5Y3/1)	にぶい褐色～灰褐色 (7.5YR5/4～4/2)	A:少　B:微　F:中	
187	SA20	胴部	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	不良	明赤褐色 (5YR5/8)	浅黄色 (5YR7/4)	B:微　C:中　D:多　F:多	煤付着
188	SA20	胴部	ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	良	にぶい黄橙色～褐灰色 (10YR7/4～4/1)	にぶい黄橙色～褐灰色 (10YR7/4～4/1)	A:中　B:微　D:微　F:中	
189	SA21	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	D:微　E:中　F:少	
190	SA22	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR7/6)	A:微　C:微　E:少　F:中	煤付着
191	SA22	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR6/6)	C:微　D:少　F:少	煤付着
192	SA22	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	A:微　B:微　D:微　F:微	煤付着
193	SA23	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	A:微　F:微	煤付着
194	SA23	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR6/6)	A:微　B:微　F:中	煤付着

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

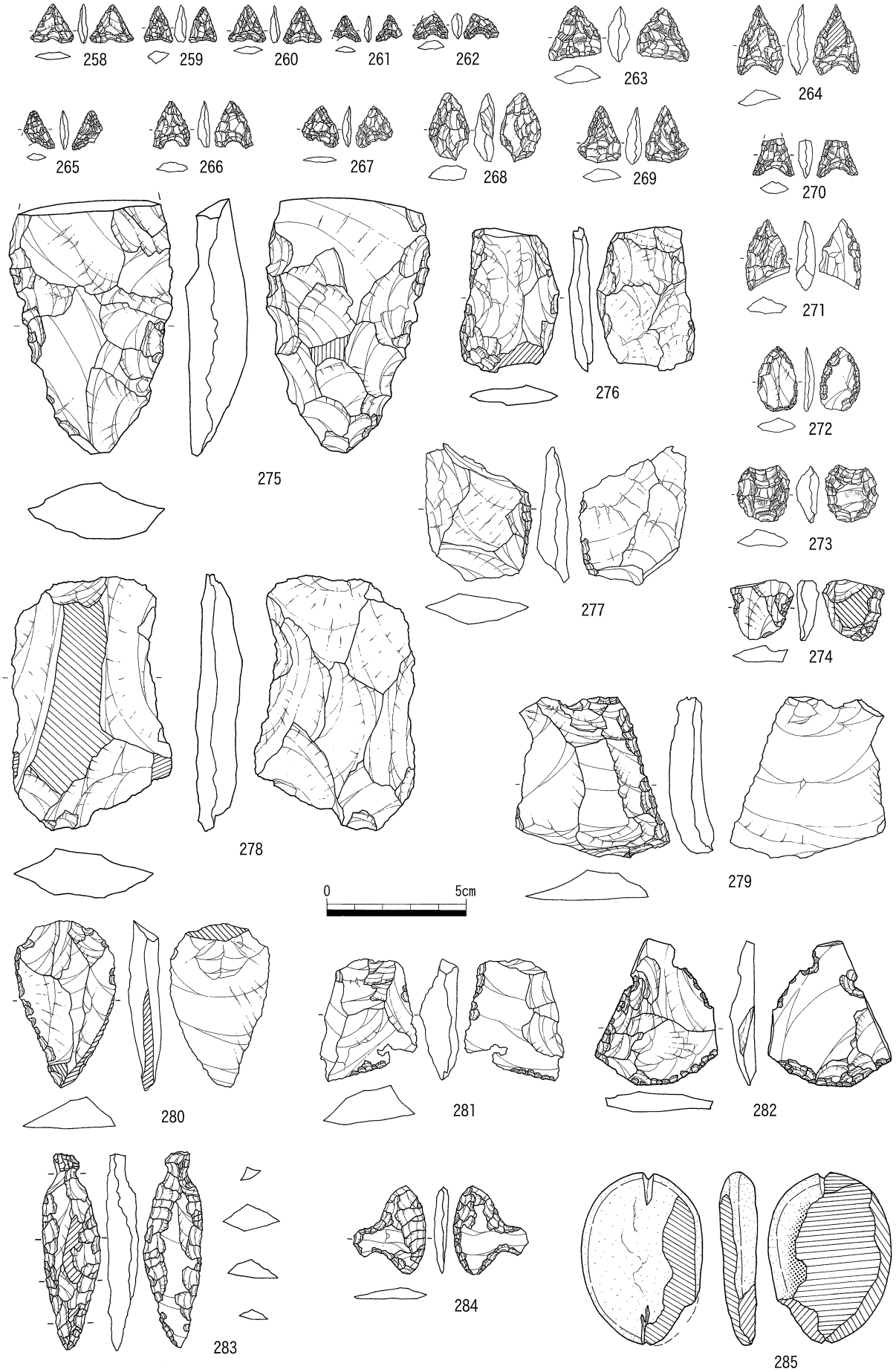
遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
195	SA23	胴部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (7.5YR7/6)	A:少　F:中	煤付着
196	SA23	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	良	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	灰褐色 (5YR4/2)	A:少　B:中　F:中	煤付着
197	SA23	胴部	ｹｽﾞﾘ ﾐｶﾞｷ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	明赤褐色 (2.5YR5/6)	橙色 (2.5YR6/6)	B:少　C:微　F:中	煤付着
198	SC01	口縁部～	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR6/6)	D:微　E:微　F:中	煤付着
199	SC01	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	A:微　B:微　D:微　E:微	煤付着
200	－	底部	底：ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	橙色 (5YR6/6)	黒褐色 (7.5YR2/2)	A:少　B:微　D:中　G:少	
201	－	口縁部 ～底部	ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	C:微　D:微　F:中	煤付着
202	－	頸部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	B:微　F:多	煤付着
203	－	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	E:少　F:多	
204	－	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR4/3)	橙色 (7.5YR7/6)	A:微　D:少	煤付着
205	－	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	灰褐色 (7.5YR4/2)	灰褐色 (7.5YR4/2)	A:中　D:少　F:中	煤付着
206	－	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	B:微　F:少	
207	－	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	A:微　D:少　F:中	
208	－	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (10YR2/3)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	A:多　B:少	
209	－	口縁部	沈線 ﾐｶﾞｷ	条痕 ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	灰黄褐色 (10YR4/2)	A:少　F:少	
210	C撹乱	口縁部～	ﾅﾃﾞ	不明	やや不良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR7/6)	C:少　D:少　E:多　F:少	
211	B包含層	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	浅黄色～橙色 (2.5Y7/3～2.5YR6/6)	C:少　E:微　F:中	煤付着
212	B包含層	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色～灰黄褐色 (7.5YR6/4～10YR5/2)	橙色 (5YR6/6)	C:少　E:微　F:中	煤付着
213	C撹乱	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/8)	C:微　D:微　F:中	
214	B包含層	口縁部	沈線 ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	B:微　C:少　F:少	
215	C包含層	口縁部	ﾅﾃﾞ	不明	良	赤褐色 (2.5YR4/6)	赤褐色 (2.5YR4/6)	A:中　F:多	煤付着
216	C撹乱	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	不明	良	橙色 (5YR7/6)	橙色 (5YR7/6)	C:微　E:中　F:少	

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

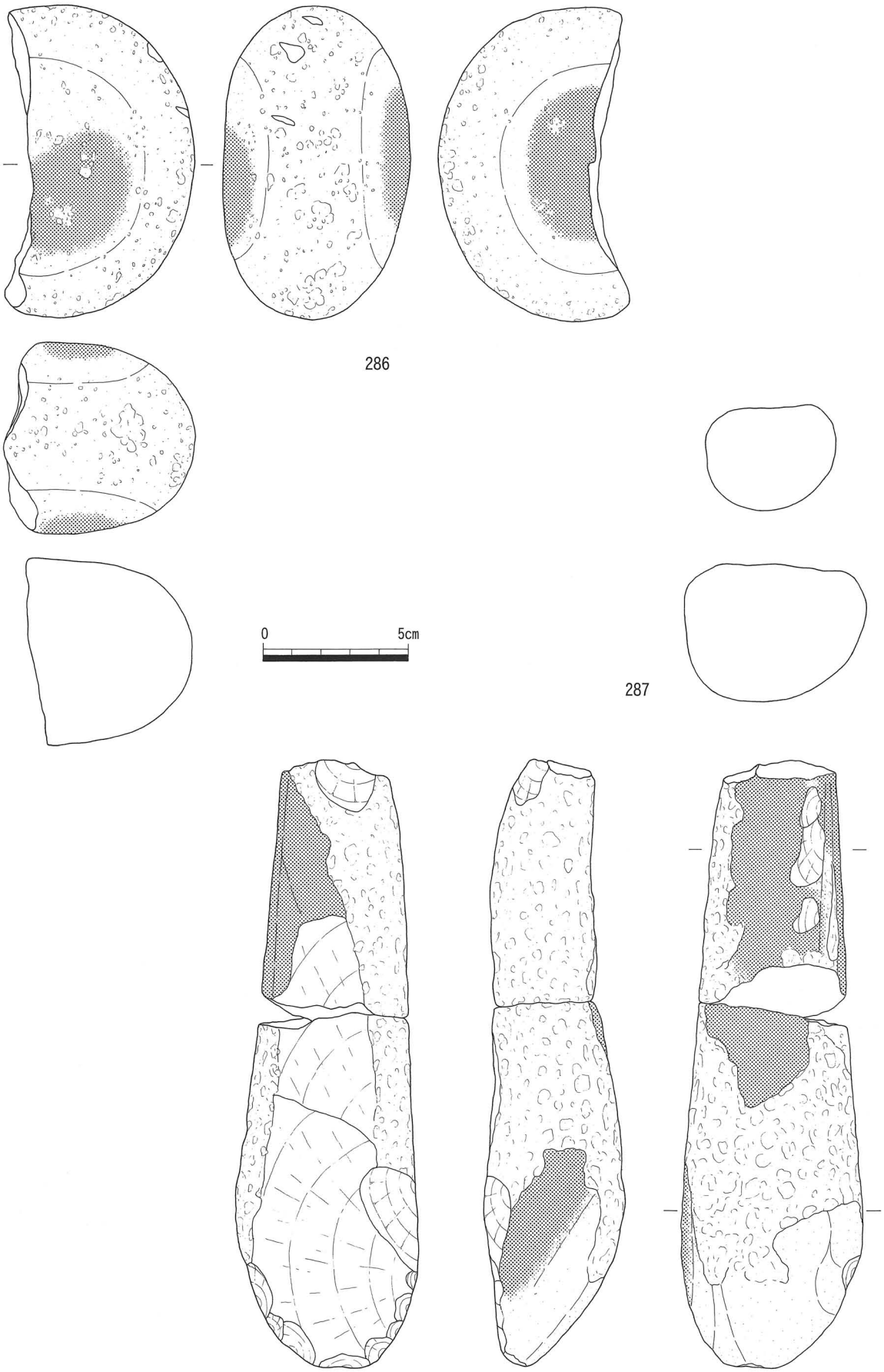
遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
217	C撹乱	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	明黄褐色 (10YR6/6)	F:少	
218	C撹乱	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	F:微	煤付着
219	C撹乱	口縁部	ｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	良	褐色 (10YR4/6)	明褐色 (7.5YR5/6)	C:微　D:微　E:微　F:少	煤付着
220	B包含層	口縁部	ﾅﾃﾞ	沈線 ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	C:微　D:少　E:微　F:中	
221	C包含層	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色～にぶい黄橙色 (5YR6/6～10YR7/4)	B:微　C:少　D:少　E:多　F:多	煤付着
222	C撹乱	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	C:少　D:微　E:中　F:少	煤付着
223	C撹乱	口縁部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	C:微　D:微　E:微　F:中	煤付着
224	C撹乱	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	褐色 (7.5YR4/3)	橙色 (7.5YR6/6)	C:微　D:少　E:少　F:中	
225	B包含層	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	橙色～灰黄褐色 (7.5YR6/6～10YR5/2)	橙色～灰黄褐色 (7.5YR6/6～10YR5/2)	C:微　E:微　F:少	煤付着
226	B包含層	口縁部～	不明	不明	良	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	灰黄色～橙色 (2.5Y7/2～5YR6/6)	C:微　F:少	煤付着
227	C撹乱	口縁部	浅い沈線文 ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	橙色 (5YR6/8)	橙色 (5YR6/6)	A:微　C:少　D:少　F:多	
228	C撹乱	胴部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	B:微　C:微　D:微　E:微　F:中	
229	B包含層	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	にぶい橙色～灰黄褐色 (5YR6/4～10YR4/2)	にぶい橙色～灰黄褐色 (5YR6/4～10YR4/2)	C:微　D:微　E:微　F:少	煤付着
230	B包含層	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	やや不良	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	B:微　E:微　F:少	
231	C撹乱	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	明赤褐色 (5YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)	A:微　D:微　F:少	
232	C包含層	胴部	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	A:微　F:少	煤付着
233	C撹乱	胴部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	A:微　D:微　F:少	
234	C撹乱	胴部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	やや不良	にぶい黄橙色～にぶい橙色 (10YR7/4～5YR7/4)	にぶい黄色～橙色 (2.5Y6/3～7.5YR6/6)	B:微　F:少	煤付着
235	C包含層	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	不良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	浅黄橙色～にぶい橙色 (10YR8/4～2.5YR6/3)	C:微　F:少	煤付着
236	C包含層	底部	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	やや不良	橙色 (7.5YR6/6～2.5YR6/8)	橙色 (5YR6/6)	A:少　C:微　D:少　F:多	
237	C撹乱	底部	ﾐｶﾞｷ	不明	やや不良	褐色 (7.5YR4/6)	灰黄褐色 (10YR5/2)	A:少　C:微　F:多　H:微	煤付着
238	C撹乱	底部	不明	ﾅﾃﾞ	やや不良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	C:微　E:中　F:多	

胎土（A：長石　B：角閃石　C：石英　D：白色粒　E：赤色粒　F：砂粒　G:雲母　H：パミス）　（特多：特に多量　多：多量　中：中量　少：少量　微：微量）

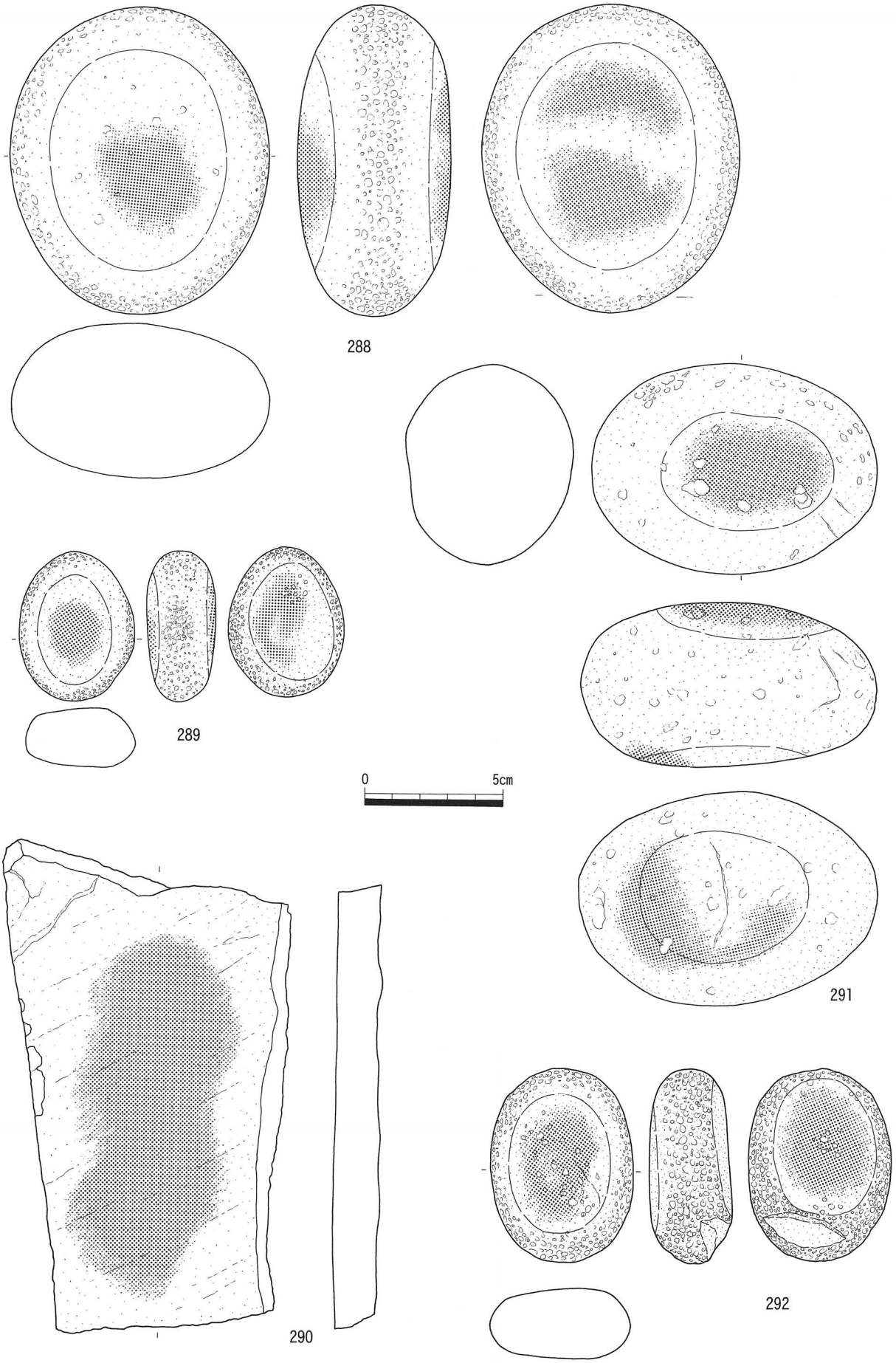
遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
239	C撹乱	底部	不明	ﾅﾃﾞ	やや不良	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	B:微　C:微　D:微　E:中	
240	C包含層	底部	不明	不明	不良	にぶい黄橙色～黄橙色 (10YR7/4～7.5YR7/8)	灰黄色 (2.5Y7/2)	A:少　C:中　D:微　F:多	煤付着
241	C撹乱	底部	ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	D:微　F:中	
242	C撹乱	底部	不明	不明	やや不良	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	A:微　D:少　F:多	煤付着
243	C撹乱	口縁部～	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (5YR2/1)	橙色 (5YR7/8)	A:中　B:中　C:中　D:少　F:中　G:微	
244	撹乱	頸部	ﾐｶﾞｷ	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	良	暗赤褐色 (5YR3/2)	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	A:微　D:中　F:多	煤付着
245	C撹乱	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒色 (10YR2/1)	黒色 (10YR2/1)	D:中　F:少　G:少	黒色磨研系
246	C撹乱	頸部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (5YR2/1)	明赤褐色 (5YR5/6)	A:少　D:中　F:中	黒色磨研系
247	B包含層	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	褐色 (7.5YR4/4)	橙色 (7.5YR6/6)	B:微　F:少	煤付着
248	C	頸部	浅い沈線文 ﾐｶﾞｷ	不明	良	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	黒色 (5YR1.7/1)	A:少　C:微　F:中　G:微	
249	C撹乱	頸部	ﾐｶﾞｷ	不明	良	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	赤褐色 (5YR4/6)	C:微　F:少　H:微	
250	C撹乱	口縁部	ﾐｶﾞｷ	不明	良	暗褐色 (10YR3/4)	暗褐色 (10YR3/4)	A:微　B:微　F:中	煤付着
251	C撹乱	口縁部～	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	黒褐色 (7.5YR3/2)	黒褐色 (7.5YR3/2)	A:少　D:中　F:中	
252	-	口縁部	ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良	明赤褐色 (5YR5/6)	明褐色 (7.5YR5/6)	A:少　C:中　F:多	煤付着
253	C撹乱	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	褐色 (7.5YR4/3)	褐色 (7.5YR4/3)	C:少　D:微　F:少	煤付着
254	B包含層	口縁部	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良	灰白色～灰黄褐色 (2.5Y8/2～10YR6/2)	灰黄褐色 (10YR6/2)	B:少　C:少　D:中　F:中	
255	B包含層	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (5YR3/1)	黒褐色 (5YR3/1)	F:微　G:微	
256	C	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒色 (10YR2/1)	黄灰色 (2.5Y4/1)	F:微	
257	B包含層	胴部	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	良	黒褐色 (10YR2/2)	明褐色～黒褐色 (7.5YR5/6～10YR3/1)	B:微　F:少　G:微	



第38図　縄文時代出土遺物実測図（石器）



第39図　縄文時代出土遺物実測図（石器）



第40図　縄文時代出土遺物実測図（石器）

第５節 古墳時代の遺構と遺物

調査区内において計３基の地下式横穴墓を検出した。当初は墓群の検出を想定していたが、現状は疎らな分布である。周辺での聞き取りでも、調査区外南西側の民家付近で数基が発見された程度のようであった。

(ST-01)

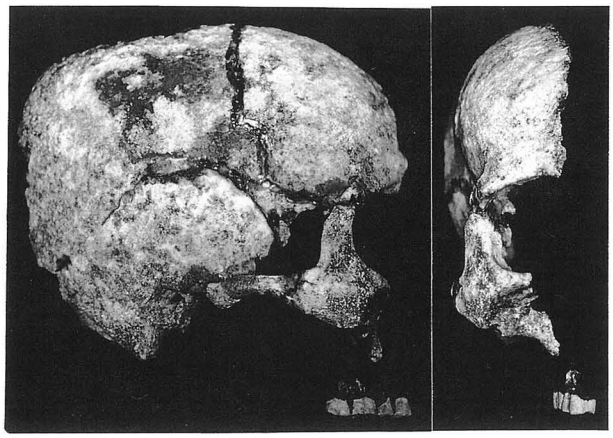
調査区の北西にある神社付近で検出した。玄室の天井部は既に崩壊しており、竪坑も半分以上が撹乱を受けていた。天井部崩落時に掘り返された可能性がある。人骨や副葬品等の遺物も残存しなかった。竪坑からの玄室方向は北東にとる。竪坑は２段の構造を呈し、砲弾形の平面プランを呈していたものと見られる。羨道部の長さは約0.53m、幅は約0.95mを測る。閉塞の状況は不明。玄室は左右非対象の両袖長方形を呈し、幅は約1.63m、奥行き約0.74mを測る。

(ST-02)

ST-01から南東に約41mの地点で検出した。耕作中の陥没で発見されたもの。昭和59年に宮崎県教育委員会により既に調査が終了している遺構であり、データの混同を避けるため計測値等の詳細には触れない。竪坑からの玄室方向は北西にとる。玄室は両袖長方形を呈する。以前調査時に出土した鉄刀1振は、町文化財調査事務所にて保管している。

(ST-03)

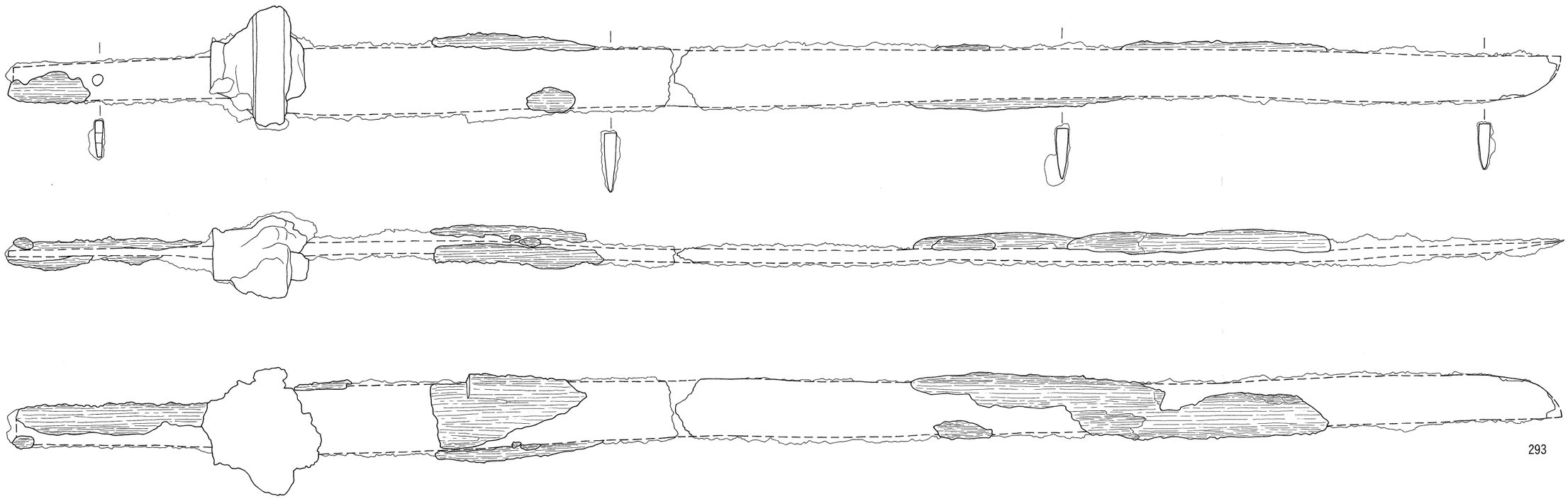
ST-02から東北東に約30.6mの地点で検出した。崩落等の無い唯一の地下式横穴墓である。竪坑は砲弾形の平面プランを呈し、２段構造で手前側は縦幅約0.35mのテラス状に造る。覆土はアカホヤブロック混じりの黒色土で、玄門部を粘土により閉塞する。玄門部は縦0.53m横0.66mで羨道部の長さは0.29mを測る。玄室は両袖長方形で縦断面横断面ともに台形を呈するが天井部中央のみを高くドーム状に造る。玄室南東に頭部を置き、一体の壮年女性が埋葬されていた。人骨の保存状態は不良で、頭蓋と下肢の一部が残存するのみであった。右頬骨には朱の付着が見られた。左肩横に鉄刀が１振（293）、右肩横に刀子が１本（294）と鉄斧が１本（294）、右頭部横に鉄鏃が４本（295～298）の副葬品が出土した。追葬等の痕跡は認められなかった。

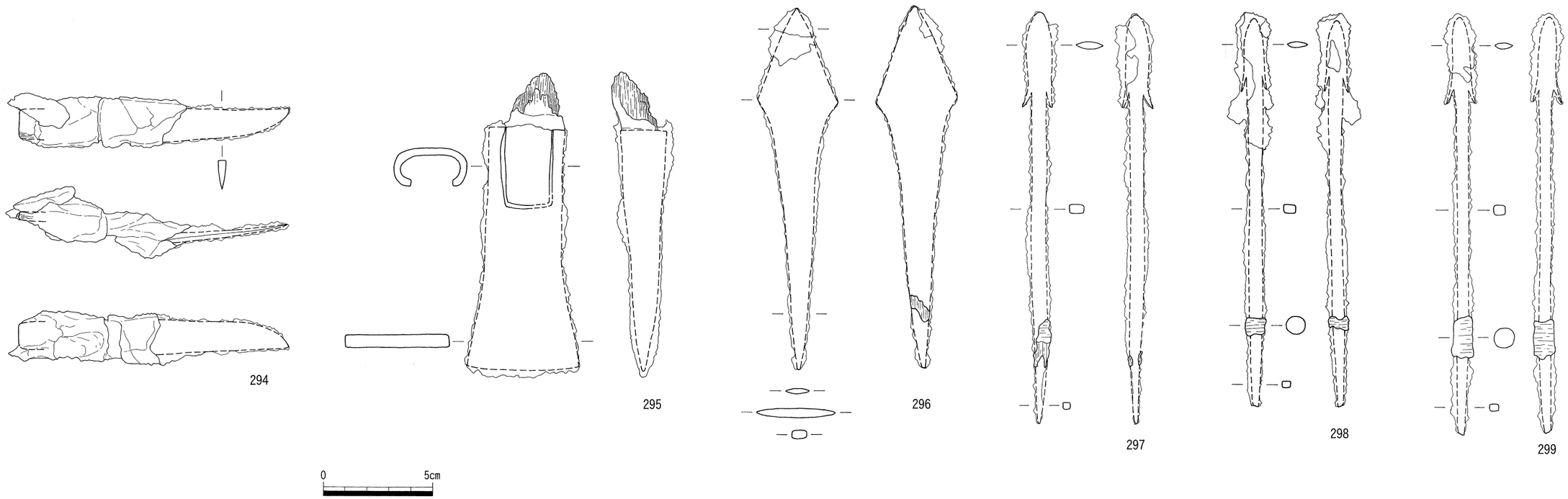


ST-03出土人骨

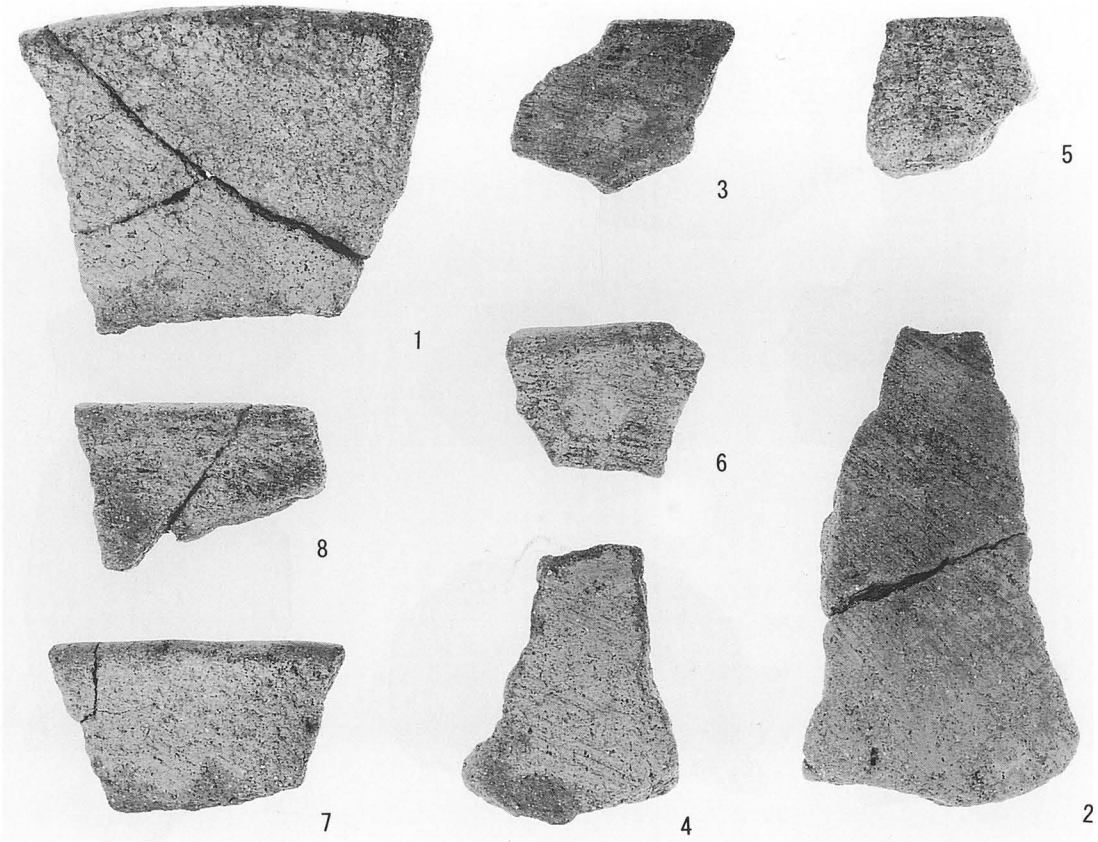
（参考文献及び関連文献ほか）

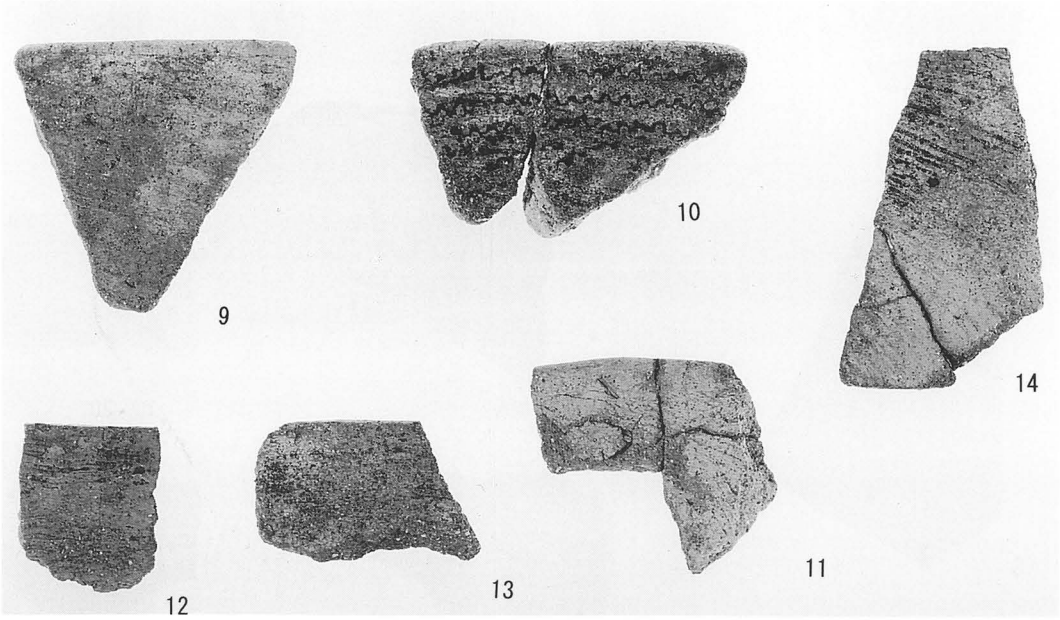
「芳ケ迫第１・第２・第３遺跡　札ノ元遺跡」田野町文化財調査報告書第３集　田野町教育委員会1986
「丸野第２遺跡」田野町文化財調査報告書第11集　田野町教育委員会1990
「田野町内遺跡詳細分布調査」田野町文化財調査報告書第12集　田野町教育委員会1990
「井手ノ尾遺跡」田野町文化財調査報告書第14集　田野町教育委員会1992
「長薮遺跡」田野町文化財調査報告書第17集　田野町教育委員会1994
「八重地区遺跡」田野町文化財調査報告書第19集　田野町教育委員会1994
「田野町内遺跡発掘調査」田野町文化財調査報告書第20集　田野町教育委員会1994
「七野第４遺跡」田野町文化財調査報告書第25集　田野町教育委員会1997
「鹿毛第３遺跡」田野町文化財調査報告書第28集　田野町教育委員会1998
「本野遺跡（縄文時代遺物編）」田野町文化財調査報告書第32集　田野町教育委員会1999
「本野遺跡（弥生時代の調査）」田野町文化財調査報告書第33集　田野町教育委員会2000
「高野原遺跡Ａ区」田野町文化財調査報告書第34集　田野町教育委員会2000
「高野原遺跡Ｂ・Ｃ区（１）」田野町文化財調査報告書第35集　田野町教育委員会2000
「高野原遺跡（Ｅ～Ｇ区）」田野町文化財調査報告書第36集　田野町教育委員会2000
「元野河内遺跡」田野町文化財調査報告書第39集　田野町教育委員会2001
「畑田遺跡」田野町文化財調査報告書第40集　田野町教育委員会2001
「本野原遺跡概要」田野町文化財調査報告書第44集　田野町教育委員会2002
「高野原遺跡Ｂ・Ｃ区（２）」田野町文化財調査報告書第45集　田野町教育委員会2003
「高野原遺跡Ｂ・Ｃ区（３）弥生時代の調査」田野町文化財調査報告書第46集　田野町教育委員会2003
「鹿村野地区遺跡」田野町文化財調査報告書第47集　田野町教育委員会2003
「天神河内第１遺跡」宮崎県教育委員会1991
「田野町史（下巻）」田野町1983
「平畑遺跡」宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第２集　宮崎県教育委員会1985
「学頭遺跡・八児遺跡」宮崎県教育委員会1995
「中村遺跡」山田町文化財調査報告書第１集　宮崎県山田町教育委員会1983
「鳥井原遺跡」熊本市教育委員会1977
水ノ江和同「中・南九州の曽田式土器」肥後考古第７号　1990
堂込秀人「南九州暁期土器の再検討－入佐式と黒川式の細分－」鹿児島考古第31号1997





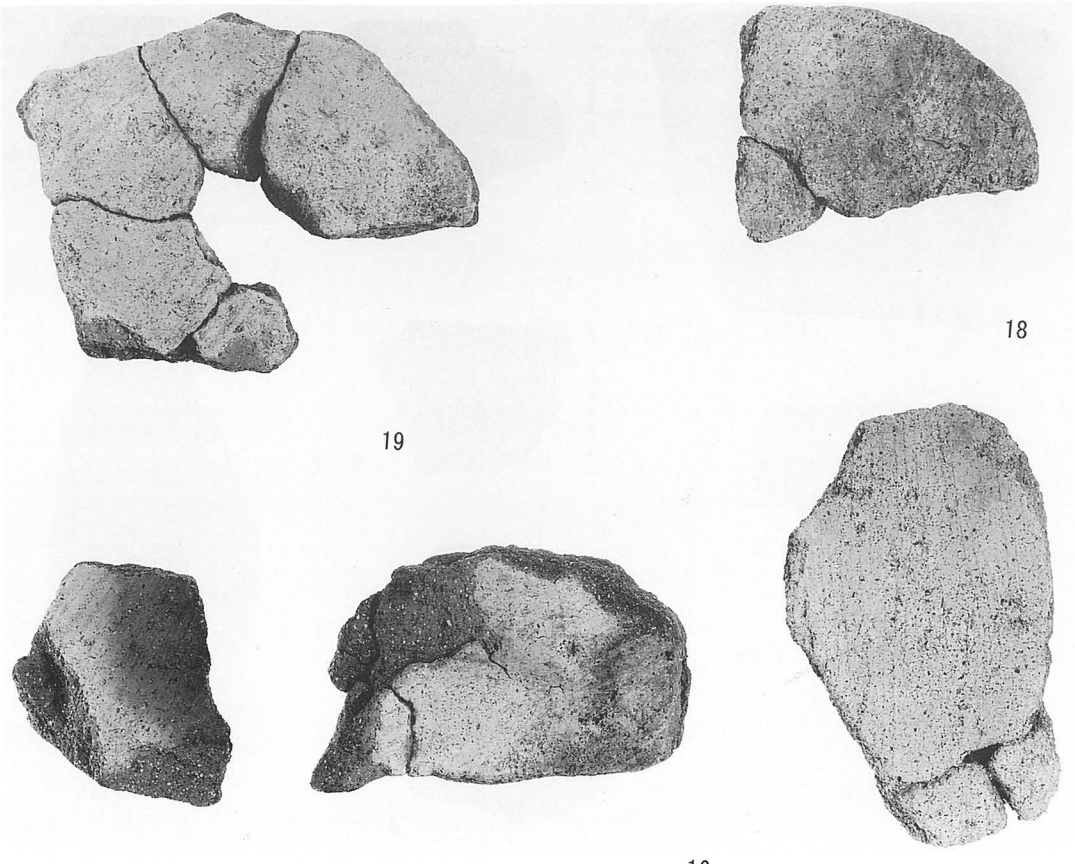
第41図　ST-03出土遺物実測図





縄文時代早期の土器

図版２



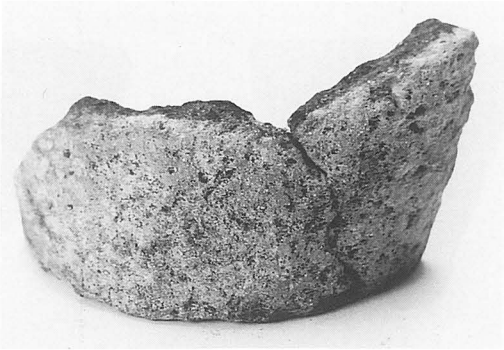
19

18

17

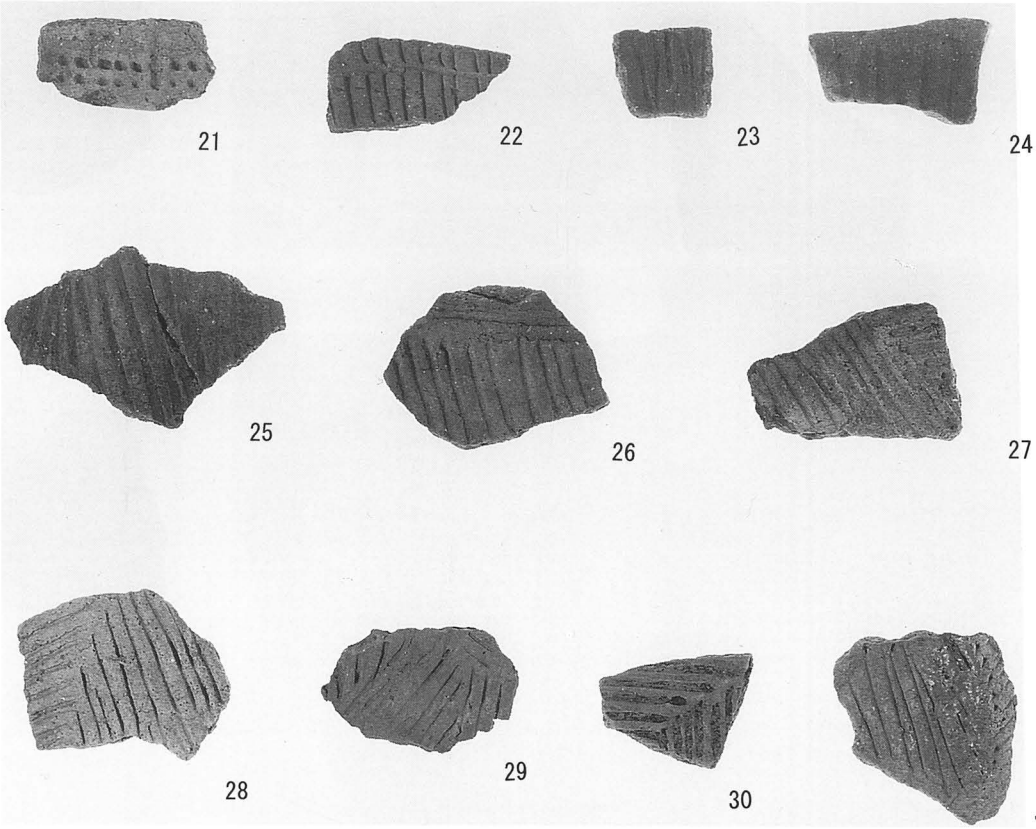
16

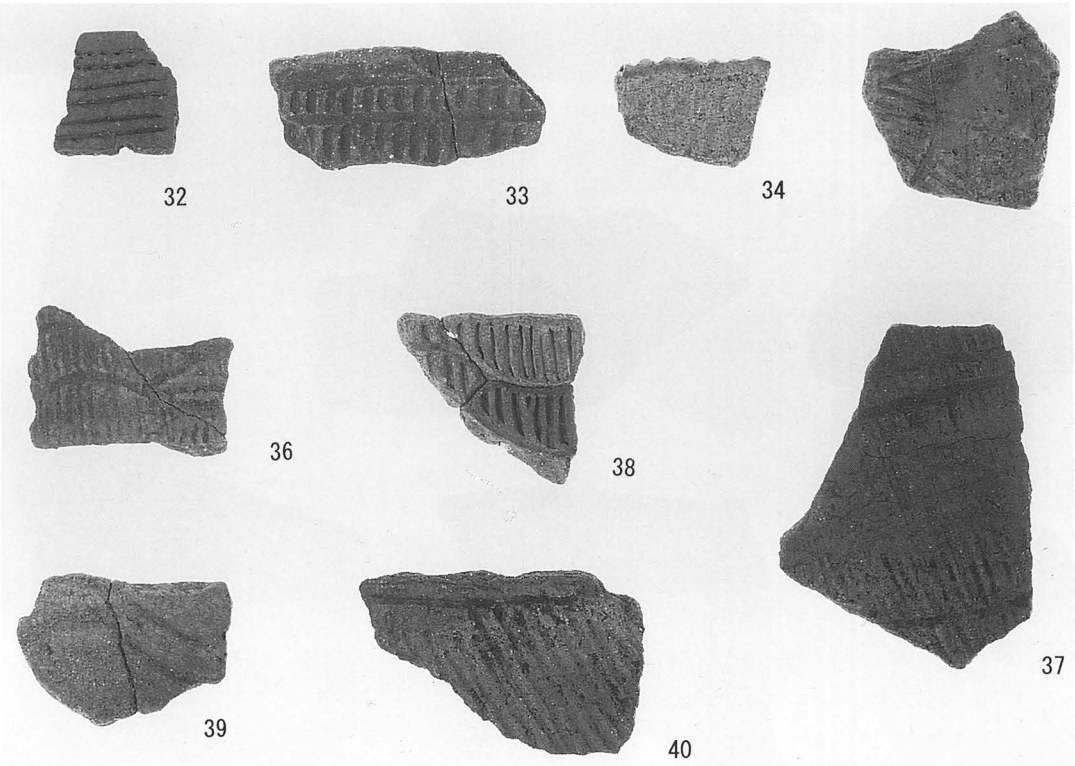
15



20

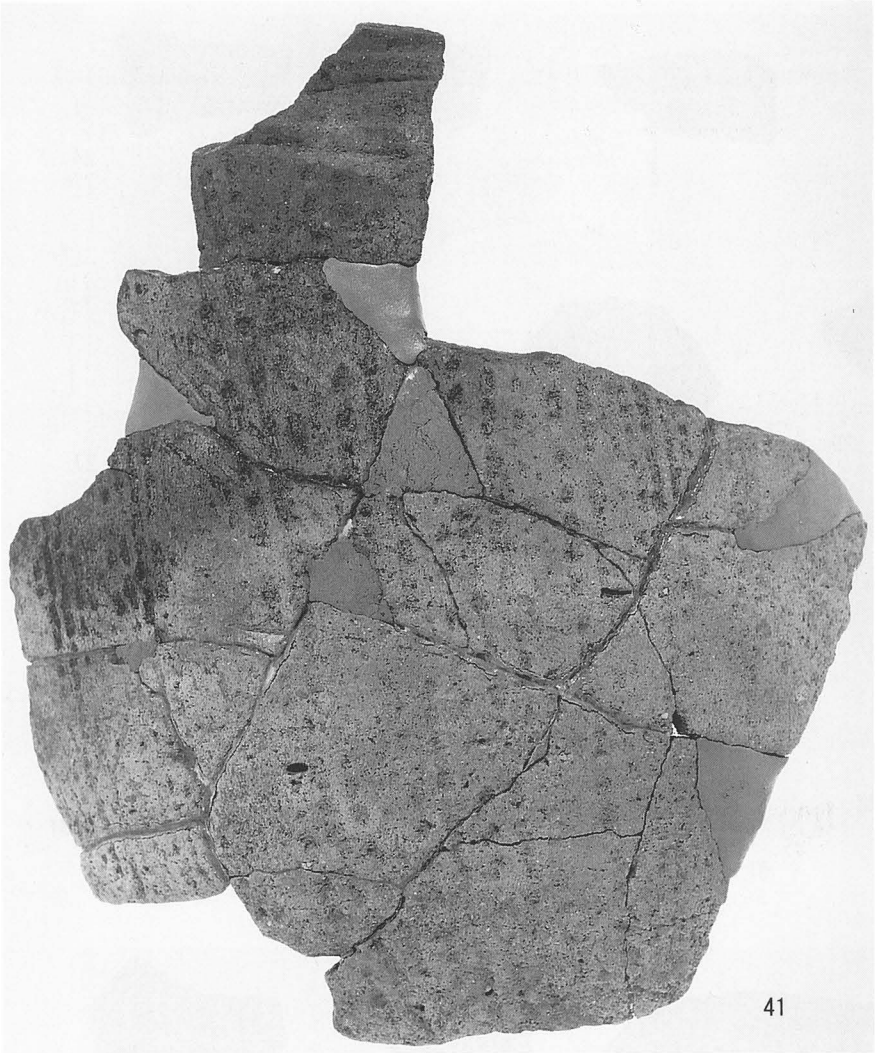
縄文時代早期の土器



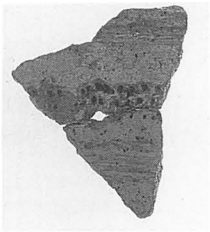


縄文時代前期の土器

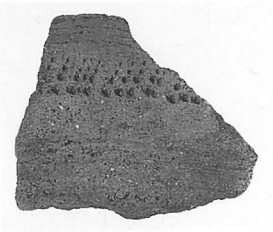
図版４



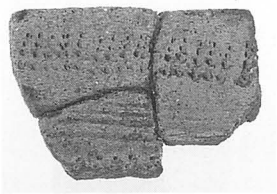
41



42

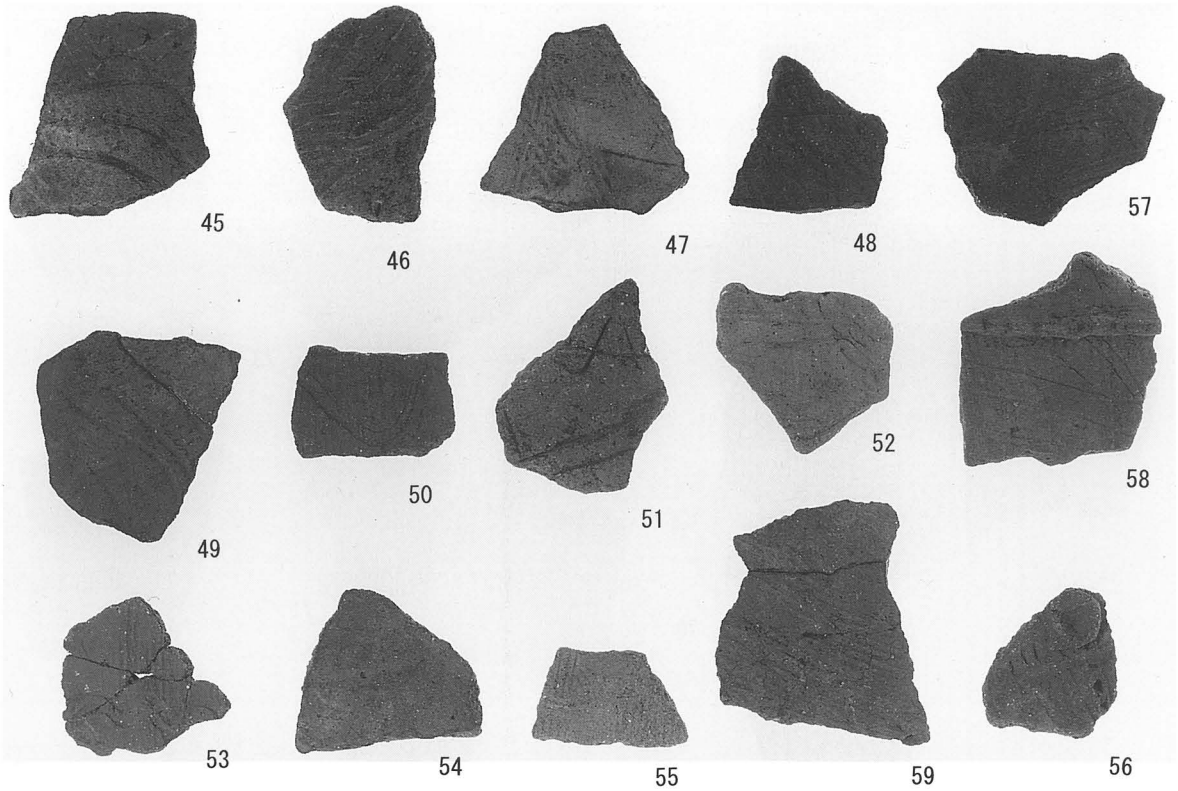


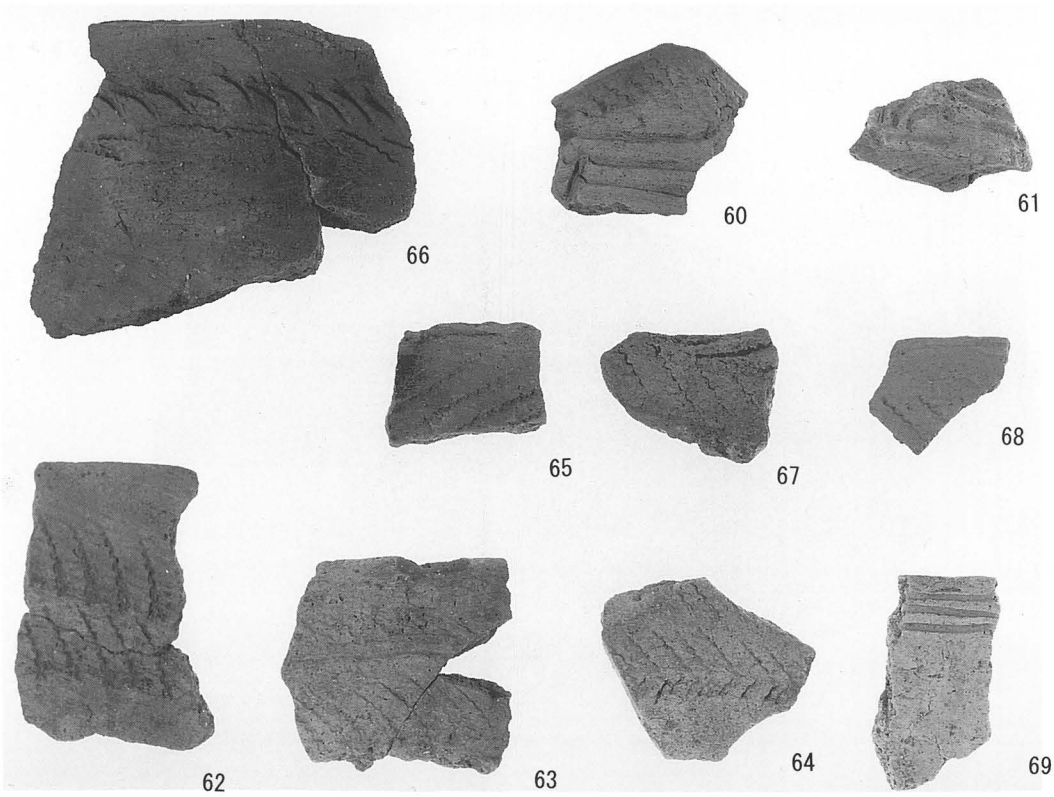
43



44

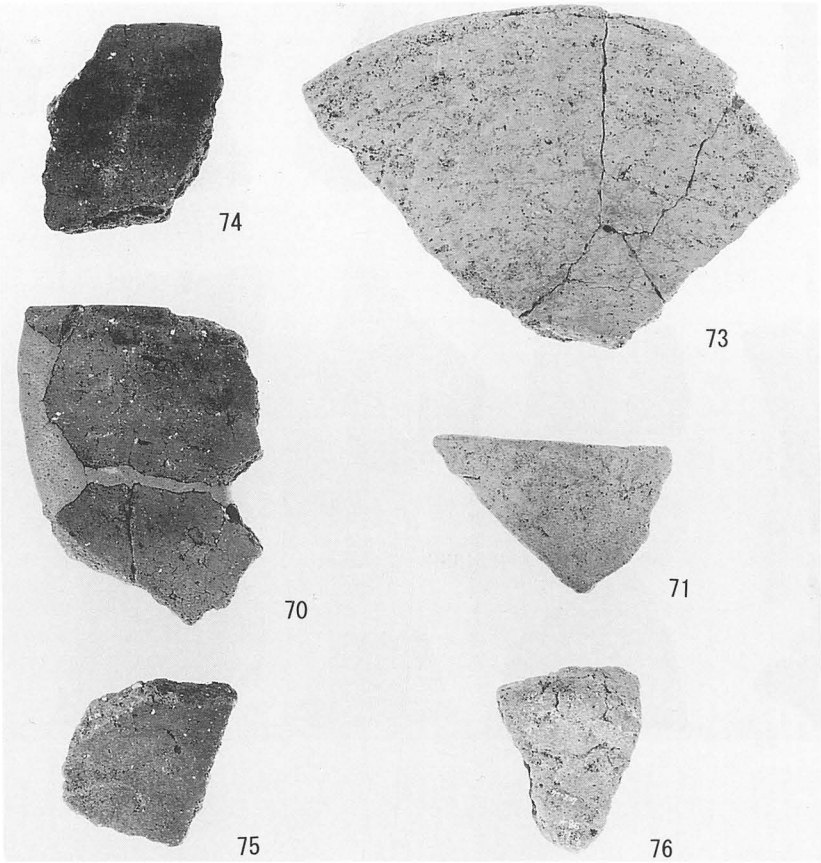
縄文時代前期の土器



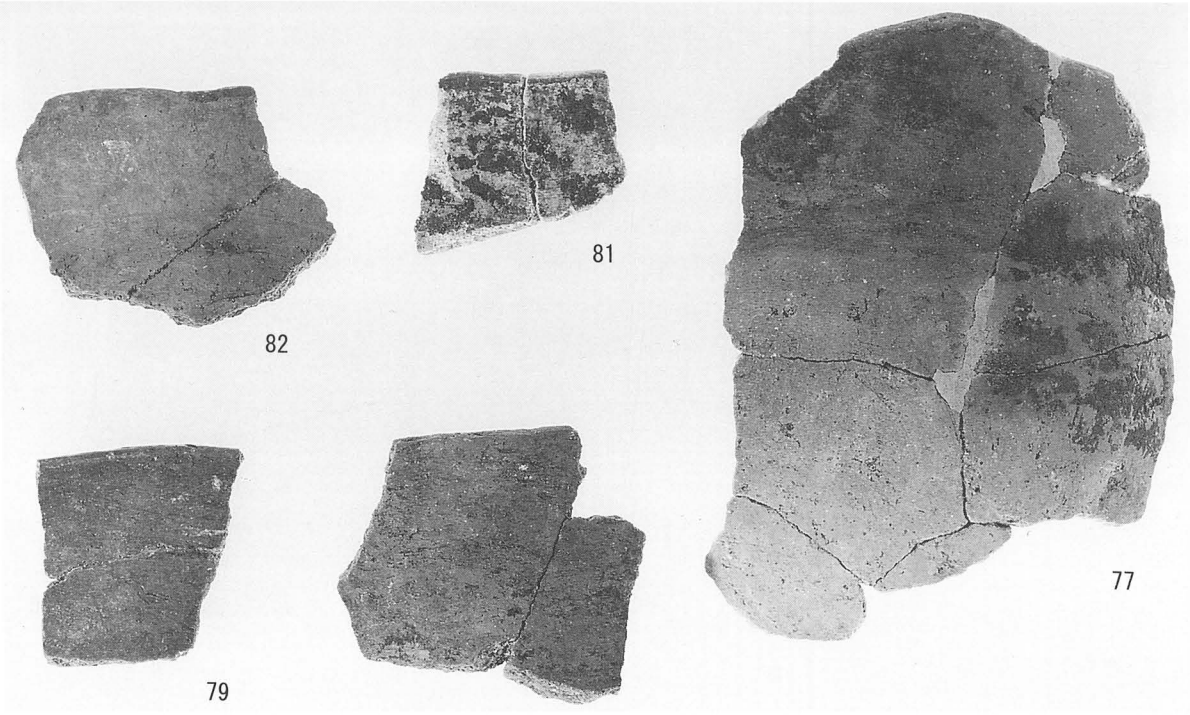


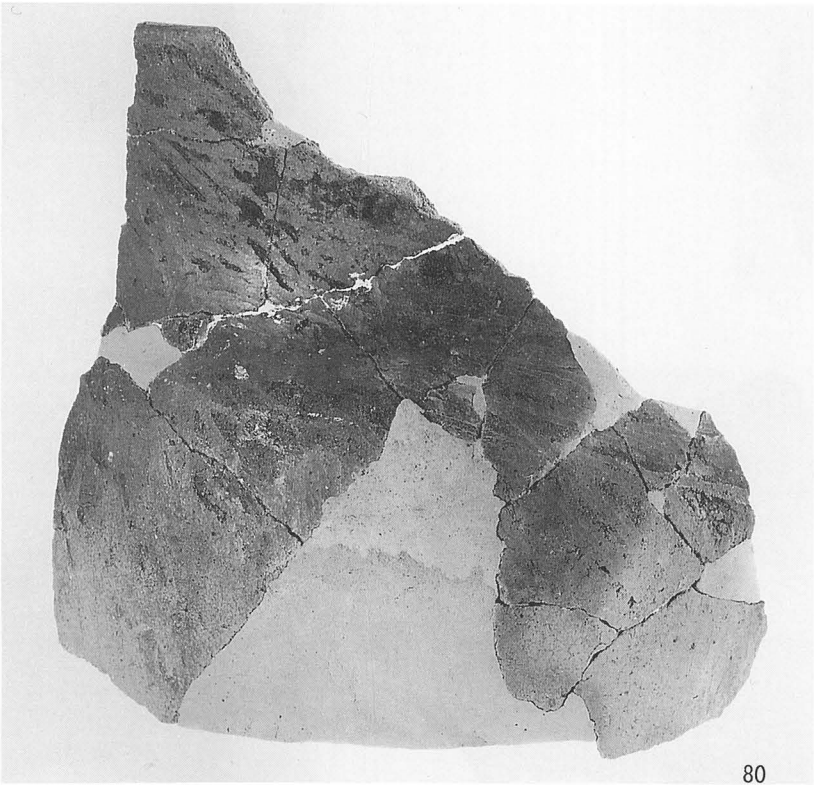
縄文時代前期末～中期初頭・後期の土器

図版６



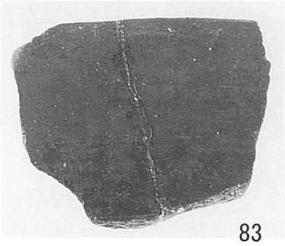
縄文時代後晩期の土器





縄文時代後晩期の土器

図版８

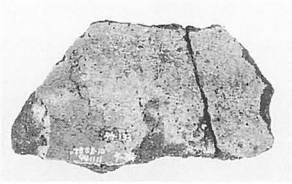

83

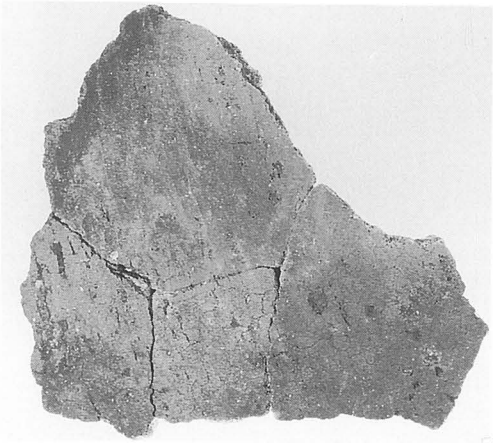
85

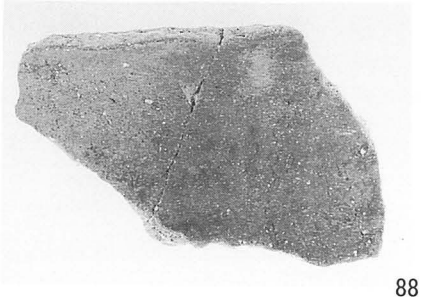
84

86

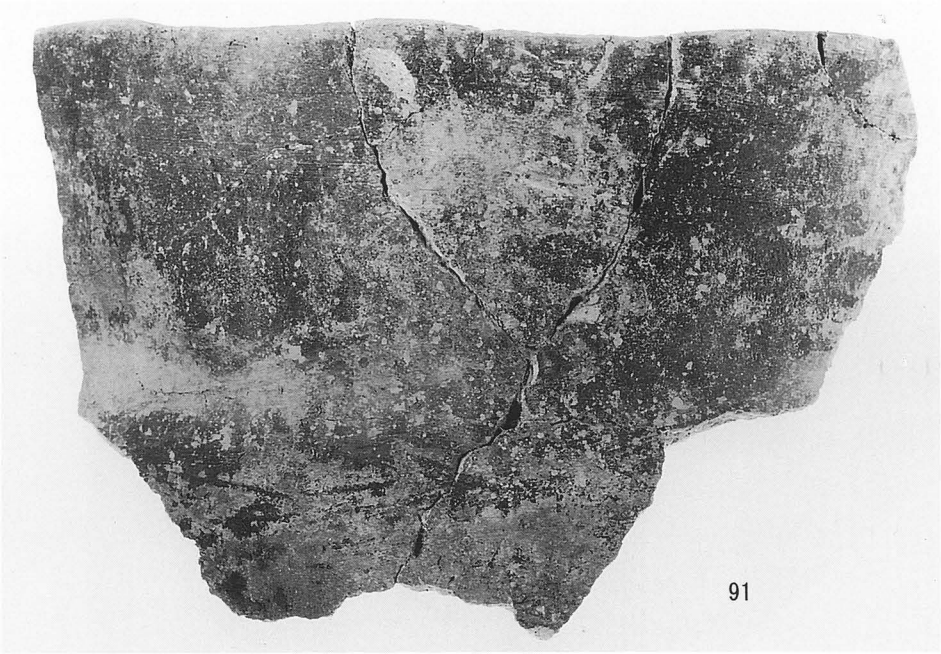
87

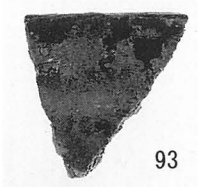

90


89

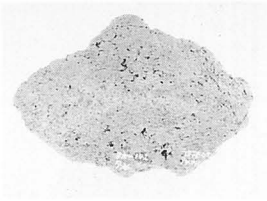

88

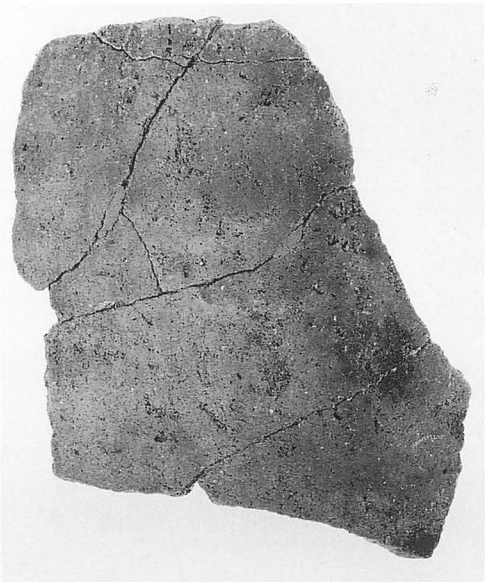
縄文時代後晩期の土器

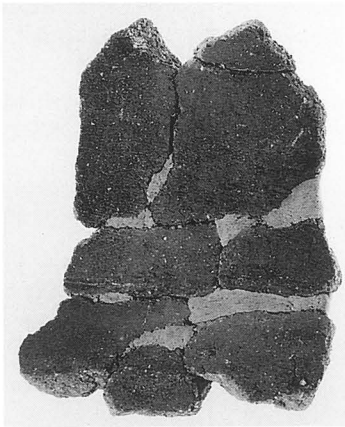

91


93

92


97

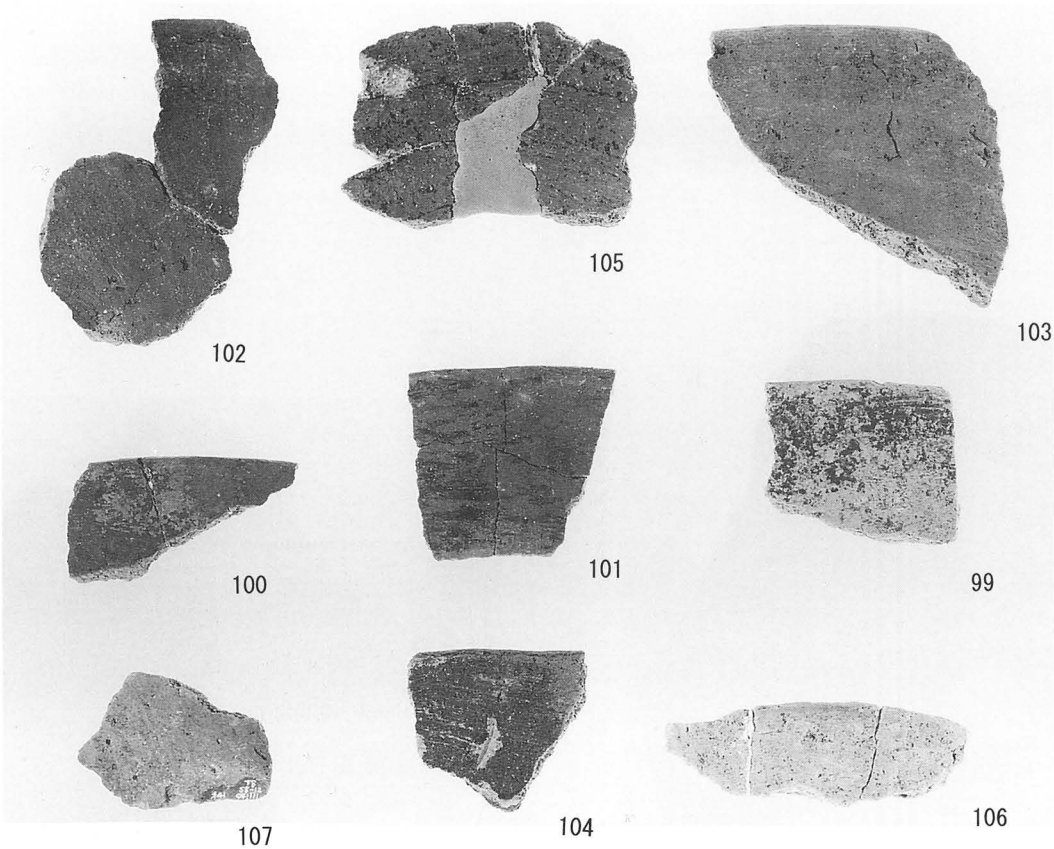

96


95

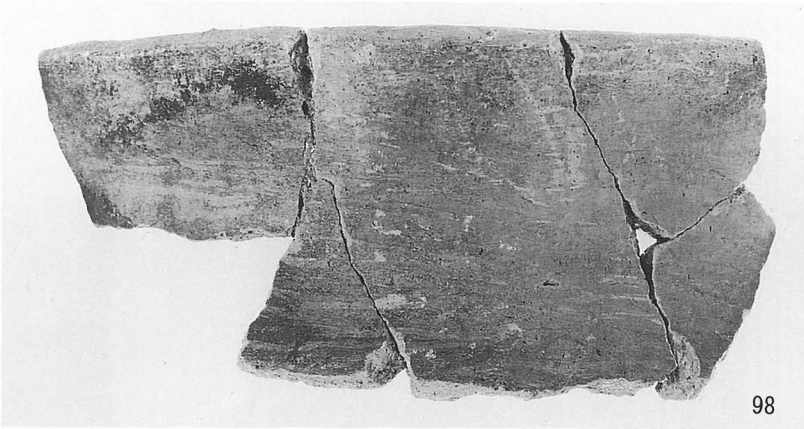
縄文時代後晩期の土器

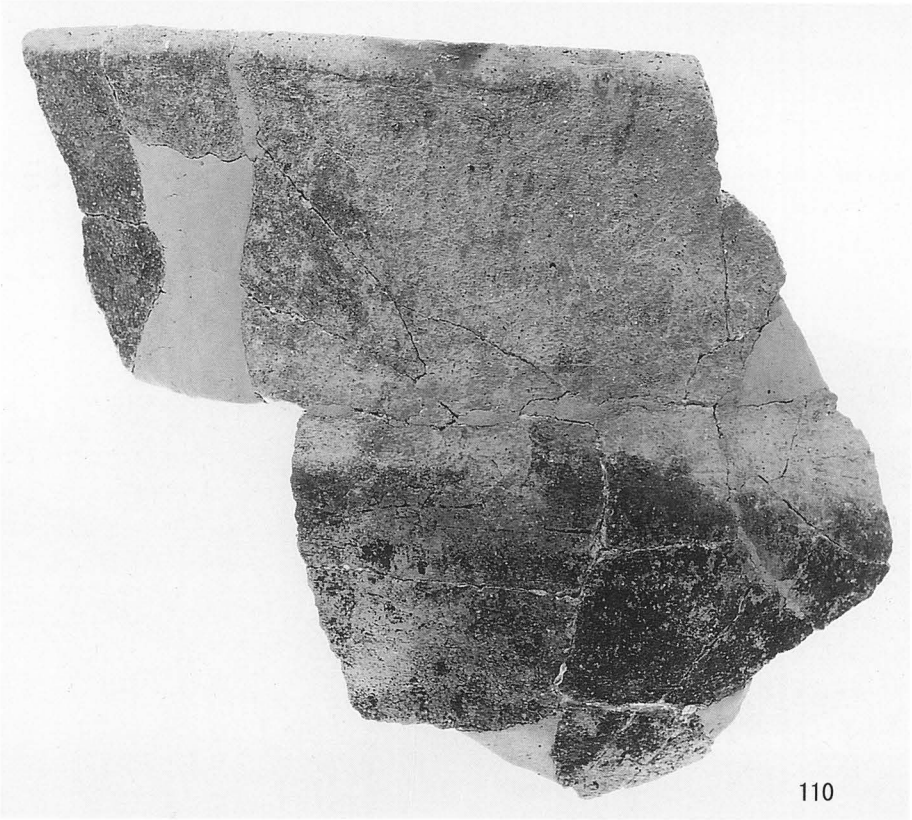
図版10

94



縄文時代後晩期の土器

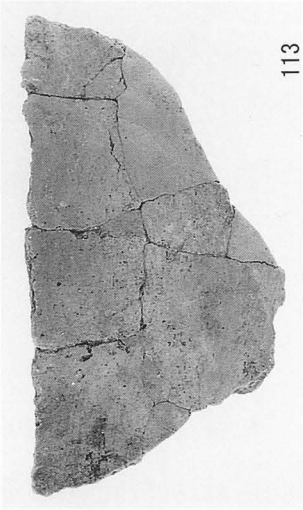




縄文時代後晩期の土器

図版12

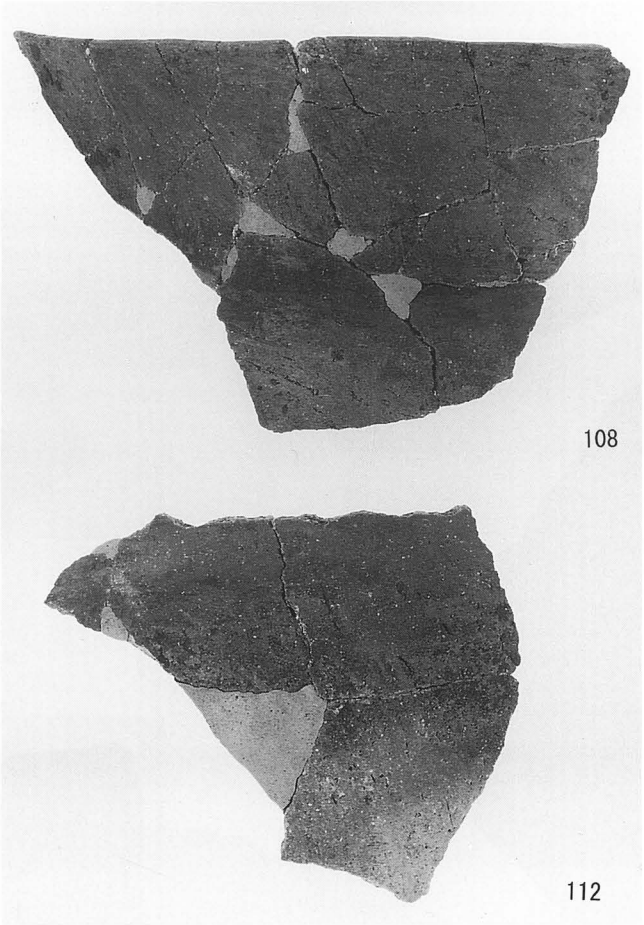
109



113

111

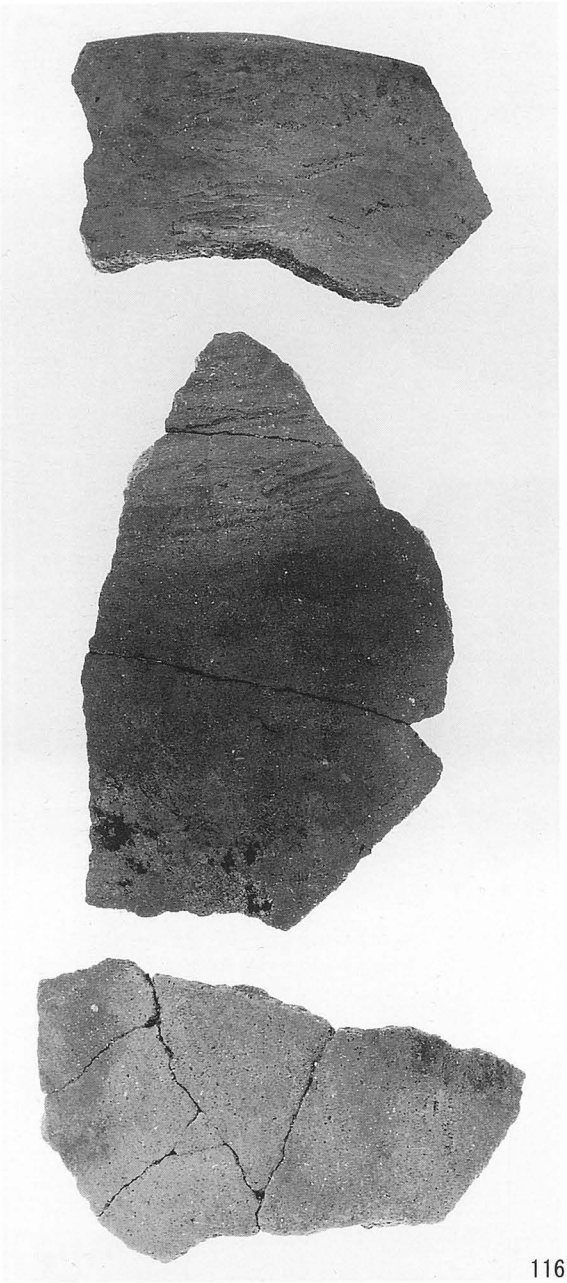
縄文時代後晩期の土器



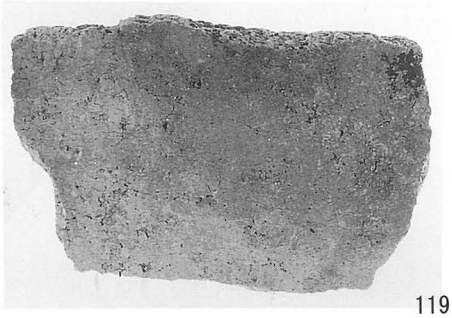
115　114

縄文時代後晩期の土器

図版14

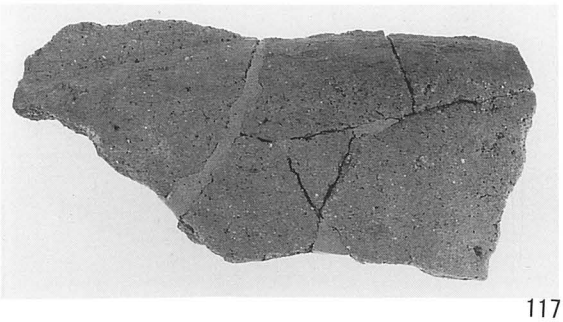


116

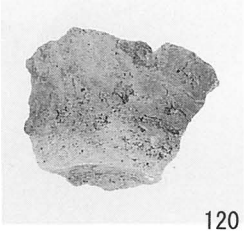


119

118

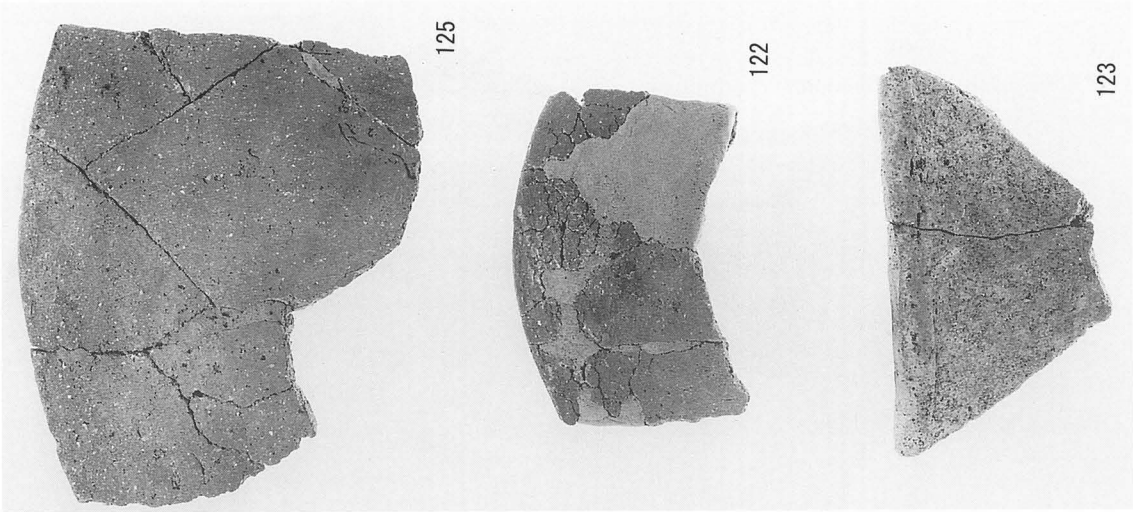


117



120

縄文時代後晩期の土器



縄文時代後晩期の土器